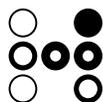


Hyperion® Analyzer

リリース6.5

 ユーザーズガイド（入門編）



Hyperion®

Hyperion Solutions Corporation

P/N: P/N: D750065000

Copyright 1995 - 2003 Hyperion Solutions Corporation. All rights reserved.

U.S. Patent Numbers: 5,359,724 and 6,317,750

アメリカ合衆国特許番号 : 5,359,724 および 6,317,750

Hyperion, Essbase, and the "H" logo are registered trademarks, and Hyperion Solutions is a trademark of Hyperion Solutions Corporation.

Hyperion、Essbase および "H" ロゴは、Hyperion Solutions Corporation の登録商標です。Hyperion Solutions は同社の商標です。

All other brand and product names are trademarks or registered trademarks of their respective holders.

他の会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

No portion of this manual may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic or mechanical, including photocopying, recording, or information storage and retrieval systems, for any purpose other than the purchaser's personal use, without the express written permission of Hyperion Solutions Corporation.

購入者個人で使用する場合を除き、Hyperion Solutions Corporation の書面による明示的な許可なく、複写、録音、情報蓄積および検索システム等の電子的、機械的ないかなる形式または手段によっても、本書を複製または転送することはできません。

Notice: The information contained in this document is subject to change without notice. Hyperion Solutions Corporation shall not be liable for errors contained herein or consequential damages in connection with the furnishing, performance, or use of this material

注意 : 本書に記載されている情報は、予告なしに変更される場合があります。Hyperion Solutions Corporation は、本書の誤り、またはその設置、性能、あるいは使用によって生じた損害に関して一切責任を負いません。

Hyperion Solutions Corporation
1344 Crossman Avenue
Sunnyvale, CA 94089

Printed in the U.S.A.

目次

第 1 章 : Hyperion Analyzer の概要	19
Hyperion Analyzer のコンポーネント	19
ユーザの種類	22
評価ユーザ	22
システム管理者	23
パワーユーザ	24
情報利用者	25
開発者	25
第 2 章 : 多次元分析の概要	27
オンライン分析処理	27
次元とメンバ	27
多次元キューブ	27
次元階層	28
家系	28
世代とレベル	29
非集約次元	30
属性	31
疎次元と密次元	31
レポートの整理	32
レポート	32
レポート グループ	32
プロパティ	32

第 3 章 : Hyperion Analyzer Java Web Client インターフェイス	33
Hyperion Analyzer Java Web Client の起動	33
ユーザ インターフェイス モード	34
Hyperion Analyzer デスクトップ	35
標準モード	36
アプリケーション ウィンドウのタイトルバー	37
メニューバー	37
ツールバー	38
詳細バー	38
レポートタブ バー	39
ステータスバー	39
データの編集モード	40
レポートのデザイン モード	41
メイン表示パネルのコンポーネント	42
情報パネル	42
ページ コントロール パネル	44
フィルタパネル	44
メイン表示パネルの右クリック メニュー	45
ユーザ インターフェイス要素の表示と非表示	45
インターフェイス要素の非表示	46
第 4 章 : Java Web Client の使用	47
レポートを開く	47
レポート間の移動	48
表示形式	49
スプレッドシート	49
チャート	50
ピンボード	51
表示形式の変更	51
カスタム レポート	52
レポート間の移動	52
ページの移動	53
スワップと移動	53
ドリル	54
ドリルリンク	55

レポートの書式	55
書式オプションの適用範囲	56
レポートの保存	57
レポートの配布	58
[ユーザ グループで共有] レポート グループ プロパティ	58
レポートのロック	58
レポートとレポート グループの外部配布	58
第 5 章 : Hyperion Analyzer HTML Web Client インターフェイス	61
Hyperion Analyzer HTML Web Client の起動	61
HTML Web Client ユーザ インターフェイス	62
ユーザ インターフェイス モード	62
Hyperion Analyzer デスクトップ	63
標準モード	64
ツールバー	65
データの編集モード	67
メイン表示パネル	68
情報パネル	68
ページ コントロール パネル	69
フィルタパネル	70
レポート マネージャ パネル	70
ユーザ インターフェイス要素の制御	71
インターフェイス要素の非表示	71
メイン表示パネルのリサイズ	72
ユーザ インターフェイスのスタイル設定	73
第 6 章 : HTML Web Client の使用	75
レポートを開く	75
レポート間の移動	76
表示形式	76
スプレッドシート	77
チャート	77
ピンボード	78
表示形式の変更	79

目次

レポートの移動	79
ページの移動	80
移動	81
ドリル	81
ドリルリンク	82
レポートの保存	82
レポートの配布	83
[ユーザグループで共有] レポート グループ プロパティ	84
HTML Web Client を使用したレポートの作成	84
レポートデータの編集	85
レポートの印刷	86
Java Web Client での表示	86
ログオフ	86
第7章: サンプル レポート グループのツアー	87
Hyperion Analyzer Java Web Client の起動	87
サンプル レポート グループを開く	87
製品売上げレポート	88
主な機能	89
製品収益率レポート	89
主な機能	90
地域分析レポート	92
主な機能	92
KPI スコアカード レポート	94
主な機能	94
経費分析レポート	96
主な機能	97
州の順位付けレポート	98
主な機能	98
上位 / 下位の州レポート	100
主な機能	100
限界収益点レポート	101
主な機能	102

製品別シェア レポート	103
主な機能.....	104
製品売上予測レポート	105
主な機能.....	105
売上予測レポート.....	106
主な機能.....	107
第 8 章：レポートの作成	109
新規レポートの作成の概要	109
Hyperion Analyzer Java Web Client の起動	110
新規レポート ウィザードの起動	110
表示形式の選択	110
データベース接続の選択.....	111
Cube Navigator.....	113
次元ブラウザによる次元の選択メンバの定義.....	114
動的なメンバ選択.....	116
クエリの定義.....	116
Year 次元の定義	117
Scenario 次元の定義	117
Product 次元の定義	117
Market 次元の定義	118
Measures 次元の定義.....	118
Package Type 次元の定義.....	119
Cube Navigator のオプション	120
クエリの送信.....	120
レポートの保存.....	121
スプレッドシートの書式設定	122
背景色の設定.....	122
行のバンドの色の設定.....	123
ヘッダーのフォントの設定.....	123
トラフィック ライト定義の作成	124
トラフィック ライトの定義	124
トラフィック ライトの範囲の色の設定.....	125
トラフィック ライトの範囲の透明度の設定	126

算出メンバの作成	127
差異の計算定義の実行	128
パーセント差異の計算定義の実行	128
Web ページとしてレポートを保存	130
Web ページとして保存するためのパラメータの設定	131
レポートの Web への発行	131
第 9 章 : カスタム レポートの作成	133
カスタム レポートの作成の概要	133
Hyperion Analyzer Java Web Client の起動	134
レポートのデザイン モードの起動	134
レポートのデザイン モードのインターフェイス	136
コンポーネント ツールバー	137
メイン レポート パネルの作成	139
表示領域全体の使用	140
選択されたコンポーネント	140
スプレッドシート データ オブジェクトの追加	140
コンポーネントの移動	141
ダイナミック テキスト ラベルの追加	141
コンポーネントのリサイズ	142
チャート データ オブジェクトの追加	142
コンポーネントの配置	143
コンポーネントの配置手順	144
選択コントロールの作成	145
コンポーネントの枠線の書式設定	146
ホットスポットの作成	147
画像パネルの作成	147
サービス ボタンの作成	148
サービス ボタンの透明度の設定	148
サービス ボタンとイメージ パネルの移動	148
標準モードに戻る	149

第 10 章：高度な機能の概要	151
Web ブラウザを使用した、場所を選ばない分析ツール	151
優れた拡張性と処理能力.....	151
オープン環境のクロスプラットフォーム対応.....	151
Web への完全対応	152
Microsoft Windows 対応 Java アプリケーション	152
高度なグラフィカルユーザ インターフェイス.....	152
簡単なレポート作成機能.....	152
レポート作成ウィザード	152
Cube Navigator	153
次元ブラウザ.....	153
カスタム レポート	154
背景を追加できるスプレッドシート	154
柔軟性のある書式設定	154
スプレッドシート オプション.....	155
ピンボード デザイナ	155
チャート プロパティ	155
非対称分析.....	155
複数のチャート	155
セカンダリ Y 軸	156
情報のカスタマイズ	156
画面表示と操作性のカスタマイズ.....	156
データベース接続のカスタマイズ.....	156
個人変数.....	156
データの視点 (POV).....	156
分析ツール マネージャ	157
トラフィック ライト.....	157
計算式.....	157
表示 / 非表示の制限	158
値による表示 / 非表示の制限	159
色による表示 / 非表示の制限	159
メンバによる表示 / 非表示の制限	159
クライアント側のソート.....	159
上位 / 下位のみ取得	159
データの制限.....	160

目次

Hyperion Essbase 機能の使用	160
データの編集	160
値の欠如した行、ゼロ値、および共有メンバの除去	161
ラベルのモード	161
選択されたメンバの表示	161
ドリルの設定	161
選択項目とメンバとの置換	161
選択項目へのメンバの追加	162
外部情報へのアクセス	162
リレーショナルデータの分析	162
リレーショナル ドリルスルー	162
Essbase Integration Services ドリルスルー	162
レポートへのリンク	163
外部メディアへのリンク	163
分析結果の配布	163
レポート グループのプロパティ	163
レポート グループの共有と配布	164
レポートのプロパティ	164
Microsoft Excel へのエクスポート	164
クリップボードへのエクスポート	164
強化された出力機能	165
Hyperion Analyzer のカスタマイズと拡張	165
用語集	167
索引	171

はじめに

『Hyperion Analyzer ユーザーズ ガイド (入門編)』へようこそ。ここでは、次の項目について説明します。

- xi ページの「本書の目的」
- xi ページの「対象ユーザ」
- xi ページの「本書の構成」
- xii ページの「マニュアルの入手方法」
- xv ページの「表記規則」
- xvi ページの「その他のサポート」

本書の目的

このガイドは、Hyperion Analyzer の新規ユーザを対象に、Hyperion Analyzer Java Web Client および Hyperion Analyzer HTML Web Client の概要と使用方法を説明しています。

対象ユーザ

このガイドは Hyperion Analyzer を初めて使用するユーザを対象にしていますが、機能および概念的な情報に関する説明はすべてのユーザに役立ちます。

本書の構成

このガイドには、次の情報が記載されています。

第1章「Hyperion Analyzer の概要」では、Hyperion Analyzer と主要なユーザの種類を紹介します。

第2章「多次元分析の概要」では、多次元分析の概要について説明します。

第3章「Hyperion Analyzer Java Web Client インターフェイス」では、Hyperion Analyzer Java Web Client ユーザ インターフェイスについて説明します。

第4章「Java Web Client の使用」では、Hyperion Analyzer Java Web Client を使用したレポートの開き方や、レポートの書式設定、保存、配布方法について説明します。

第5章「Hyperion Analyzer HTML Web Client インターフェイス」では、Hyperion Analyzer HTML Web Client のユーザ インターフェイスについて説明します。

第6章「HTML Web Client の使用」では、HTML Web Client (シンクライアント) を使用したレポートの開き方や、レポートの書式設定、保存、配布方法について説明します。

第7章「サンプル レポート グループのツアー」では、一連のサンプル レポートについて説明し、ユーザ独自のレポートで活用できる機能を紹介します。

第8章「レポートの作成」では、Hyperion Analyzer を使用した簡単なレポートの作成手順を説明します。

第9章「カスタム レポートの作成」では、レポートのデザイン モードを使用した高度なカスタム レポートの作成手順を説明します。

第10章「高度な機能の概要」では、Hyperion Analyzer で利用できる数多くの高度な機能について説明します。

「用語集」には、主要な用語とその定義が記載されています。

「索引」では、Hyperion Analyzer で使われる用語とその参照ページを示します。

マニュアルの入手方法

Hyperion Analyzer のマニュアルはすべて、下記の場所から入手できます。

- HTML 形式の『Hyperion Analyzer 情報マップ』には、Hyperion Analyzer クライアントを起動して、[ヘルプ]ボタンをクリックするか、[ヘルプ]メニューから[情報マップ]を選択してアクセスできます。
- オンライン ヘルプには、各製品からアクセスできます。製品を起動して、[ヘルプ]ボタンまたは[ヘルプ]メニューの該当項目をクリックします。
- 米国 Hyperion Solutions の Web サイト (<http://www.hyperion.com>) の情報を参照します。

- Hyperion Download Center (ダウンロードセンター、<http://hyperion.subscribenet.com>) へアクセスします。

利用可能なマニュアル

Hyperion Analyzer には、次のマニュアルが用意されています。

- 『Hyperion Analyzer 情報マップ』 - すべての Hyperion Analyzer マニュアルに関する説明とその保存場所が記載されています。
- 『Hyperion Analyzer 新機能』 - 今回リリースされた Hyperion Analyzer の新しい機能について説明しています。
- 『Hyperion Analyzer Java Web Client オンライン ヘルプ』 - ナビゲーション、レポート作成および Java Web Client に関して詳細に説明しています。
- 『Hyperion Analyzer HTML Web Client オンライン ヘルプ』 - ナビゲーション、レポート作成および Hyperion Analyzer HTML Web Client 特有の機能について説明しています。
- 『Hyperion Analyzer インストール ガイド』 - Hyperion Analyzer のインストールと構成に不可欠なインストール手順、移行およびインストール オプションについて説明しています。また、Hyperion Analyzer レポジトリの設定、サイレントインストールの実行、および Hyperion Analyzer サンプルのインストールに関する手順も説明しています。
- 『Hyperion Analyzer Administrator's Guide』 (管理者ガイド、英語版) - 管理者を対象にインストール、移行および製品の機能について説明しています。また、Hyperion Analyzer Administration Tools および Hyperion Analyzer Analysis Server の概要と、Hyperion Analyzer を構成するためのヒントが含まれています。
- 『Hyperion Analyzer Administration Tools オンライン ヘルプ』 (管理ツールのオンラインヘルプ、英語版) - ユーザ、ユーザグループおよびデータベース接続の管理について説明しています。また、Hyperion Analyzer Analysis Server 管理のオンラインヘルプも提供されています。管理ツールのオンラインヘルプにアクセスするには、Hyperion Analyzer Administration Tools を起動して、[ヘルプ] ボタンか [ヘルプ] メニューから [目次] および [キーワード] を選択します。
- 『Hyperion Analyzer Readme』 - 既知の問題、修正事項および製品開発に関する最新の情報が記されています。

- ▶ Hyperion Solutions Web サイトで配布されているマニュアルを入手するには、次のようにします。

1. <http://www.hyperion.com> にログオンします。
2. メニューバーから [Support] を選択します。
3. ユーザ名とパスワードを入力し、[Login] をクリックします。

ヒント：ユーザ名とパスワードがない場合は、ログイン ページの [Register] をクリックして取得してください。

4. [Software/Documentation] を選択します。
5. [Product] リスト ボックスの [Hyperion Analyzer] を選択します。
6. [Display] リスト ボックスの [Documentation] を選択し、[Submit] をクリックします。

- ▶ Hyperion Download Center からマニュアルを入手するには、次のようにします。

1. <http://hyperion.subscribenet.com> にログオンします。
2. [Login ID] と [Password] テキスト ボックスに、取得したログイン ID とパスワードを入力し、[Login] をクリックします。
3. ダウンロードセンターのアカウントを複数取得している場合は、いずれかのアカウントを使用します。
4. [Product List] から [Hyperion Analyzer] を選択します。
5. [New Releases] タブをクリックし、[6.5] を選択します。

その他のマニュアル

Hyperion Analyzer のマニュアルの他にも、次の参考資料を参照してください。

- 『Hyperion Essbase データベース管理者ガイド』
- オペレーティング システムのマニュアル一式
- リレーショナル データベースのマニュアル一式

表記規則

次の表に、このガイドで使用されている表記規則を示します。

表 i: このガイドの表記規則

項目	意味
	矢印は、連続する手順の開始を示します。
角かっこ []	コード例などで使用されている場合、角かっこで囲まれた要素はオプションを示します。本文中で使われる場合は、画面に表示される UI 要素を示します。
太字	手順内で使用されている太字は、主要なインターフェイス要素を示します。
大文字	大文字はコマンドとさまざまな ID を示します。 (例: CLEARBLOCK コマンド)
[Ctrl] + [0]	プラス記号 (+) によって示されるキー操作の組み合わせは、最初のキーを押したまま、次のキーを押すことを示します。プラス記号 (+) は入力しません。
Example text	クーリエフォントは、コードまたは構文例を示します。
<i>Courier italics</i>	クーリエフォントの斜体テキストは、コマンド構文の変数フィールドを表します。クーリエ斜体で示された変数の場所には、値を代入します。
<i>ARBORPATH</i>	環境変数 <i>ARBORPATH</i> が斜体で表示されている場合は、ユーザのサイトの <i>ARBORPATH</i> 値に置き換えます。
<i>n, x</i>	斜体の <i>n</i> は変数値を表し、斜体の <i>x</i> は変数値またはアルファベットを表します。変数は通常、式の中に含まれています。
省略記号 (...)	省略記号は、例からテキストが省略されていることを示します。
マウスの種類	このガイドで説明されている例および手順は、右手用のマウスを対象としています。左手用のマウスを使用している場合は、適宜手順を調整してください。
メニュー オプション	メニューのオプションは、次のように示します。角かっこ内を例で示すように適切なオプション名で置き換えてください。 [メニュー名] > [メニューコマンド] > [拡張メニュー コマンド] 例: 1. [ファイル] > [デスクトップ] > [勘定科目] の順に選択します。

その他のサポート

マニュアルやオンライン ヘルプの他にも、製品情報について次のサポートが提供されています。

印刷版マニュアルの注文方法

印刷版マニュアルのご注文は、次の方法でお願いします。

- Hyperion Solutions の Web サイト (<http://www.hyperion.com>) にアクセスしてください。
- 米国内からは、Hyperion Solutions Customer Support (877-901-4975) にご連絡ください。

トレーニングサービス

Hyperion では、インストラクタによるトレーニング、カスタム トレーニングおよび e-トレーニングを含む、各種トレーニング オプションを提供しています。このサービスはすべての Hyperion アプリケーションと技術を網羅しており、エンド ユーザ、管理者、および情報システム (IS) のプロフェッショナル向けに提供されています。

インストラクタによるトレーニングは、多様でグローバルな Hyperion のお客様に合わせた形式と場所で提供されます。Hyperion 認定トレーニング センターでは、Hyperion が開発したコースを提供しています。カスタム トレーニング サービスのトレーニングでは、ユーザの生産性を高め、日常業務を円滑に遂行するためのノウハウが提供されます。トレーニングで使われるアプリケーションは、従業員が実際の業務で使用するものと同じように構成、調整されています。e-トレーニングと呼ばれるサービスは、コンピュータベース トレーニング、Web ベース トレーニング、双方向仮想クラスルーム トレーニングの総称であり、ユーザが製品の機能を実際に使用しながら学ぶための費用効率の高い手段を提供します。コンピュータベースのトレーニング (CBT) および Web ベースのトレーニング (WBT) は、所在地に関係なく利用できる、ユーザにとって便利で高品質な対話型トレーニングです。

日本でのトレーニングの詳細は、Hyperion トレーニング センター (03-5545-9280) にご照会ください。弊社の Web サイト

<http://www.hyperion.co.jp/training/index.html> でもご案内しております。

コンサルティング サービス

Hyperion コンサルティング サービスは、お客様が Hyperion 製品を最大限に活用し、投資の利益を最大化するための支援を行います。経験豊富な Hyperion コンサルタントと Hyperion の提携パートナー会社が、レポートリング、分析、モデリング、およびプランニングなどの特定の要件に適合したソリューションによって組織を支援いたします。特定のサービスとして、実装コンサルティング、カスタム ビジネス ソリューション、データ統合、およびテクニカル コンサルティングなどを行います。これ以外にも、Hyperion はさまざまなサービス パッケージと設計の見直しを提供します。

日本でのコンサルティング サービスの詳細は、サービス代表 (03-5545-9280) にお問い合わせください。

テクニカル サポート

ハイペリオンのパートナー様およびハイペリオンと直接保守契約を締結されているお客様はホットライン サポートをご利用いただけます。電話 (03-5545-9320) または電子メール (japan_support@hyperion.com) のいずれかの方法でご連絡ください。なお、パートナー様経由でハイペリオン製品をご購入いただきましたお客様の製品サポートにつきましては、ご購入元のパートナー様サポート部門にお問い合わせください。

- Web ベースのサポート、または利用可能なサポート オプションの詳細は、弊社の Web サイト (<http://www.hyperion.co.jp>) を参照してください。または、日本国内ではサービス代表 (03-5545-9280) にご連絡ください。

マニュアルに対するご意見、ご感想

Hyperion では、充実した、情報の正確なマニュアルをお届けできるよう、ユーザの皆様からの貴重なご意見、ご感想をお待ちしています。マニュアルに関するご意見、ご感想を、弊社サイト (<http://www.hyperion.com>) にあるアンケートにご記入いただければ幸いです (ただし、アンケートは現在、英語のみとなっております)。

Hyperion Analyzer の概要

Hyperion Analyzer により、あらゆる組織で、未処理のデータを価値ある企業情報に変えることができます。

Hyperion Analyzer を使用すると、操作の簡単なグラフィカルインターフェイスを使用して、高度な多次元データやリレーショナルデータを分析できます。これにより、企業データをビジネスの成長および利益の拡大に活かしたり、新たに現れる問題を明らかにしたり、ソリューションの導入前にそれらをテストしたりすることができます。

Hyperion Analyzer には優れた分析ツールセットが備えられており、Hyperion Essbase サーバの機能も同時に利用できます。また、Hyperion Analyzer を使用すれば、Hyperion Financial Management やリレーショナル データベースからのデータを取得して分析することができます。

分析レポートは HTML Web コンテンツとして保存し、その URL を参照することで内部および外部に配布できます。通常、Hyperion Analyzer は、売上や主要実績、財政および予測分析を行うために使用します。

Hyperion Analyzer のコンポーネント

Hyperion Analyzer は、次のコンポーネントで構成されています。

- 4 種類のクライアント アプリケーション
- 分析サーバ
- レポジトリ
- API ツールキット

レポジトリは、Hyperion Analyzer システムデータ、ユーザ名、ユーザ設定およびレポート定義をリレーショナル データベース テーブルにまとめて格納するためのアプリケーションです。

Hyperion Analyzer Analysis Server は、レポジトリ、Web Client および Hyperion Analyzer Administration Tool 間でレポート定義やシステム情報の通信を行います。

Hyperion Analyzer Administration Tools クライアントでは、サポートしている Web ブラウザに対して 100% Java グラフィカルインターフェイスを提供し、ユーザ、ユーザグループおよびデータベース接続を管理できます。また、複数の管理ユーティリティへのアクセスも提供します。

操作の簡単なグラフィカル ユーザ インターフェイスを持つ Hyperion Analyzer Java Web Client では、Hyperion Essbase およびリレーショナルデータのオンライン分析が可能です。ユーザは、コードの記述をしなくても、カスタム分析アプリケーションの設計とデザインを行うことができます。

Hyperion Analyzer Windows Client は、操作の簡単な Java Web Client と同じインターフェイスおよび機能を持つ、Hyperion Analyzer でサポートしている Microsoft Windows オペレーティング システム用のスタンドアロン型 Java アプリケーションです。

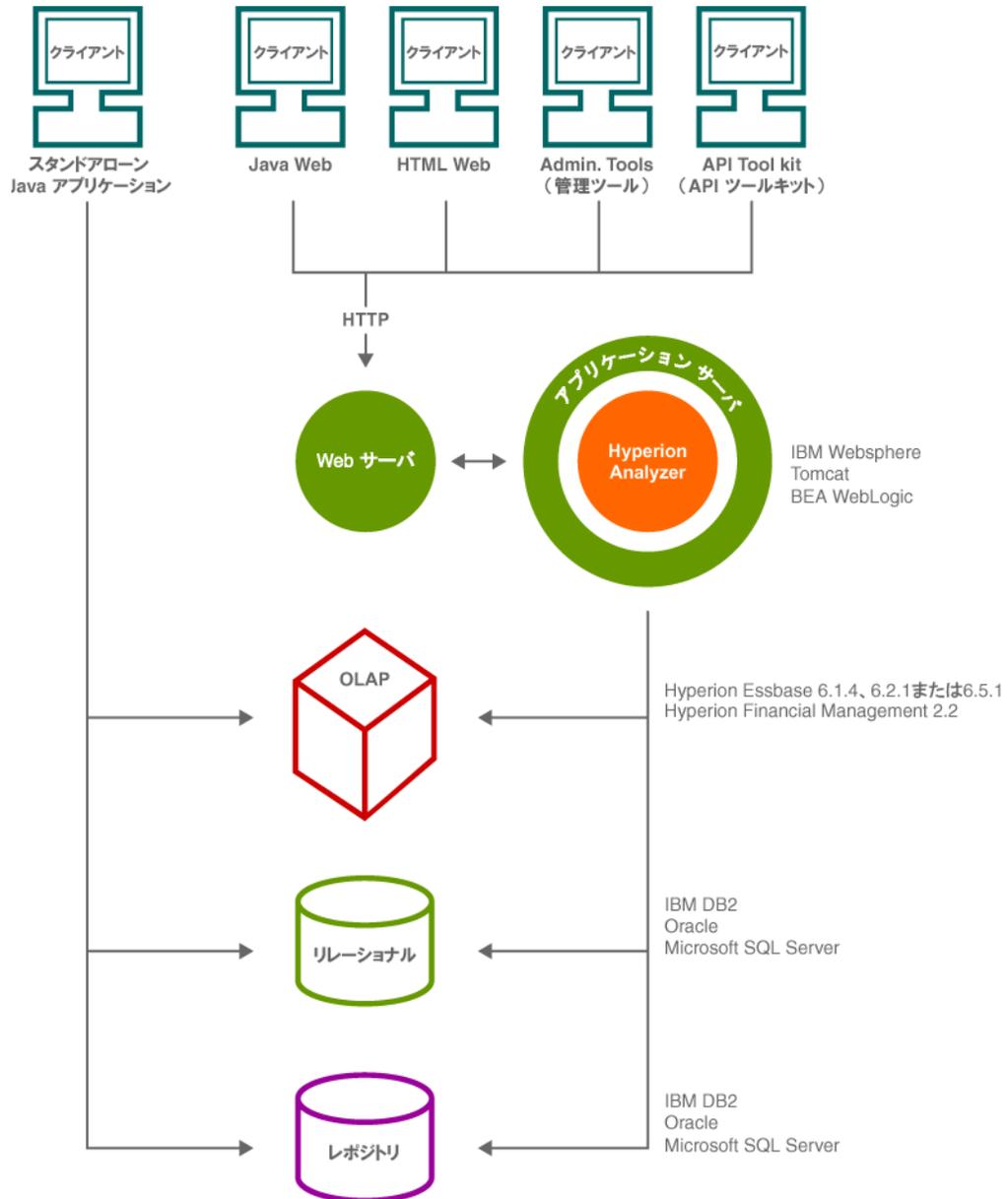
Hyperion Analyzer HTML Web Client は、100% HTML シン クライアントで、Hyperion Analyzer でサポートしている Web ブラウザから使用できます。Hyperion Analyzer HTML Web Client は、高度なデザインやコンテンツ作成機能を必要としない、情報利用者向けに設計されています。

Hyperion Analyzer API Toolkit を使用すると、開発者は Hyperion Analyzer Java Web Client の画面表示と機能をカスタム Web アプリケーションに統合できます。

Hyperion Analyzer のアーキテクチャ

次の図は、Hyperion Analyzer のアーキテクチャを表したもので、さまざまなコンポーネントによる相互作用を示しています。

図 1: Hyperion Analyzer のアーキテクチャ



ユーザの種類

Hyperion Analyzer では、ユーザを次の 5 種類に分けることができます。

表 1: Hyperion Analyzer ユーザ

ユーザ	説明
システム管理者	Hyperion Analyzer のインストール、Hyperion Analyzer と Hyperion Analyzer でサポートしているプラットフォームの設定および管理を行います。
パワーユーザ/ 一般ユーザ	レポートをデザインし、分析と閲覧のためのコンテンツを作成します。また、情報利用者用に分析の実施と分析内容の配布を行います。
情報利用者	分析内容を考察します。
開発者	Hyperion Analyzer の外観と操作性、および機能をカスタム Web アプリケーションに取り入れます。
評価ユーザ	Hyperion Analyzer の使用と便宜性が企業に向いているかどうかを評価します。

次の表は、Hyperion Analyzer を使い始めるときに推奨されるタスクをユーザの種類別に示しています。

評価ユーザ

表 2: 評価ユーザのタスク

目的	タスク
1. 無料の評価版ソフトウェアをダウンロードする。	Hyperion Web サイト (www.hyperion.com) からソフトウェアをダウンロードしてください。
2. Hyperion Analyzer の概念および使い方に慣れ親しむ。	このガイドの第 1 章～第 5 章の Java Web Client と HTML Web Client の説明を読んでください。
3. Hyperion Analyzer システムを評価する。	第 6 章～第 8 章の手順に従ってサンプルレポートを参照し、新しいレポートを作成します。

表2: 評価ユーザのタスク (続き)

目的	タスク
4. Hyperion Analyzer の潜在能力および便宜性を評価する。	このガイドを最後まで読んでください。 Hyperion Analyzer の高度な機能の概要は、第9章で説明されています。
5. 既存のデータソースを使用してさらに厳しく評価すべきかどうかを決める。	厳しく評価する必要がある場合は、システム管理者に連絡し、Hyperion Analyzer 管理者の目的を遂行してください。

評価版インストールでは、30日間の評価期間の間、Hyperion Analyzer のすべてのコンポーネントをインストールして使用できます。評価期間が終了する際、登録アプリケーションを実行するか、またはロック解除コードを使用して Hyperion Analyzer を再インストールできます。

システム管理者

表3: Hyperion Analyzer の管理者のタスク

目的	タスク
1. ソフトウェアをダウンロードする。	Hyperion Web サイト (www.hyperion.com) からソフトウェアをダウンロードしてください。
2. 今回のリリースの Hyperion Analyzer に関する最新の問題を検証する。	『Hyperion Analyzer Readme』を読んでください。
3. Hyperion Analyzer のシステム要件を確認し、インストール オプションを選択する。	『Hyperion Analyzer インストール ガイド』を読んでください。
4. Hyperion Analyzer をインストールして設定する。	『Hyperion Analyzer インストール ガイド』の手順に従ってください。
5. Hyperion Analyzer サンプルを設定して導入する。	『Hyperion Analyzer インストール ガイド』の「Hyperion Analyzer サンプルのインストール」を参照してください。

表3: Hyperion Analyzer の管理者のタスク (続き)

目的	タスク
6. 環境をテストして検証する。	Hyperion Analyzer の機能を最大限に発揮させるには、Hyperion Analyzer Administration Tools のオンライン ヘルプを参照して Hyperion Analyzer Administration Tools Console を使用してください。
7. Hyperion Analyzer の概念および使い方に慣れ親しむ。	このガイドを最後まで読んでください。
8. 管理およびメンテナンスの方法を決定する。	ユーザ名、パスワード、ユーザ グループおよびデータベース接続の設定に関する情報と手順は、『Hyperion Analyzer Administrator's Guide』をお読みください。
9. Hyperion Analyzer をユーザに提供する。	

パワーユーザ

表4: パワーユーザのタスク

目的	タスク
1. Hyperion Analyzer の概念および使い方に慣れ親しむ。	このガイドの第 1 章 ~ 第 5 章の Java Web Client と HTML Web Client の説明を読んでください。
2. Hyperion Analyzer システムを評価する。	第 6 章 ~ 第 8 章の手順に従ってサンプル レポートを参照し、新しいレポートを作成します。
3. Hyperion Analyzer の潜在能力および便宜性を評価する。	このガイドを最後まで読んでください。Hyperion Analyzer の高度な機能の概要は、第 9 章で説明されています。
4. Hyperion Analyzer Java Web Client に関するその他の情報を探す。	『Hyperion Analyzer 情報マップ』にあるマニュアルの一覧を参照してください。『Hyperion Analyzer Java Web Client オンライン ヘルプ』も参照してください。

情報利用者

表5: 情報利用者のタスク

目的	タスク
1. Hyperion Analyzer の概念および使い方に慣れ親しむ。	このガイドの第1章～第5章の Java Web Client と HTML Web Client の説明を読んでください。
2. Hyperion Analyzer システムを評価する。	第6章～第8章の手順に従ってサンプルレポートを参照し、新しいレポートを作成します。
3. Hyperion Analyzer HTML Web Client に関するその他の情報を探す。	『Hyperion Analyzer 情報マップ』にあるマニュアルの一覧を参照してください。『Hyperion Analyzer HTML Web Client オンライン ヘルプ』も参照してください。

開発者

表6: 開発者のタスク

目的	タスク
1. Hyperion Analyzer の基本的な概念および使い方に慣れ親しむ。	このガイドの第1章～第5章の Java Web Client と HTML Web Client の説明を読んでください。
2. Hyperion Analyzer システムを評価する。	第6章～第8章の手順に従ってサンプルレポートを参照し、新しいレポートを作成します。
3. Hyperion Analyzer 上級ユーザ向けのさまざまな分析ツールに慣れ親しむ。	このガイドを最後まで読んでください。Hyperion Analyzer の高度な機能の概要は、第9章で説明されています。
4. Hyperion Analyzer API Toolkit に慣れ親しむ。	『Hyperion Analyzer API Toolkit Developer's Guide』を読んでください。
5. 自分の Web ページ用に、Hyperion Analyzer Web コンテンツを参照する。	Hyperion Analyzer API Toolkit のサンプルを参照してください。

オンライン分析処理

オンライン分析処理（Online Analytical Processing: OLAP）技術により主要な実績指標をモデル化することで、思考分析をスピードアップできます。

次元とメンバ

ビジネス指標（値）は、統合および取得できるように配列として整理されます。これらの配列を**次元**と呼び、次元に含まれる値を**メンバ**と呼びます。

OLAP データベースでは、相互に関連する複数の次元を分析できます。各データの値は、特定のデータベース内のすべての次元の交点を表します。

通常のスプレッドシートでは、セルの値は対応する行や列の次元ヘッダーと関連しており、二次元チャートにおける三次元（z 軸）の表現規則も一般化されています。

一方 OLAP 技術では、二次元媒体のセルを使用して多次元の交点を表現することができます。

多次元キューブ

キューブとは、複数の次元を整理した配列のことです。

OLAP データベースによって、キューブから次元メンバのデータを取得するためのクエリが行われます。

次元階層

次元メンバには、特定の順序、つまり**階層**があります。階層はデータベースアウトラインによって指定されます。

数値の次元は番号順の階層に従いますが、以下のような階層もあります。

- Centuries、Decades、Years、Quarters、Months、Weeks、Days、Hours、Minutes、Secondsなどの要素に従う **Time**（時間）階層。
- Continents、Countries、Regions、States、Cities、Neighborhoods、Locations、Departmentsなどの要素に従う **Market**（市場）階層。

単一の次元階層に複数のメンバが属することができることに留意してください。

- 例：Years（年）、Quarters（四半期）、および Months（月）は **Time** 次元のメンバです。

次元は、別の次元の階層内の異なる位置に関連付けることができます。

- 例：Cost（経費）次元は、Years、Quarters、Weeks（週）、または Days（日）に対して評価できます。

次元は、これらの階層関係に基づいてキューブに整理されます。

家系

一般的な要素に対して、より詳細な要素を**子孫**と呼びます。

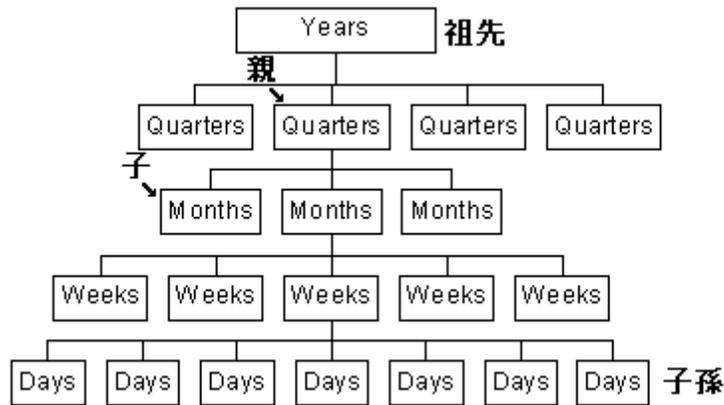
逆に、詳細な要素に対してより一般的な要素は**祖先**と呼びます。

例：Months、Weeks、および Days はすべて **Time** の子孫です。Weeks は Days の祖先です。

階層関係を簡単にするために、**親**と**子**という用語を使用します。親は、階層内の要素の直系祖先です。子は、階層内の要素の直系子孫です。

次の図に、典型的な時間階層を示します。

図2: Time 次元階層



世代とレベル

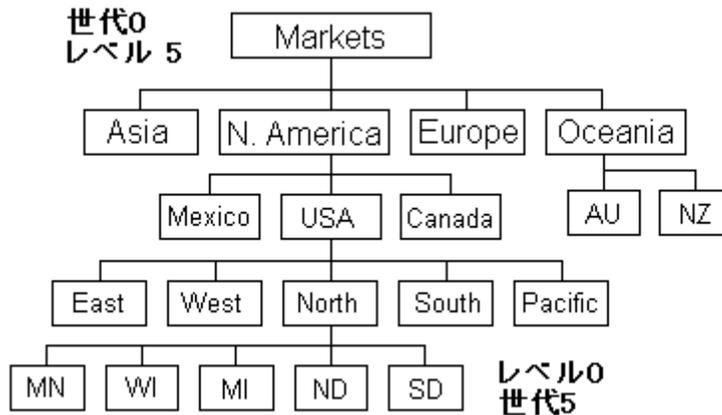
次元階層の同じ層にある次元メンバは、**世代**または**レベル**と総称されます。

世代は、最上位の階層（祖先、世代0）から下に数えられる階層です。

レベルは、最下位の階層（子孫、レベル0）から上に数えられる階層です。

Hyperion Essbase では、世代およびレベルにラベルや参照を付けることができます。

図3: 世代とレベル



非集約次元

これまでの次元例は、そのメンバの集約でした。

例：24 時間で 1 日、7 日間で 1 週間、52 週間で 1 年などのように、Time（時間）次元はその構成要素の合計を表しています。

しかし、次元階層によっては、その構成要素の合計では表せないものがあります。

例：通常、Measures（指標）次元は、Sales（売上）、Profit（利益）、Cost of Goods Sold（販売製品原価）などの経営指標から構成されます。これらの次元をキューブ内の別の次元に関連付けることによって、意味のあるデータを得ることができます。

例：Scenario（シナリオ）次元には通常、Actual（実績）、Budget（予算）、Prior Year（前年度）などの指標が含まれます。これらのメンバを組み合わせても意味のある集約は得られません。したがって、Scenario 次元はその指標の説明ラベルにしかすぎません。

次元ラベルがその構成要素の合計を表すことができない場合は、次元ラベルのかわりに、1 つのメンバセットを使用するという規約があります。Hyperion Essbase では、非集約次元ラベルのかわりに、次元アウトラインの最初の子を暗黙の共有として使用します。

属性

Hyperion Essbase では、次元メンバ名、場所、関係の他にも、特定のメンバに関する特性を保存できます。

例：Product（製品）次元により、女性用服飾（Women's Apparel）のシャツとブラウス（Shirts and Blouses）に、綿の T シャツ製品があることが示されます。その属性として、綿の T シャツは赤、青、緑またはピンクであることが示されます。

例：Market（市場）次元では、ミシシッピ州ビロクシー（Biloxi, Mississippi）にフランチャイズの店舗が 1 店あることが示されます。属性には、その店舗の大きさが 2,500 平方フィートであることが示されます。

Hyperion Essbase では属性次元は OLAP キューブの一部として保存されず、必要に応じて動的に計算されます。

保存方法が異なっても、属性は次元メンバと同様に次元階層内で表示されることに注意してください。

疎次元と密次元

ほとんどの多次元データベースでは、すべての交点のすべての単一次元メンバ内でメンバ値が欠如しています。

例：すべての製品が国内すべての地域で販売されるとは限りません。

データベースの処理能力を最大限に発揮させるために、次元のラベルを疎（データ量が少ない次元）または密（データ量が多い次元）とします。

疎次元では、すべての可能なキューブ交点のメンバ値の割合は低くなります。密次元では、すべての可能なキューブ交点のメンバ値の割合は高くなります。

次元に疎および密というラベルを付けることで、Hyperion Essbase ではメモリとディスクの使用量を最小限に抑えながら、データの取得を迅速に行うことができます。

レポートの整理

レポート

Hyperion Analyzer では、多次元情報および関連情報が**レポート**という 2 次元の形で表現されます。

レポートは、表示の内容と書式の組み合わせを指します。

レポートをレポジトリに保存すると、さまざまな書式で表示できる多目的ファイルとなります。

レポート グループ

レポートを、**レポート グループ**というグループにまとめられます。

通常、レポート グループには、同一の主題または共通の分析目的に関連したレポートが含まれます。

レポート グループでは、次の処理ができます。

- 情報の整理
- 配布方法の指定
- 更新頻度の多いレポートを簡単に見つけるための設定

プロパティ

レポートおよびレポート グループには、表示や使用法を管理するプロパティがあります。

操作の簡単なグラフィカル ユーザ インターフェイスを持つ Hyperion Analyzer Java Web Client では、Hyperion Essbase およびリレーショナル データのオンライン分析が可能です。ユーザは、コードの記述をしなくても、カスタム分析アプリケーションの設計とデザインを行うことができます。この章では、Hyperion Analyzer Java Web Client の主なユーザ インターフェイス要素について概説します。

Hyperion Analyzer Java Web Client の起動

Java Web Client を起動する前に、Hyperion Analyzer Java Web Client 起動ページの URL (Uniform Resource Locator) をシステム管理者から入手してください。

- ▶ Hyperion Analyzer Java Web Client を起動するには、次の手順を実行します。
 1. サポートされている Web ブラウザ (Microsoft Internet Explorer 5.5 または 6.0、あるいは Netscape Communicator/Netscape Navigator 6.2 または 7.0 など) を起動します。
 2. メニューから [ファイル] > [開く] を選択します。
 3. Hyperion Analyzer 起動ページの URL を入力して、[Enter] キーを押します。
 4. Hyperion Analyzer Java Web Client を起動するリンクをクリックします。
[Hyperion Analyzer] アプリケーション ウィンドウとともに、[ログイン] ダイアログ ボックスが表示されます。
 5. 有効なユーザ名とパスワードをこの [ログイン] ダイアログ ボックスに入力します。

6. (オプション) [ドメイン]ドロップダウン リストボックスが表示されている場合は、認証方法を選択します。

ヒント：認証方法は、ユーザ名とパスワードの認証を行うために、Hyperion Analyzer のインストールと構成時に管理者によって設定されます。通常の認証方法を選択することもできますが、Essbase 認証または外部認証を選択することで、他の統合アプリケーションやデータソースを使用する際に再びログオン手順を繰り返す必要がなくなります。

7. [OK]をクリックします。

スタートアップ オプションに指定されているレポートまたはデスクトップが表示されます。

ユーザ インターフェイス モード

Hyperion Analyzer の最大の特徴は、操作の簡単なインターフェイスです。独自のアイデアが組み込まれたこのインターフェイスにより、インターネットを閲覧するのと同じように、簡単に高度な多次元分析やリレーショナル分析を実行できます。

Hyperion Analyzer には次の 4 種類のユーザ インターフェイス モードがあります。モードにはそれぞれ固有のインターフェイスとコントロールがあります。

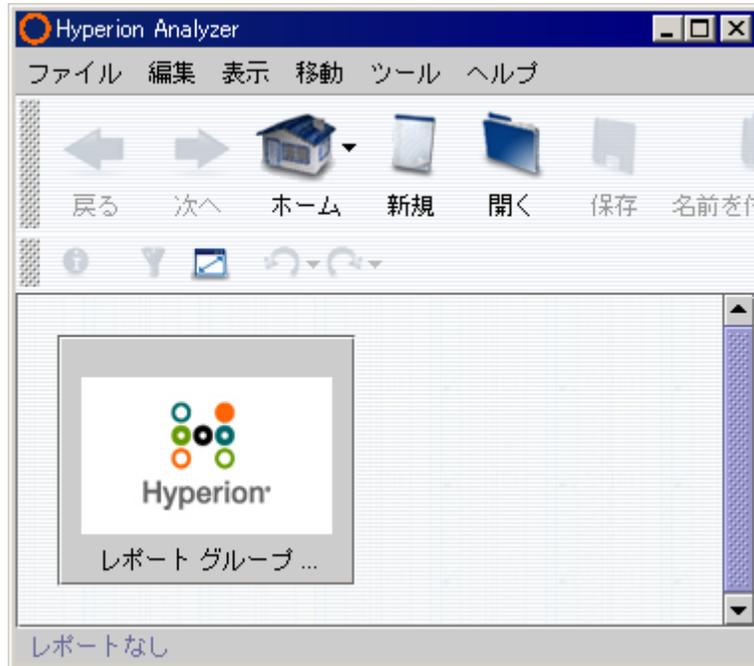
次のモードがあります。

- Hyperion Analyzer デスクトップ - 使用可能なレポート グループアイコンがすべて表示されます。
- 標準モード - Hyperion Analyzer で基本的な分析、プレゼンテーション、レポート作成を行うためのインターフェイスです。
- データの編集モード - セルの値を編集し、その結果を Hyperion Essbase に保存できます。
- レポートのデザイン モード - カスタム レポートを作成するためのインターフェイスです。

Hyperion Analyzer デスクトップ

Hyperion Analyzer デスクトップには、使用可能なレポート グループ アイコンが表示されます。レポート グループ アイコンは、Windows デスクトップ上にあるアプリケーションのショートカット アイコンに似ています。

図4: Hyperion Analyzer デスクトップ



Hyperion Analyzer デスクトップには、アクセス権のあるレポート グループ アイコンが表示されます。特定のレポート グループ アイコンを非表示にすることで、Hyperion Analyzer デスクトップをカスタマイズできます。

レポート グループのアイコンをクリックすると、そのレポート グループ内のすべてのレポートを開くことができます。

標準モード

標準モードは、Hyperion Analyzer で基本的な分析、プレゼンテーション、レポート作成を行うためのインターフェイスです。ほとんどの作業は標準モードで実行できます。

図5: Hyperion Analyzer の標準モードのインターフェイス



標準モードのユーザ インターフェイスは、次に説明する要素で構成されています。

アプリケーションウィンドウのタイトルバー

アプリケーション ウィンドウには、すべてのインターフェイス要素が含まれています。このウィンドウには、[最小化]、[元のサイズに戻す]、[閉じる]ボタンの付いたタイトルバーがあります。

図6: Hyperion Analyzer アプリケーション ウィンドウのタイトルバー



アプリケーション ウィンドウのタイトル バーには現在のアプリケーション名が表示され、右クリックで表示されるメニューには次の項目があります。

図7: アプリケーション ウィンドウのタイトル バーの右クリック メニュー



メニューバー

メニューバーは、アプリケーション ウィンドウのタイトルバーのすぐ下にあります。メニューバーは、主要な Hyperion Analyzer タスクにアクセスできるよう構成されています。

図8: Hyperion Analyzer のメニューバー



メニューバーを非表示にして、表示パネルの領域を拡張できます。

ツールバー

ツールバーは、メニューバーと詳細バーの間にあります。ツールバーを利用すると、1回のクリックで主な Hyperion Analyzer タスクにアクセスできます。

ツールバーを非表示にして、表示パネルの領域を拡張できます。

図9: Hyperion Analyzer ツールバー



詳細バー

詳細バーは、メイン表示パネルの上にあります。インターフェイス要素を表示または非表示にします。詳細バーに表示されるボタン、タイトルおよびグラフィックスは、各レポートやユーザ設定に基づいて変わります。

5 個のデフォルト ボタンが常に表示されます。

図10: Hyperion Analyzer の詳細バー

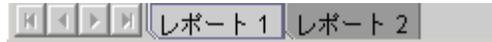


詳細バーには、ツールバーの状態に応じてツールバー ボタンが表示されます。このため、詳細バーを非表示にすることはできません。

レポートタブ バー

レポートタブ バーは、アプリケーション ウィンドウの下部にあり、ステータスバーとメイン表示パネルの間にあります。[レポート]タブには現在開かれているレポート名だけが表示されます。すべてのレポート名が表示されるわけではありません。現在のレポートのタブは、タブセット内で強調表示されます。

図 11: Hyperion Analyzer のレポートタブ バー



表示領域の制限により、開いているすべてのレポートのタブがタブ バーに表示されない場合もあります。そのため、レポートタブ バーの左端には、タブセットのコントロールがあります。

ステータスバー

アプリケーション ウィンドウの最下部にあるステータスバーには、現在のレポートの説明が表示されます。

図 12: Hyperion Analyzer のステータスバー

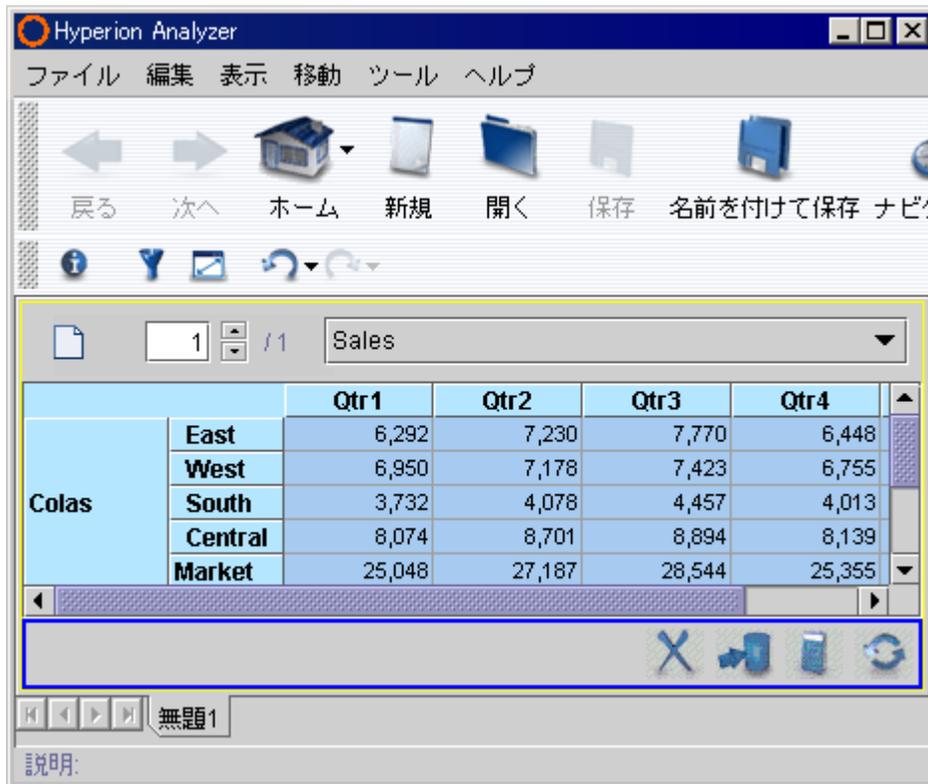


データの編集モード

データの編集モードでは、セルの値を編集し、その結果を Hyperion Essbase に保存できます。

データの編集モードは標準モードと同じように見えますが、スプレッドシートのセルを編集できるようになっています。

図 13: Hyperion Analyzer のデータの編集モード



また、このモードでは、メイン表示パネルの下部に[データの編集]バーが表示されます。

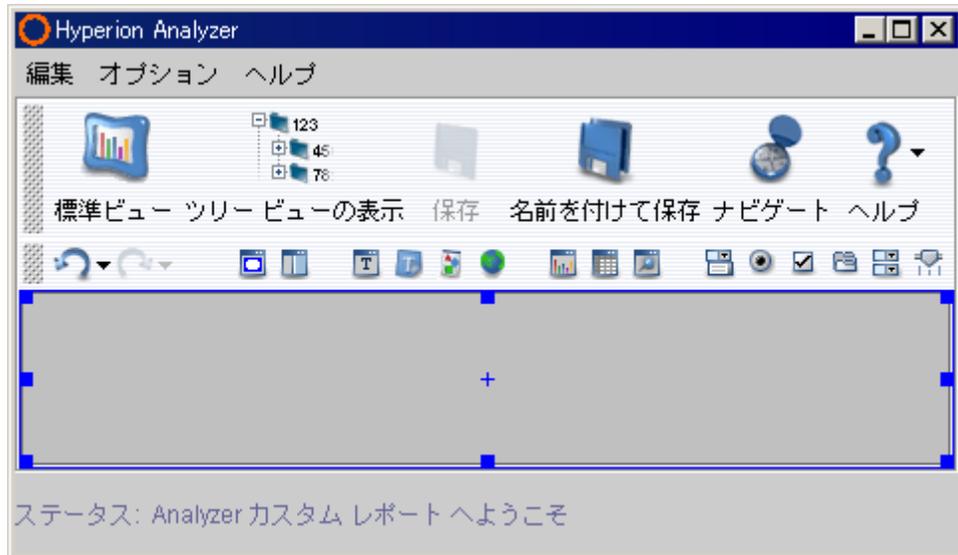
図 14: [データの編集]バー



レポートのデザインモード

レポートのデザインモードは、カスタム レポートを作成するためのインターフェイスです。レポートのデザインモードの詳細は、第9章「カスタム レポートの作成」を参照してください。

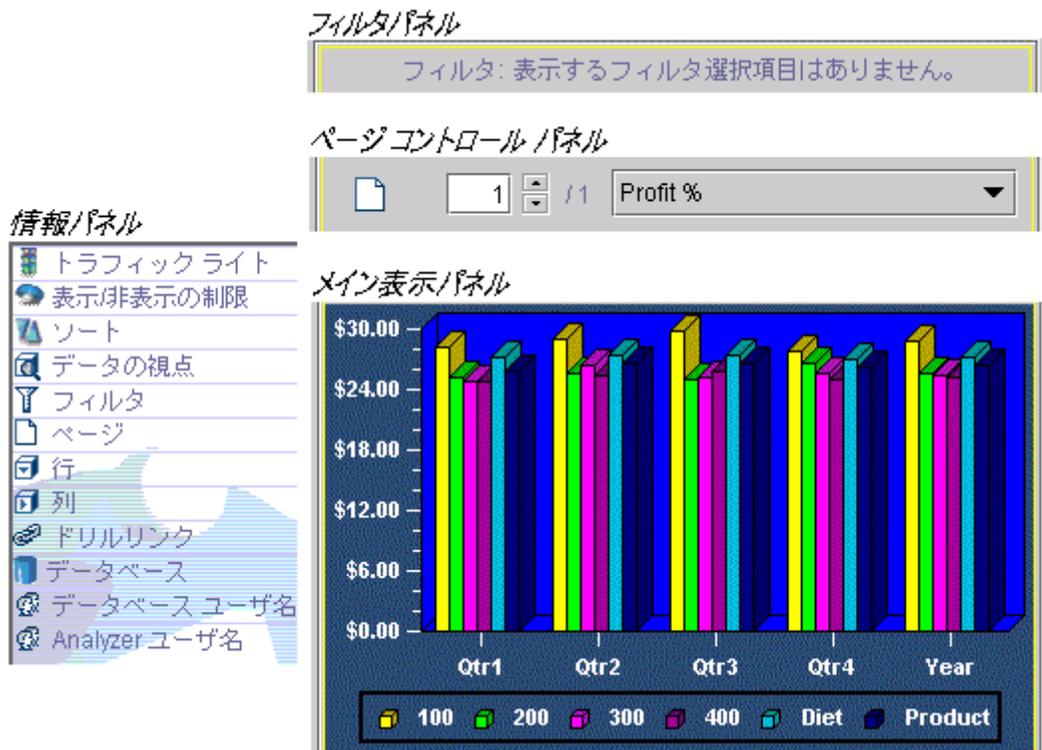
図 15: Hyperion Analyzer のレポートのデザインモード



メイン表示パネルのコンポーネント

メイン表示パネルはインターフェイスで最大の領域で、詳細バーの下、レポートタブバーの上の位置にあります。メイン表示パネルは、次の4つの動的なパネルを組み合わせたものです。

図 16: メイン表示パネル



情報パネル

情報パネルは、メイン表示パネルのデータソースと特性を要約したセグメントで構成されています。各セグメントには、さまざまなコントロールと、状況に依存した右クリックメニューがあります。

情報パネルを使用すると、以下のタスクを実行できます。

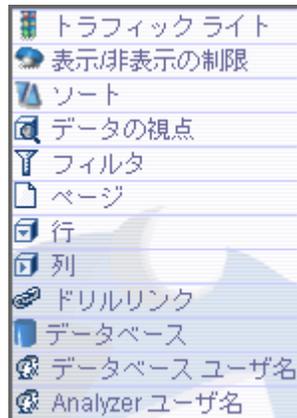
- 情報パネルは、詳細バーの[情報パネルの表示/情報パネルを隠す]ボタンをクリックすることで表示または非表示にできます。

図 17: [情報パネルの表示/情報パネルを隠す]ボタン



- セグメントのアイコンをダブルクリックすると、情報パネルのセグメントが展開または縮小されます。

図 18: 縮小された情報パネルのセグメント

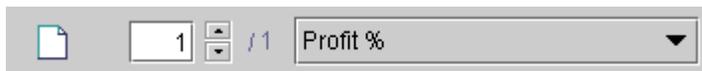


- プラス記号やマイナス記号の付いたノードをクリックすると、情報パネルの内容が展開または縮小されます。
- 情報パネルの軸セグメント間で次元をドラッグアンドドロップすると、メイン表示パネルの表示内容が変更されます。
- 次元を右クリックすると、新しい次元ブラウザを選択できます。
- 情報パネルを右クリックして[すべてを展開]または[すべてを縮小]を選択すると、情報パネルのセグメントを完全に展開または縮小できます。

ページコントロールパネル

ページコントロールパネルを使用して、ページ次元のメンバ間を移動できます。

図 19: ページコントロールパネル

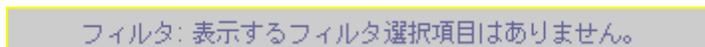


メイン表示パネルの交点は、ページ軸の次元ごとに編成されます。ページコントロールパネルの選択項目によって、メイン表示パネルの内容は変化します。

フィルタパネル

フィルタパネルには、フィルタ軸に割り当てられた次元が表示されます。すべてのメイン表示パネルの交点は、フィルタ次元メンバに関連付けられています。

図 20: フィルタパネル



フィルタパネルは、詳細バーの[フィルタパネルの表示/フィルタを隠す]ボタンをクリックすることで表示または非表示にできます。

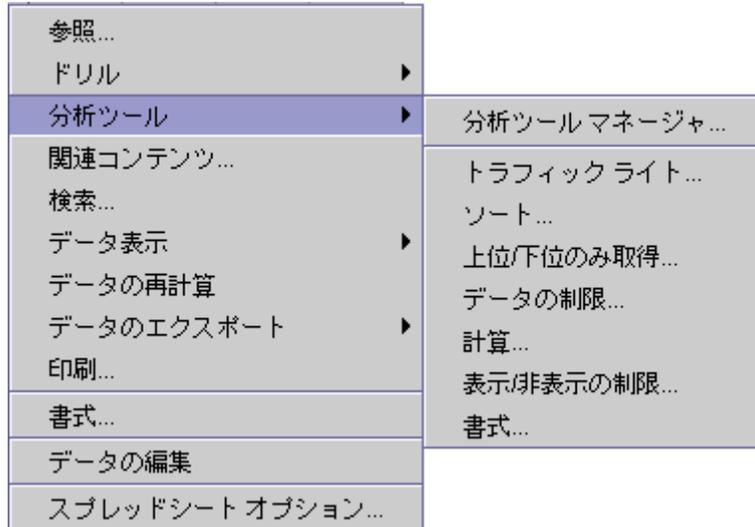
図 21: [フィルタを隠す]ボタン



メイン表示パネルの右クリック メニュー

メイン表示パネルの右クリック メニューの内容はその場の状況に依存しており、メニュー オプションもそのときの選択項目によって異なります。

図 22: メイン表示パネルの右クリック メニュー



Hyperion Analyzer の高度な機能の多くは、メイン表示パネルの右クリック メニューからアクセスできます。

ユーザ インターフェイス要素の表示と非表示

Hyperion Analyzer のインターフェイスは、必要や目的に合わせてカスタマイズできます。たとえば、データを分析するユーザにとっては、すべてのインターフェイス コンポーネントを表示させ、詳細情報を明らかにする必要があります。

一方、分析結果を発表するユーザの場合、メイン表示パネルを画面いっぱいに表示させるために他のインターフェイス要素を非表示にすることもできます。

つまり、ユーザ インターフェイス要素を多様に組み合わせて、1つのレポートをさまざまな形式で表示することができます。

インターフェイス要素の非表示

- ▶ ツールバーを非表示にするには、[メイン ツールバーを隠す] ボタンをクリックします。



- ▶ 情報パネルを非表示にするには、[情報パネルを隠す]  ボタンをクリックします。

- ▶ フィルタパネルを非表示にするには、[フィルタを隠す] ボタンをクリックします。 

- ▶ メニューバーを非表示にするには、詳細バーを右クリックして[メインメニューを隠す] を選択します。

詳細バーは非表示にできないので、非表示にした他のインターフェイス要素はいつでも再表示できます。

ここまでは、Hyperion Analyzer Java Web Client のユーザ インターフェイスについて説明してきました。ここでは、Hyperion Analyzer の機能について詳しく説明します。

Hyperion Analyzer Java Web Client をまだ起動していない場合は、[33 ページの「Hyperion Analyzer Java Web Client の起動」](#)を参照してください。

レポートを開く

レポート グループや特定のレポートを開くには、いくつかの方法があります。

次に説明する方法で使用する [レポート マネージャ] ダイアログ ボックスの主な目的は、レポートとレポート グループの管理です。

- ▶ レポート マネージャを使用してレポートを開くには、次のいずれかの操作を行います。
 - [ファイル] > [開く] を選択します。
 - ツールバーの [開く] ボタンをクリックします。

図 23: ツールバーの [開く] ボタン



Hyperion Analyzer デスクトップからレポート グループを開くこともできます。Hyperion Analyzer デスクトップには、アクセス権のあるレポート グループ アイコンが表示されます。

- ▶ Hyperion Analyzer デスクトップからレポート グループを開くには、次の手順を実行します。
 1. ツールバーの[ホーム]ボタンのドロップダウンメニューから[Analyzer デスクトップ]を選択します。
 2. 目的のレポート グループのアイコンをクリックします。

サンプル レポート グループも Hyperion Analyzer デスクトップから開くことができます。
- ▶ サンプル レポート グループを開くには、[Sample Report Group] (サンプル レポート グループ) アイコンをクリックします。

レポート間の移動

レポート グループを開くと、グループ内のすべてのレポートが開きます。各レポートは、レポートタブ バーにタブとして表示されます。

レポート グループ内のレポートは1つのグループとして扱われ、各レポートの参照やレポート間の移動ができます。レポートの数が多すぎてレポートタブ バーにすべて表示できない場合は、レポートタブ セット コントロールが表示されます。

図 24: Hyperion Analyzer のレポートタブ バー



メイン表示パネルに表示されているレポートを "現在のレポート" と呼びます。レポートタブ バーでは現在のレポートのタブが強調表示されます。

- ▶ 開いているレポート間を移動するには、次のいずれかの操作を行います。
 - ツールバーの[戻る]または[次へ]ボタンをクリックします。  
 - [移動] > [戻る]または[移動] > [次へ]を選択します。
 - 移動先レポートのレポートタブをクリックします。
 - 移動先レポートのリンクをクリックします。

表示形式

同一の情報をさまざまな形式で表示できます。次の3種類の基本的な表示形式があります。

- スプレッドシート
- チャート
- ピンボード

表示形式には、それぞれ固有の前提条件があります。

スプレッドシート

スプレッドシートは、情報を列軸、行軸、ページ軸、フィルタ軸で整理したものです。

図 25: Hyperion Analyzer のスプレッドシート表示形式

		Qtr1			Qtr2			Actual
		Actual	Budget	Rank	Actual	Budget	Rank	
Colas	Central	\$8,074	\$8,200	1	\$8,701	\$8,870	1	\$8,894
	West	\$6,850	\$6,500	2	\$7,158	\$8,800	3	\$7,422
	East	\$6,292	\$5,870	3	\$7,230	\$6,760	2	\$7,770
	South	\$3,792	\$4,570	4	\$4,676	\$5,000	4	\$4,453
Root Beer	West	\$8,278	\$7,700	1	\$8,524	\$7,970	1	\$8,885
	Central	\$7,269	\$8,420	2	\$7,440	\$8,610	2	\$7,804
	East	\$5,726	\$5,460	3	\$5,902	\$5,650	3	\$5,863
	South	\$5,394	\$4,430	4	\$5,535	\$4,580	4	\$5,690
Cream Soda	Central	\$8,059	\$6,880	1	\$8,438	\$7,220	2	\$8,684
	West	\$9,043	\$6,890	2	\$8,982	\$7,720	1	\$8,616
	East	\$4,888	\$3,680	3	\$5,327	\$4,030	3	\$5,142
	South	\$3,027	\$2,830	4	\$2,989	\$2,790	4	\$3,208
Fruit Soda	West	\$8,463	\$5,540	1	\$8,886	\$5,840	1	\$9,208
	Central	\$8,010	\$6,830	2	\$8,477	\$7,250	2	\$8,672
	East	\$3,735	\$3,880	3	\$3,990	\$4,150	3	\$4,201
	South	\$10,544	\$10,460	1	\$10,809	\$10,750	1	\$10,959
Diet Drinks	West	\$8,820	\$8,620	2	\$9,086	\$8,910	2	\$9,518
	South	\$4,483	\$4,410	3	\$4,796	\$4,710	3	\$4,947
	East	\$1,894	\$1,700	4	\$2,096	\$1,900	4	\$2,071
	Central	\$10,544	\$10,460	1	\$10,809	\$10,750	1	\$10,959

スプレッドシートのセルは、行や列だけでなくすべての次元の交点に割り当てられた値を表します。

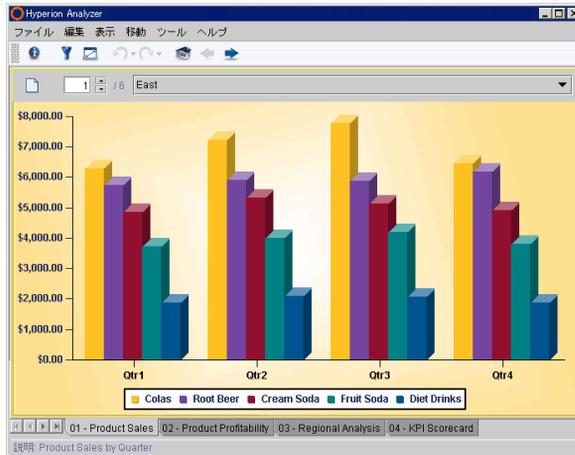
キューブの各セルは、フィルタ軸に割り当てられた次元に基づいてフィルタ処理されます。行や列に割り当てられた次元は、ページ軸に割り当てられた次元によって整理されます。

その結果、多次元スプレッドシートが構成されます。

チャート

Hyperion Analyzer では、多次元スプレッドシート の情報をチャートで表すことができます。

図 26: Hyperion Analyzer のチャート表示形式



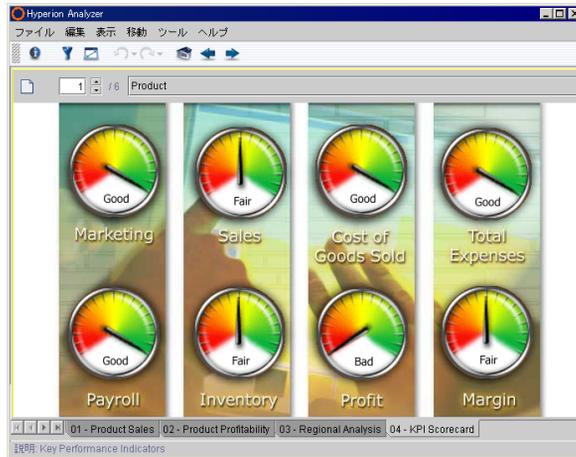
次のようなさまざまな種類のチャートから選択できます。

- 棒グラフ
- 折れ線グラフ
- 帯グラフ
- 円グラフ
- 領域グラフ
- 曲線領域グラフ
- 横棒グラフ
- 丸点グラフ
- 複合グラフ
- ボックスグラフ
- 4象限グラフ
- 泡グラフ

ピンボード

ピンボードにより、カスタム グラフィックを使用してスプレッドシートのデータを表現できます。ピンボードでは、グラフィック、そのグラフィック上のピン、およびピンの色または状態で次元が表されます。

図 27: Hyperion Analyzer のピンボード表示形式



どのようなグラフィックでもピンボードとして使用できるため、創造性のあるグラフを作成できます。

ピンボードを作成するには、まず、トラフィック ライトが定義された多次元スプレッドシートを作成する必要があります。ピンの画像や色は、トラフィック ライトの設定に基づいて動的に変化するからです。トラフィック ライトの詳細は、[157 ページの「トラフィック ライト」](#)を参照してください。

表示形式の変更

表示形式を変更することで情報をわかりやすく、比較しやすいように表示したり、あるいはグラフで表現することもできます。

図 28: ツールバーの[表示]ボタン

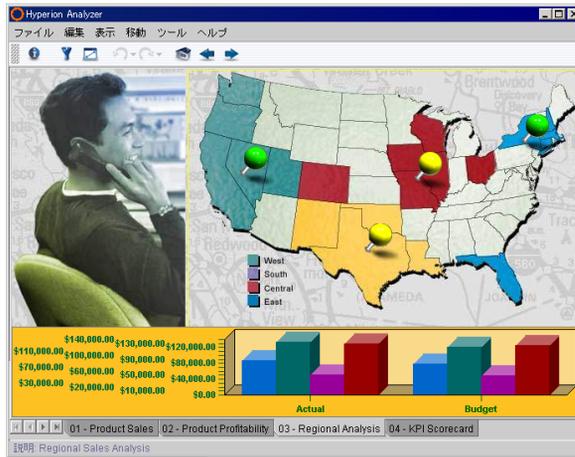


レポート デザイナーでは、レポート プロパティの表示形式をロックして、後で使用するユーザがレポートを変更できないようにすることもできます。

カスタム レポート

Hyperion Analyzer のカスタム レポートには、複数の表示形式、多様なコントロール、グラフィック、カスタム機能を含めることができます。

図 29: Hyperion Analyzer のカスタム レポート



レポート作成機能には無限の可能性がります。

カスタム レポートは "レポートのデザイン" モードでデザインします。詳細は、[第9章「カスタム レポートの作成」](#)を参照してください。

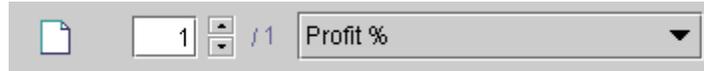
レポート間の移動

情報を細かく分析するために、OLAP 交点を変更、展開および集結できます。OLAP キューブ内を移動するこれらの方法は、ナビゲーション手法と呼ばれます。Hyperion Analyzer では、次のようなナビゲーション手法をサポートしています。

ページの移動

ページコントロールパネルを使用して、ページ次元のメンバ間を移動できます。

図30: ページコントロールパネル



メイン表示パネルの交点は、ページ軸の次元ごとに編成されます。ページコントロールパネルの選択項目によって、メイン表示パネルの内容は変化します。

ページコントロールパネルを使用して次の操作ができます。

- ドロップダウンリストボックスをクリックして、ページ次元メンバの組み合わせを選択します。
- スクロールボタンをクリックして、ページセットの組み合わせを移動します。
- ページアイコンをクリックして、次元メンバの組み合わせを複数のドロップダウンリストボックス内に振り分けます。

ページコントロールパネルでは、ページ次元を組み合わせる際に複数ページのドロップダウンリストボックスを表示できます。複数ページのドロップダウンリストボックスには、データの有無に関係なく、可能なページの組み合わせがすべて表示されます。単一ページのドロップダウンリストボックスでは、データが含まれていないページの組み合わせは省略されます。

密度の高いページしか表示されないの、疎次元の処理時には、単一ページのドロップダウンリストボックスの使用をお勧めします。

スワップと移動

スワップと移動によって、列や行の次元を再調整できます。

- スワップにより、メイン表示パネルの2つの次元が互いに置き換えられます。
- 移動により、メイン表示パネルで選択した次元が再配置されます。

スワップと移動の手順はほぼ同じで、ドラッグアンドドロップで行います。異なるのは、次元ラベルをドロップする位置だけです。

- ▶ スワップするには、次元を別の次元にドロップします。
- ▶ 移動するには、太い線が表示された後に、次元を他の次元の間にドロップします。

表示形式では、列軸と行軸に少なくとも 1 つの次元が割り当てられている必要があります。

ドリル

ドリル操作によって次元メンバの表示を変更することにより、レポートの詳細レベルを上げたり下げたりします。ユーザ設定とレポートプロパティを使用したカスタマイズ可能なドリル操作により、次元ラベルをダブルクリックしたときに表示される階層のほとんどどこでも参照できます。

Hyperion Analyzer の出荷時には、以下のデフォルトのドリル操作が設定されています。

- [ドリルダウン]では、表示にメンバの子を含めます。
- [ドリルアップ]では、表示にメンバの親を含めます。
- [最上位にドリルアップ]では、表示に最上位の祖先を含めます。

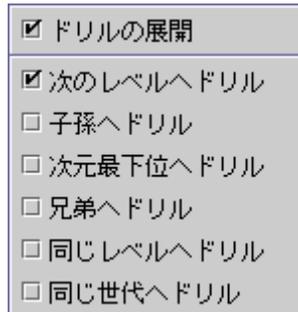
ドリル処理の結果セットを現在表示されている次元メンバに追加するか、または現在表示されている次元メンバをドリル操作の結果セットで置き換えるかを選択できます。

- [選択メンバの追加]では、ドリル処理の結果セットを現在表示されている次元メンバに追加します。
- [選択メンバの置換]では、現在表示されている次元メンバをドリル処理の結果セットで置き換えます。

ただし、[ドリルアップ]と[最上位にドリルアップ]オプションが修正され、ドリル処理レポートのプロパティの設定によってドリルダウン処理を無効にできるようになりました。

- ▶ レポートベースのドリルオプションを表示するには、メイン表示パネルを右クリックし、[ドリル]>[ドリルオプション]を選択します。

図31: Java Web Client のドリル オプション



ドリルオプションを選択すると、セッション中に指定したレポートの階層移動が設定されます。レポートを保存するとドリルオプションはレポートのプロパティとして記録され、他のユーザがそのレポートを表示する場合にも、階層移動が保持されたままになります。

[ドリルの展開]ドリルオプションは、前に述べた[選択メンバの追加]や[選択メンバの置換]に指定されているユーザ設定と同じ機能です。

ドリルリンク

ドリルリンクにより、あらかじめリンクが設定されたセルをダブルクリックすることで、他のレポートに移動できます。

ヘッダーをダブルクリックすると次元階層がドリルダウンされ、リンクの付いたセルをダブルクリックすると他のレポートに移動することを区別しておくことが重要です。

レポートの書式

Hyperion Analyzer レポートには、多数の書式オプションがあります。各オプションは、メイン表示パネルの右クリックメニューまたは[ユーザ設定]オプションからアクセスできます。

各表示形式には、それぞれ固有の書式オプションがあります。

- **[スプレッドシート オプション]**では、スプレッドシートの背景、すべてのヘッダー、すべてのデータセル、および他のスプレッドシート特有の書式オプションを設定できます。
- **[チャート プロパティ]**オプションでは、各チャートのさまざまなオプションを設定できます。オプションには、軸の数、チャート オブジェクトの形状、チャートの数、円グラフのくさび部分の色、タイトルのフォント、凡例の書式などがあります。
- **[ピンボード プロパティ]**の設定は、**[ピンボード デザイナ]**ダイアログ ボックスで行います。このピンボード デザイナでは、背景画像、ピンの色、ピン画像を設定し、ピンと特定の次元メンバを関連付けることができます。また、計算されたメンバのピンを作成し、Null 値のピンの動作を設定することもできます。

[列サイズ]オプションでは、スプレッドシートの列軸の次元ヘッダーの書式を設定できます。

[データ表示]オプションでは、ラベルモード、次元ヘッダーの順序、リンクされたレポート オブジェクトのインジケータやデータの欠如した行の表示/非表示などのレポートの表示方法を指定できます。これらの用語については、後の章で詳細に説明します。ここでは、データ表示オプションによってレポートの機能を制御できることを理解しておいてください。

[書式]オプションでは、特定の次元ヘッダーや特定のデータセル範囲の書式を設定できます。書式は、選択した次元メンバやデータセルの値に基づいて設定できます。書式オプションには、通貨の書式や正数、負数の数値の書式も含まれます。

書式オプションの適用範囲

書式の適用範囲は、書式定義によって異なります。書式定義は、データベース接続、ユーザ ID またはレポート ベースのプロパティとして保存できるので、特定のデータベース接続、ユーザが参照するすべてのレポート、または特定のレポートのみに適用することができます。

次の表に、さまざまな書式オプションの適用範囲、特徴、優先順位を示します。

表 i: 書式オプションの適用範囲と優先順位

書式定義	書式オプション	適用範囲
指標の書式	先行文字と後続文字、通貨の書式、数値の書式	指標の書式はデータベース接続プロパティとして保存され、そのデータベース接続を使用するすべてのレポートに適用されます。
ユーザ設定のデフォルト書式	スプレッドシート オプション、チャートプロパティ、データ表示など	ユーザ設定はユーザ ID のプロパティとして保存され、そのユーザが参照するすべてのレポートのデフォルト設定として適用されます。
書式	スプレッドシート オプション、チャートプロパティ、データ表示など	書式は特定のレポートのプロパティとして保存され、各レポートで再定義する必要があります。
書式分析ツール	分析対象を識別するために使用されるデータ書式の基準	データの書式と条件付き書式はレポートとともに保存され、他の書式オプションが適用された後で適用されます。
セルの書式	特定範囲のセルの書式	セルの書式は、特定範囲のセルに最後に適用され、レポートに保存されます。

レポートの保存

レポートを保存するには次の方法があります。

- ツールバーの[保存]ボタンをクリックします。
- [ファイル]> [保存]を選択します。
- レポート タブを右クリックして[保存]を選択します。



レポートを保存すると、クエリ、レポート プロパティおよび書式設定が Hyperion Analyzer レポジトリに保管されます。

レポートは、共有可能なレポート グループにしか保存できません。

レポートの配布

レポートの配布やその経路、およびレポートへのアクセス許可は、レポートグループのプロパティによって管理されます。

[ユーザグループで共有]レポートグループプロパティ

レポートグループプロパティの[ユーザグループで共有]は、Hyperion Analyzer のレポートとレポートグループの配布を管理します。

このレポートグループプロパティを使用して、レポートとレポートグループをユーザグループに割り当てます。指定されたユーザグループのユーザのみがレポートグループを開くことができます。また、レポートおよびレポートグループのプロパティの変更も、指定されたユーザグループのメンバーのみできます。

レポートのロック

レポートへのアクセスとその配布方法はレポートグループのプロパティで指定されますが、各ユーザはレポートをロックすることで、レポートの開示、右クリックメニュー、移動方法などをさらに制限または指定できます。

レポートとレポートグループの外部配布

レポートとレポートグループは、以下の方法で外部に配布できます。

- [画面の印刷]コマンドを使用して現在のレポートの現在のページを印刷するか、[選択したオブジェクトの印刷]コマンドを使用して現在のデータオブジェクトのOLAP ページを印刷します。
- JSP テンプレートと出力ファイルを指定して、Hyperion Analyzer レポートを Web に発行します。
- レポートを Microsoft Excel にエクスポートします。
- レポートの一部をオペレーティングシステムの "クリップボード" またはファイルヘタブ区切り形式でエクスポートします。これにより、Hyperion Analyzer のデータを他のアプリケーションに貼り付けることができます。

- 個々のレポートやレポート グループ全体を、他の Hyperion Analyzer ユーザが参照できる個別のファイル（レポートは .ARD、レポート グループは .ARG ファイル）にエクスポートします。
- 現在のレポートの URL とともに使用するクライアントアプリケーション（HTML Web Client または Java Web Client）を指定して他のユーザに送信します。

章 5

Hyperion Analyzer HTML Web Client インターフェイス

Hyperion Analyzer HTML Web Client は、100% HTML シンクライアントで、Hyperion Analyzer でサポートしている Web ブラウザから使用できます。Hyperion Analyzer HTML Web Client は、高度なデザインやコンテンツ作成機能を必要としない、情報利用者向けに設計されています。

Hyperion Analyzer HTML Web Client の起動

HTML Web Client を起動する前に、Hyperion Analyzer HTML Web Client 起動ページの URL (Uniform Resource Locator) をシステム管理者から入手してください。

- ▶ Hyperion Analyzer HTML Web Client を起動するには、次の手順を実行します。
1. サポートされている Web ブラウザ (Microsoft Internet Explorer 5.5 または 6.0、あるいは Netscape Communicator/Netscape Navigator 6.2 または 7.0 など) を起動します。
 2. メニューから [ファイル] > [開く] を選択します。
 3. Hyperion Analyzer 起動ページの URL を入力して、[Enter] キーを押します。
 4. Hyperion Analyzer HTML Web Client を起動するリンクをクリックします。
[Hyperion Analyzer] アプリケーション ウィンドウとともに、[ログイン] ダイアログ ボックスが表示されます。
 5. 有効なユーザ名とパスワードをこの [ログイン] ダイアログ ボックスに入力します。

6. (オプション) [ドメイン]ドロップダウン リストボックスが表示されている場合は、認証方法を選択します。

ヒント：認証方法は、ユーザ名とパスワードの認証を行うために、Hyperion Analyzer のインストールと構成時に管理者によって設定されます。通常の認証方法を選択することもできますが、Essbase 認証または外部認証を選択することで、他の統合アプリケーションやデータソースを使用する際に再びログオン手順を繰り返す必要がなくなります。

7. [OK]をクリックします。

スタートアップ オプションに指定されているレポートまたはデスクトップが表示されます。

HTML Web Client ユーザ インターフェイス

HTML Web Client と Java Web Client のインターフェイスには違いが多数あります。HTML Web Client では、Java Web Client アプレットによって提供される機能の多くが、標準の HTML 技術を使用して提供されるからです。

また、HTML 技術を使用しているため、HTML Web Client を自由にカスタマイズできます。Web 開発者は、アプリケーション サーバ上の JSP テンプレートを編集したり、独自のインターフェイスを記述したりできます。Hyperion Analyzer JSP テンプレートの編集の詳細は、『Hyperion Analyzer Administrator's Guide』を参照してください。

ここでは、Hyperion Analyzer の出荷時に設定されているデフォルトのインターフェイスについて説明します。

ユーザ インターフェイス モード

Hyperion Analyzer HTML Web Client では、Java Web Client で使用される 4 つのモードのうち 3 つが提供されています。モードにはそれぞれ固有のユーザ インターフェイスとコントロールがあります。

次のモードがあります。

- Hyperion Analyzer デスクトップ - 使用可能なレポート グループアイコンがすべて表示されます。
- 標準モード - Hyperion Analyzer で基本的な分析、プレゼンテーション、レポート作成を行うためのインターフェイスです。

- データの編集モード - セルの値を編集し、その結果を Hyperion Essbase に保存できます。

レポートのデザインモードがないことが、HTML Web Client と Java Web Client との大きな違いの1つです。HTML Web Client のユーザは、Java Web Client によって作成されたカスタム レポートの表示と使用は可能ですが、カスタム レポートを作成することはできません。

Hyperion Analyzer デスクトップ

Hyperion Analyzer デスクトップには、使用可能なレポート グループ アイコンが表示されます。レポート グループ アイコンは、Windows デスクトップ上にあるアプリケーションのショートカットアイコンに似ています。

図32: Hyperion Analyzer HTML Web Client のデスクトップ



- ▶ デスクトップにアクセスするには、HTML Web Client のツールバーから[ホーム]リンクをクリックします。

- ▶ レポートグループ内のすべてのレポートを開くには、任意のレポートグループのアイコンをクリックします。

標準モード

標準モードは、Hyperion Analyzer で基本的な分析、プレゼンテーション、レポート作成を行うためのインターフェイスです。ほとんどの作業は標準モードで実行できます。

図 33: Hyperion Analyzer HTML Web Client の標準モードのインターフェイス

	Qtr1	Qtr1	Qtr2	Qtr2	Qtr3	Qtr3	Qtr4	Qtr4	Year	Year
	Actual	Budget	Actual	Budget	Actual	Budget	Actual	Budget	Actual	Budget
East	6,292	5,870	7,230	6,760	7,770	7,300	6,448	5,570	27,740	25,500
West	6,950	8,500	7,178	8,800	7,423	9,100	6,755	8,430	28,306	34,830
South	3,732	4,570	4,078	5,000	4,457	5,470	4,013	5,010	16,280	20,050
Central	8,074	8,200	8,701	8,870	8,894	9,060	8,139	7,800	33,808	33,930
Market	25,048	27,140	27,187	29,430	28,544	30,930	25,355	26,810	106,134	114,310

標準モードのユーザインターフェイスは、次のコンポーネントで構成されています。

ツールバー

HTML Web Client のツールバーは、ウィンドウの最上部にあります。ツールバーを利用すると、1回のクリックで主な Hyperion Analyzer タスクにアクセスできます。

図34: Hyperion Analyzer HTML Web Client ツールバー



ツールバーには、3列のハイパーリンクがあります。最上列には、アプリケーション名、レポート名、およびレポートを操作するリンクが表示されます。

表7: HTML Web Client ツールバー最上列のリンク

リンク	説明
Hyperion Analyzer	製品名の Hyperion Analyzer をクリックすると、[バージョン情報]ダイアログボックスが開き、ライセンス情報やバージョン情報が表示されます。
レポート名	レポートを開いているときは、ツールバー最上列のリンクにそのレポートの名前が表示されます。
ホーム	Hyperion Analyzer デスクトップを表示します。
新規	[新規レポート]ダイアログボックス ([レイアウトの選択]) を表示します。
戻る	レポートグループ内の前のレポートが表示されます。
次へ	レポートグループ内の次のレポートが表示されます。
閉じる	レポート マネージャ パネルを表示または非表示にします。
ログオフ	Hyperion Analyzer セッションを終了します。
ヘルプ	情報マップを表示します。

グラデーションの背景を持つ次の列は、Hyperion Analyzer アプリケーションを操作するためのリンクです。

表8: HTML Web Client ツールバー 2 列目のリンク

リンク	説明
データの編集	データの編集モードを開始します。
保存	現在のレポートを、現在の名前で現在の保存場所に保存します。
名前を付けて保存	[レポートの保存]ダイアログ ボックスが表示され、レポートに別の名前を付けて保存したり、別のレポート グループに保存したりします。
再読み込み	最後に保存された状態で現在のレポートを表示します。
分析	現在のレポートを Hyperion Analyzer Java Web Client に表示します。
印刷	現在のレポート ページを別のウィンドウにエクスポートし、Web ブラウザの印刷ダイアログ ボックスを表示します。
ドリル/参照	マウスをクリックしたときのドリル操作をこのドロップダウン リストから選択します。また、[次元ブラウザ]ダイアログ ボックスを表示することもできます。

青緑色の背景の 3 列目には、現在のレポートの表示方法を制御するためのリンクがあります。

表9: HTML Web Client ツールバー 3 列目のリンク

リンク	説明
情報パネル	情報パネルを表示または非表示にします。
フィルタ	フィルタパネルを表示または非表示にします。
ページ	ページコントロール パネルを表示または非表示にします。
スタイル	Java Web Client のレポート スタイルを再現するための JSP テンプレートと、HTML Web Client のインターフェイスを使用するための JSP テンプレートとを切り替えます。
チャートの種類	このドロップダウン リストボックスをクリックして、HTML Web Client でサポートされる表示形式かチャート形式を選択します。
リサイズ	ラベルのサイズを変更する方法は 2 通りあります。
自動	表示可能な領域内でレポートを最大化して表示します。
数値指定	[レポート サイズの変更]パネルを表示または非表示にします。このパネルでは、現在のレポートの幅と高さを任意に指定できます。

データの編集モード

データの編集モードでは、セルの値を編集し、その結果を Hyperion Essbase に保存できます。

データの編集モードは標準モードと同じように見えますが、スプレッドシートのセルを編集できるようになっています。

図35: Hyperion Analyzer のデータの編集モード

Hyperion® Analyzer - レポート 1 | ホーム | 新規 | 戻る | 次へ

表示 | **データの編集** | 保存 | 名前を付けて保存 | 再読み込み | 分析 | 印刷

| 計算: Default | 実行 |

編集集中: "レポート 1" 内の "Report Group" グループ

	Qtr1	Qtr1	Qtr2	Qtr2	Qtr3	Qtr3	Qtr4	Qtr4	Year	Year
	Actual	Budget								
East	6292.1	5870.1	7230.1	6760.1	7770.1	7300.1	6448.1	5570.1	27740	25500
West	6950.1	8500.1	7178.1	8800.1	7423.1	9100.1	6755.1	8430.1	28300	34830
South	3732.1	4570.1	4078.1	5000.1	4457.1	5470.1	4013.1	5010.1	16280	20050
Central	8074.1	8200.1	8701.1	8870.1	8894.1	9060.1	8139.1	7800.1	33800	33930
Market	25048	27140	27187	29430	28544	30930	25355	26810	10613	11431

データの送信 | 終了 | ヘルプ

HTML Web Client には[データの編集]バーは表示されません。そのかわりに、スプレッドシートの各セルが行ごとの入力フィールドとして表示され、[データの送信]ボタンと[終了]ボタンが表示されます。

メイン表示パネル

メイン表示パネルはインターフェイスで最大の領域で、ツールバーの下にあります。メイン表示パネルは、次の4つの動的なパネルを組み合わせたものです。

図36: メイン表示パネル

	Year	Year
	Actual	Budget
East	59,331	55,100
West	98,929	102,330
South	56,964	55,480
Central	105,674	111,440
Market	320,898	324,350

情報パネル

情報パネルは、メイン表示パネルのデータソースと特性を要約したセグメントで構成されています。各セグメントには、状況に依存したさまざまなコントロールとリンクがあります。

情報パネルには、次元の選択メンバを軸間で移動させるアイコンがあります。

図37: HTML Web Client 情報パネルの移動アイコン



上の図は、[上に移動]、[下に移動]、[行軸に移動]、[列軸に移動]、[フィルタに移動]、[ページに移動] アイコンを示しています。

情報パネルを使用すると、以下の操作ができます。

- ツールバーの[情報パネル]リンクをクリックして、情報パネルを表示または非表示にします。

- 軸セグメントのアイコンをクリックして次元の選択メンバを別の軸に移動し、メイン表示パネルの内容を変更します。
- 次元メンバのリンクをクリックして[次元ブラウザ]ダイアログ ボックスを表示し、新しい次元の選択メンバを定義します。
- [非表示]ボタンをクリックして情報パネルを閉じます。

ページコントロールパネル

ページコントロールパネルを使用して、ページ次元のメンバ間を移動できます。

図38: HTML Web Client のページコントロールパネル



メイン表示パネルの交点は、ページ軸の次元ごとに編成されます。ページコントロールパネルの選択項目によって、メイン表示パネルの内容は変化します。

ページコントロールパネルを使用して次の操作ができます。

- ツールバー 3 列目のページリンクをクリックして、ページコントロールパネルを表示または非表示にします。
- ドロップダウンリストボックスをクリックして、ページ次元メンバの組み合わせを選択します。
- [戻る]および[次へ]ボタンをクリックして、ページセットの組み合わせ内を移動できます。
- 複数ページ ボタンをクリックして、次元メンバの組み合わせを複数のドロップダウンリストボックスに割り当てます。

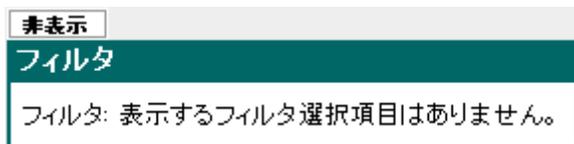
ページコントロールパネルでは、ページ次元を組み合わせる際に複数ページのドロップダウンリストボックスを表示できます。複数ページのドロップダウンリストボックスには、データの有無に関係なく、可能なページの組み合わせがすべて表示されます。単一ページのドロップダウンリストボックスでは、データが含まれていないページの組み合わせは省略されます。

密度の高いページしか表示されないため、疎次元の処理時には、単一ページのドロップダウンリストボックスの使用をお勧めします。

フィルタパネル

フィルタパネルには、フィルタ軸に割り当てられた次元が表示されます。すべてのメイン表示パネルの交点は、フィルタ次元メンバに関連付けられています。

図 39: HTML Web Client のフィルタパネル



フィルタパネルは、詳細バーの[フィルタパネルの表示/フィルタを隠す]ボタンをクリックすることで表示または非表示にできます。

レポート マネージャ パネル

レポート マネージャでは、Hyperion Analyzer レポジトリに対するレポートの整理と抽出をグラフィカル インターフェイスを使用して実行できます。Hyperion Analyzer デスクトップと同様に、レポート グループの検索とグループ内のレポートを開くために使用します。

図 40: レポート マネージャ パネル

レポート マネージャ

山本
 マーケティング
 役員会プレゼンテ
 アクセス禁止
 レポート グループ
 レポート1
 サンプル レポート

レポート マネージャ パネル

Hyperion® Analyzer -

表示 | データの編集 | 保存 | 名

情報パネル | フィルタ | ペ

	Year	Year
	Actual	Budget
East	27,740	25,500
West	28,306	34,830
South	16,280	20,050
Central	33,808	33,930
Market	106,134	114,310

レポート マネージャを使用して、次の操作ができます。

- ▶ ツールバー最上列の[開く][閉じる]リンクをクリックすると、レポート マネージャ パネルを表示または非表示にできます。
- ▶ レポート グループのリンクまたはレポート グループの左側のプラス記号 (+) をクリックすると、レポート グループ内のレポートを一覧表示できます。
- ▶ レポートのリンクをクリックすると、レポートを開くことができます。

ユーザ インターフェイス要素の制御

Hyperion Analyzer のインターフェイスは、必要や目的に合わせてカスタマイズできます。たとえば、データを分析するユーザにとっては、すべてのインターフェイス コンポーネントを表示させ、詳細情報を明らかにする必要があります。一方、分析結果を発表するユーザの場合、メイン表示パネルを画面いっぱいに表示させるために他のインターフェイス要素を非表示にすることもできます。

つまり、ユーザ インターフェイス要素、スタイルおよびテンプレートを多様に組み合わせ、1つのレポートをさまざまな形式で表示することができます。

インターフェイス要素の非表示

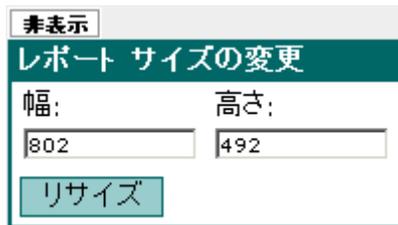
- ▶ 情報パネルを非表示にするには、[情報パネル]リンクをクリックします。
- ▶ フィルタパネルを非表示にするには、[フィルタ]リンクをクリックします。
- ▶ ページコントロール パネルを非表示にするには、[ページ]リンクをクリックします。
- ▶ レポート マネージャ パネルを非表示にするには、ツールバー最上列の[閉じる]リンクをクリックします。

メイン表示パネルのリサイズ

HTML Web Client で Hyperion Analyzer レポートのサイズを設定するには、次の 2 通りの方法があります。

HTML Web Client のツールバー 3 列目にある[数値指定]リンクをクリックして、[レポート サイズの変更]パネルを表示します。

図41: HTML Web Client の[レポート サイズの変更]パネル



レポート サイズの変更	
幅:	高さ:
<input type="text" value="802"/>	<input type="text" value="492"/>
<input type="button" value="リサイズ"/>	

このパネルでは、レポートの幅と高さを入力できます。[リサイズ]ボタンをクリックすると、レポートが指定したサイズに変更され、必要な場合はレポートにスクロールバーが追加されます。

HTML Web Client のツールバー 3 列目にある[自動]リンクをクリックすると、現在のレポートの表示領域が可能な限り最大化されます。

ユーザ インターフェイスのスタイル設定

HTML Web Client の出荷時の JSP テンプレートでは、レポートは次の 2 通りのスタイルで表示されます。

デフォルトのスタイルでは、Java Web Client と同様の画面表示と操作性を提供します。

図42: HTML Web Client: Java Web Client スタイル

	<u>Year</u>	<u>Year</u>
	<u>Actual</u>	<u>Budget</u>
<u>East</u>	27,740	25,500
<u>West</u>	28,306	34,830
<u>South</u>	16,280	20,050
<u>Central</u>	33,808	33,930
<u>Market</u>	106,134	114,310

上の例では、Java Web Client のスプレッドシート オプションによって設定されている色、フォントおよびスタイルのプロパティが使用されています。

ツールバーの 3 列目にある[スタイル]リンクをクリックすると、HTML Web Client のレポートスタイルを使用して同じ内容を表示させることもできます。

図43: HTML Web Client: HTML Web Client スタイル

	<u>Year</u>	<u>Year</u>
	<u>Actual</u>	<u>Budget</u>
<u>East</u>	27,740	25,500
<u>West</u>	28,306	34,830
<u>South</u>	16,280	20,050
<u>Central</u>	33,808	33,930
<u>Market</u>	106,134	114,310

独自の JSP ページを記述して、レポートの画面表示と操作性をカスタマイズすることもできます。

Hyperion Analyzer HTML Web Client をまだ起動していない場合は、61 ページの「[Hyperion Analyzer HTML Web Client の起動](#)」を参照してください。

レポートを開く

レポート グループや特定のレポートを開くには、レポート マネージャと Hyperion Analyzer デスクトップを使用する 2 通りの方法があります。レポート マネージャ パネルを使用すると、レポートとレポート グループを整理して検索することができます。Hyperion Analyzer デスクトップには、使用可能なレポート グループアイコンが表示されます。つまり、Hyperion Analyzer デスクトップには、アクセス権のあるレポート グループアイコンが表示されます。

- ▶ レポートを開くには、次のいずれかの操作を行います。
 - ツールバー最上列の[開く]リンクをクリックして、レポート マネージャ パネルを表示します。

図44: レポート マネージャ パネル



- HTML Web Client ツールバーの[ホーム]リンクをクリックして、該当するレポートグループアイコンのリンクをクリックします。

サンプル レポート グループもデスクトップから開くことができます。

- ▶ サンプル レポート グループを開くには、[Sample Report Group] (サンプル レポート グループ) アイコンをクリックします。

レポート間の移動

開いているレポートは1つのグループとして扱われ、各レポートの参照やレポート間の移動ができます。

メイン表示パネルに表示されているレポートを "現在のレポート" と呼びます。現在のレポートの名前がツールバーに表示されます。

- ▶ 開いているレポート間を移動するには、次のいずれかの操作を行います。
 - ツールバーの[戻る]または[次へ]リンクをクリックします。
 - 移動先のレポートのリンクをクリックします。

表示形式

同一の情報をさまざまな形式で表示できます。次の3種類の基本的な表示形式があります。

- スプレッドシート
- チャート
- ピンボード

表示形式には、それぞれ固有の前提条件があります。

スプレッドシート

スプレッドシートは、複数の次元を列軸、行軸、ページ軸、フィルタ軸で整理したものです。

図45: HTML Web Client のスプレッドシート表示形式

		Qtr1			Qtr2			Actual
		Actual	Budget	Rank	Actual	Budget	Rank	
Colas	Central	\$6,074	\$8,200	1	\$8,701	\$8,870	1	\$8,894
	West	\$6,950	\$8,500	2	\$7,178	\$8,800	3	\$7,423
	East	\$6,292	\$5,870	3	\$7,230	\$8,760	2	\$7,770
	South	\$5,732	\$4,570	4	\$4,879	\$5,000	4	\$4,457
Root Beer	West	\$8,278	\$7,700	1	\$8,524	\$7,970	1	\$8,895
	Central	\$7,598	\$8,420	2	\$7,448	\$8,910	2	\$7,884
	East	\$5,726	\$5,460	3	\$5,902	\$5,650	3	\$5,863
	South	\$5,354	\$4,430	4	\$5,535	\$4,580	4	\$5,590
Cream Soda	Central	\$8,059	\$6,890	1	\$8,498	\$7,220	2	\$8,684
	West	\$8,042	\$6,890	2	\$8,982	\$7,720	1	\$8,816
	East	\$4,868	\$3,680	3	\$5,327	\$4,030	3	\$5,142
	South	\$3,027	\$2,830	4	\$2,988	\$2,790	4	\$3,208
Fruit Soda	West	\$6,403	\$5,540	1	\$8,888	\$5,840	1	\$8,206
	Central	\$8,010	\$6,830	2	\$8,477	\$7,250	2	\$8,672
	East	\$3,735	\$3,880	3	\$3,990	\$4,150	3	\$4,201
Diet Drinks	Central	\$10,544	\$10,460	1	\$10,809	\$10,750	1	\$10,959
	West	\$8,820	\$8,620	2	\$9,086	\$8,910	2	\$9,518
	South	\$4,483	\$4,410	3	\$4,796	\$4,710	3	\$4,947
	East	\$1,884	\$1,700	4	\$2,096	\$1,900	4	\$2,071

スプレッドシートのセルは、行や列だけでなくすべての次元の交点に割り当てられた値を表します。

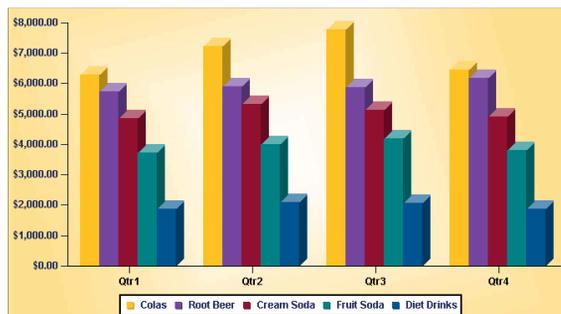
キューブの各セルは、フィルタ軸に割り当てられた次元に基づいてフィルタ処理されます。行や列に割り当てられた次元は、ページ軸に割り当てられた次元によって整理されます。

その結果、多次元スプレッドシートが構成されます。

チャート

Hyperion Analyzer では、スプレッドシートの情報をチャートで表示することができます。

図46: HTML Web Client のチャート表示形式



次のようなさまざまな種類のチャートから選択できます。

- 棒グラフ
- 折れ線グラフ
- 帯グラフ
- 円グラフ
- 領域グラフ
- 曲線領域グラフ
- 横棒グラフ
- 丸点グラフ
- 複合グラフ
- ボックスグラフ
- 4象限グラフ
- 泡グラフ

ピンボード

ピンボードにより、カスタムグラフィックを使用してスプレッドシートのデータを表現できます。ピンボードでは、グラフィック、そのグラフィック上のピン、およびピンの色または状態で次元が表されます。

図 47: HTML Web Client のピンボード表示形式



どのようなグラフィックでもピンボードとして使用できるため、創造性のあるグラフを作成できます。

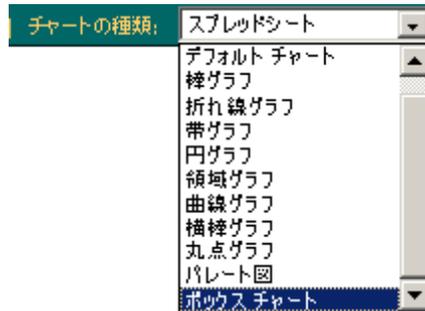
ピンボードを作成するには、まず、トラフィック ライトが定義された多次元スプレッドシートを作成する必要があります。ピンの画像や色は、トラフィック ライトの設定に基づいて動的に変化するからです。トラフィック ライトの詳細は、157 ページの「[トラフィック ライト](#)」を参照してください。

表示形式の変更

表示形式を変更することで情報をわかりやすく、比較しやすいように表示したり、あるいはグラフを用いることもできます。

- ▶ 現在のレポートの表示形式を変更するには、[チャートの種類] ドロップダウン リストボックスから表示形式かチャートの種類を選択します。

図48: HTML Web Client の[チャートの種類] ドロップダウン リストボックス



HTML Web Client では、表示形式にピンボードを選択することはできません。HTML Web Client ではピンボードを表示することはできますが、作成することはできません。

レポート デザイナでは、レポート プロパティの表示形式をロックして、後で使用するユーザがレポートを変更できないようにすることもできます。したがって、他のユーザが作成したレポートの表示形式を変更できないことがあります。

レポートの移動

情報を細かく分析するために、OLAP 交点を変更、展開および集結できます。OLAP キューブ内を移動するこれらの方法は、ナビゲーション手法と呼ばれます。Hyperion Analyzer では、次のようなナビゲーション手法をサポートしています。

ページの移動

ページコントロールパネルを使用して、ページ次元のメンバ間を移動できます。

たとえば、時間次元がページ軸に割り当てられ、カレンダー上の四半期が選択されている場合、四半期を通して同じ行と列の次元を比較することができます。

図 49: HTML Web Client のページコントロールパネル



メイン表示パネルの交点は、ページ軸の次元ごとに編成されます。ページコントロールパネルの選択項目によって、メイン表示パネルの内容は変化します。

ページコントロールパネルを使用して次の操作ができます。

- ツールバー 3 列目のページリンクをクリックして、ページコントロールパネルを表示または非表示にします。
- ドロップダウンリストボックスをクリックして、ページ次元メンバの組み合わせを選択します。
- [戻る]および[次へ]ボタンをクリックして、ページセットの組み合わせ内を移動できます。
- 複数ページボタンをクリックして、次元メンバの組み合わせを複数のドロップダウンリストボックスに割り当てます。

ページコントロールパネルでは、ページ次元を組み合わせる際に複数ページのドロップダウンリストボックスを表示できます。複数ページのドロップダウンリストボックスには、データの有無に関係なく、可能なページの組み合わせがすべて表示されます。単一ページのドロップダウンリストボックスでは、データが含まれていないページの組み合わせは省略されます。

密度の高いページしか表示されないため、疎次元の処理時には、単一ページのドロップダウンリストボックスの使用をお勧めします。

移動

情報パネルの移動アイコンを使用すると、メイン表示で次元の選択メンバを再調整できます。

- ▶ 情報パネルを表示または非表示にするには、ツールバーの [情報パネル] リンクをクリックします。
- ▶ 次元の選択メンバを現在の軸内で、または別の軸に移動するには、軸セグメントの移動アイコンをクリックします。

図 50: HTML Web Client 情報パネルの移動アイコン



上の図は、[上に移動]、[下に移動]、[行軸に移動]、[列軸に移動]、[フィルタに移動]、[ページに移動] アイコンを示しています。

表示形式では、列軸と行軸に少なくとも 1 つの次元が割り当てられている必要があります。

ドリル

ドリル操作によって次元メンバの表示を変更することにより、レポートの詳細レベルを上げたり下げたりします。ユーザ設定とレポートプロパティを使用したカスタマイズ可能なドリル操作により、階層のほとんどどこでも参照できます。

HTML Web Client の出荷時には、以下の 3 つのドリル操作がデフォルトで設定されています。

- [ドリルダウン]では、表示にメンバの子を含めます。
- [ドリルアップ]では、表示にメンバの親を含めます。
- [最上位にドリルアップ]では、表示に最上位の祖先を含めます。

ユーザ設定によって、ドリル処理の結果セットを現在表示されている次元メンバに追加するか、現在表示されている次元メンバと置き換えるかを指定できます。

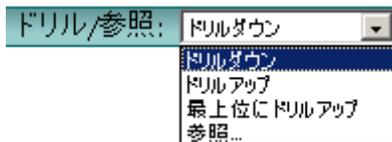
- [選択メンバの追加]では、ドリル処理の結果セットを現在表示されている次元メンバに追加します。

- [選択メンバの置換] では、現在表示されている次元メンバをドリル処理の結果セットで置き換えます。

ただし、[ドリルアップ]と[最上位にドリルアップ]オプションが修正され、ドリル処理レポートのプロパティの設定によってドリルダウン処理を無効にできるようになりました。

- ▶ 現在のレポートでドリルを行うには、[ドリル/参照]ドロップダウンリストボックスからドリル方法を選択します。

図 51: [ドリル/参照]ドロップダウン リストボックス



ドリルリンク

ドリルリンクにより、あらかじめ設定されたリンクを使用して、他のレポートに移動できます。階層移動を行うドリルと、レポート移動を行うドリルリンクとを区別しておくことが重要です。

レポートの保存

レポートを保存すると、クエリ、レポート プロパティおよび書式設定が Hyperion Analyzer レポジトリに保管されます。

ユーザのレポートは、共有可能なレポート グループにしか保存できません。

- ▶ 現在のレポートを保存するには、ツールバーの[保存]リンクをクリックします。

- ▶ 現在のレポートを別の名前または別のレポート グループに保存するには、[名前を付けて保存]リンクをクリックし、[名前を付けて保存]ダイアログ ボックスで必要な情報を入力します。

図52: HTML Web Client の[名前を付けて保存]ダイアログ ボックス

名前を付けて保存...

レポート "レポート 1" を "Report Group" レポートグループに保存しようとしています。

レポート名

レポート 1

レポートの説明

レポート グループ名を入力するか、または...

Report Group

... 一覧から選択してください。

Report Group

保存 キャンセル ヘルプ

レポートの配布

レポートの配布やその経路、およびレポートへのアクセス許可は、レポートグループのプロパティによって管理されます。HTML Web Client ではレポートグループのプロパティを設定できないので、自分の作成したレポートに対するアクセス権を持つユーザを把握しておくことが重要です。

[ユーザグループで共有]レポートグループプロパティ

レポートグループプロパティの[ユーザグループで共有]は、Hyperion Analyzer のレポートとレポートグループの配布を管理します。

このレポートグループプロパティを使用して、レポートとレポートグループをユーザグループに割り当てます。指定されたユーザグループのユーザのみがレポートグループを開くことができます。また、レポートおよびレポートグループのプロパティの変更も、指定されたユーザグループのメンバーのみできます。

HTML Web Client を使用したレポートの作成

▶ HTML Web Client を使用して新しいレポートを作成するには、次の手順を実行します。

1. [新規]リンクをクリックします。

[新規レポート]ダイアログボックスが表示されます。

2. いずれかの表示形式オプションボタンをクリックします。

スプレッドシート、チャート、スプレッドシートとチャートの組み合わせ（上下または左右）のいずれかの表示形式を選択できます。

3. [接続]ドロップダウンリストボックスから、データベース接続名を選択します。

ログイン情報を入力するダイアログボックスが表示される場合があります。

4. [レポートの作成]ボタンをクリックします。

選択した表示形式のレポートがメイン表示パネルに表示されます。

デフォルトでは、アウトライン内の最初の次元が行軸に割り当てられ、残りの次元は列軸に割り当てられます。次元を再調整するには、情報パネルを表示して移動アイコンを使用する必要があります。次元ブラウザを表示して特定の次元の選択メンバーを定義するには、次元名のリンクをクリックします。

レポート データの編集

Hyperion Analyzer でセルの値を編集し、その結果を Hyperion Essbase に保存できます。この作業は、データの編集モードで行います。

図53: Hyperion Analyzer のデータの編集モード

Hyperion® Analyzer - レポート 1 | ホーム | 新規 | 戻る | 次へ

表示 | **データの編集** | 保存 | 名前を付けて保存 | 再読み込み | 分析 | 印刷

| 計算: Default | 実行 |

編集: "レポート 1" 内の "Report Group" グループ

	Qtr1	Qtr1	Qtr2	Qtr2	Qtr3	Qtr3	Qtr4	Qtr4	Year	Year
	Actual	Budget								
East	6292.1	5870.1	7230.1	6760.1	7770.1	7300.1	6448.1	5570.1	27740	25500
West	6950.1	8500.1	7178.1	8800.1	7423.1	9100.1	6755.1	8430.1	28300	34830
South	3732.1	4570.1	4078.1	5000.1	4457.1	5470.1	4013.1	5010.1	16280	20050
Central	8074.1	8200.1	8701.1	8870.1	8894.1	9060.1	8139.1	7800.1	33800	33930
Market	25048	27140	27187	29430	28544	30930	25355	26810	10613	11431

データの送信 | 終了 | ヘルプ

データの編集モードでは、スプレッドシートの各セルが行ごとの入力フィールドとして表示され、[データの送信]ボタンと[終了]ボタンが表示されます。

チャート表示形式からデータの編集モードを選択する場合は、スプレッドシートがそのチャートのものであるかどうかを確認してください。

- ▶ レポート データの値を編集するには、次の手順を実行します。
 1. ツールバーの[データの編集]リンクをクリックしてデータの編集モードを開始します。
 2. 編集するセルの入力フィールドをクリックします。
 3. 新しいデータ値を入力します。
 4. 変更をデータベースに保存する場合は、[データの送信]ボタンをクリックします。

5. 変更が適用されます。
6. [終了]ボタンをクリックしてデータの編集モードを終了します。

レポートの印刷

- ▶ 現在のレポートを印刷するには、ツールバーの[印刷]リンクをクリックします。

Java Web Client での表示

HTML Web Client では、Hyperion Analyzer の高度な分析機能が一部利用できないので、レポートを Java Web Client で表示するほうがよい場合もあります。HTML Web Client のレポートをレポジトリに保存してログアウトし、Java Web Client にログインし直してから開くこともできますが、次の手順で一度に Java Web Client で表示することもできます。

- ▶ 現在のレポートを Java Web Client で表示するには、ツールバーの[分析]リンクをクリックします。

ログオフ

- ▶ HTML Web Client セッションを終了するには、[ログオフ]リンクをクリックします。

サンプル レポート グループの ツアー

これまで Java Web Client と HTML Web Client の概要を説明してきました。ここでは、Hyperion Analyzer の機能を詳しく説明します。

この章では、Hyperion Analyzer のサンプル レポート グループについて、ツアー形式で順を追って説明します。Hyperion Analyzer Java Web Client を起動してサンプル レポート グループを開き、グループ内のレポートを参照します。この過程で、各レポートの主な機能と、Hyperion Analyzer の高度な機能について説明していきます。

- ▶ このチュートリアルを進めるには、左の矢印で示した手順を実行してください。

Hyperion Analyzer Java Web Client の起動

Hyperion Analyzer Java Web Client をまだ起動していない場合は、[33 ページの「Hyperion Analyzer Java Web Client の起動」](#)を参照してください。

サンプル レポート グループを開く

- ▶ Hyperion Analyzer デスクトップを表示するには、ツールバーの[ホーム]ボタンのドロップダウンメニューから[Analyzer デスクトップ]を選択します。

図 54: ツールバーの[ホーム]ボタン



- ▶ [Sample Report Group] (サンプル レポート グループ) アイコンをクリックしてサンプル レポート グループを開きます。

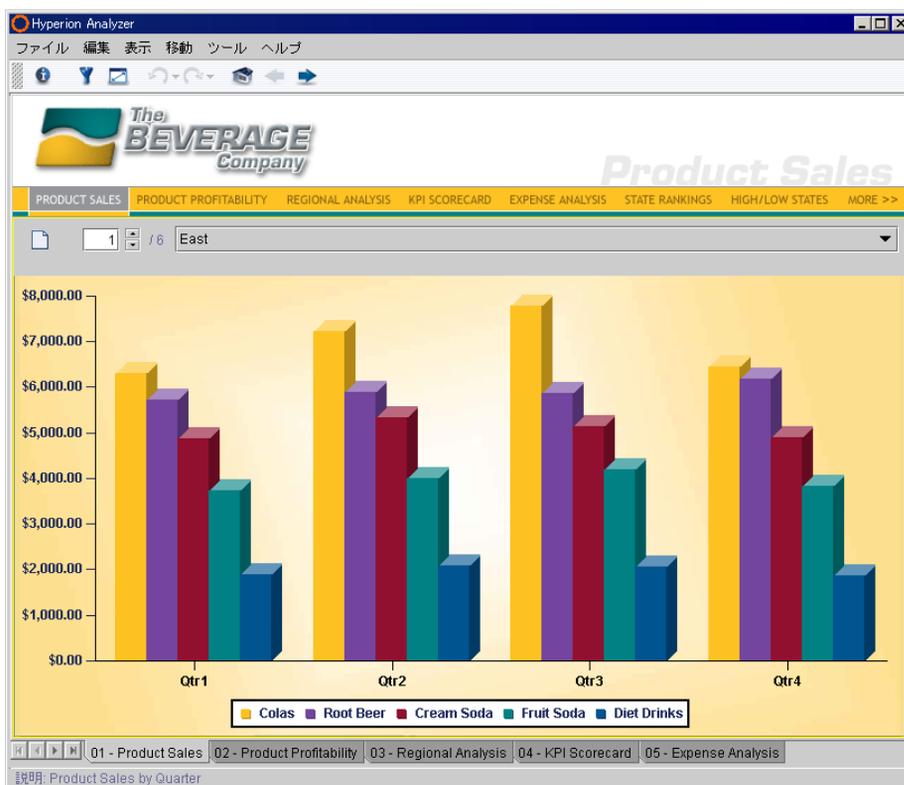
サンプル レポート グループの最初のレポートがメイン表示パネルに表示されます。ウィンドウの下部には、レポート グループ内の他のレポートのタブが表示されます。

製品売上げレポート

サンプル レポート グループを紹介する Product Sales (製品売上) レポートは、OLAP およびリレーショナル分析の開始地点です。

このレポートは、各四半期の製品売上が市場ごとに示されるチャートです。Product Sales レポートでは、各市場のパフォーマンスを比較でき、またすべての市場の要約を見ることができます。

図 55: 製品売上レポート



主な機能

- ▶ ページ コントロール パネルのドロップダウンをクリックすると、選択されている Markets（市場）が変更されます。

現在の売上チャートは縦棒グラフです。チャートの表示形式には、12 種類のチャート オプションが用意されています。
- ▶ ツールバーの[表示]ボタンをクリックすると、ドロップダウン メニューに表示形式とチャート形式がすべて表示されます。
- ▶ 棒グラフの各オブジェクトの上にカーソルを置くと、製品名とそのデータ値が表示されます。

背景を追加できるチャートによって、優れた視角効果を得ることができます。

優れたチャート エンジンによって生成された詳細なチャートに留意してください。チャートにはカスタム ラベルを含めることができ、通貨記号と小数点も指定できます。
- ▶ 次のレポートに進むには[Product Profitability]（製品収益率）レポート タブをクリックします。

製品収益率レポート

Product Profitability（製品収益率）レポートは、各四半期の製品売上げが主要ビジネス指標ごとに示された多次元スプレッドシートです。

行軸および列軸の両方にあるネストされた次元は、交点に関わる複数の次元を指定します。このレポートの最大の特徴は、その分析ツールです。

図 56: 製品収益率レポート

		Qtr1			Qtr2			Qtr3		
		Actual	Budget	Rank	Actual	Budget	Rank	Actual	Budget	Rank
Colas	Central	\$8,074	\$8,200	1	\$8,701	\$8,870	1	\$8,894	\$9,060	1
	West	\$6,950	\$8,500	2	\$7,178	\$8,800	3	\$7,423	\$9,100	3
	East	\$6,292	\$5,870	3	\$7,230	\$6,760	2	\$7,770	\$7,300	2
	South	\$3,732	\$4,570	4	\$4,078	\$5,000	4	\$4,457	\$5,470	4
Root Beer	West	\$8,278	\$7,700	1	\$8,524	\$7,970	1	\$8,895	\$8,320	1
	Central	\$7,269	\$8,420	2	\$7,440	\$8,610	2	\$7,604	\$8,680	2
	East	\$5,726	\$5,460	3	\$5,902	\$6,650	3	\$5,863	\$5,600	3
	South	\$5,354	\$4,430	4	\$5,535	\$4,580	4	\$5,690	\$4,680	4
Cream Soda	Central	\$8,059	\$6,880	1	\$8,438	\$7,220	2	\$8,684	\$7,460	2
	West	\$8,043	\$6,890	2	\$8,982	\$7,720	1	\$9,616	\$8,300	1
	East	\$4,868	\$3,680	3	\$5,327	\$4,030	3	\$5,142	\$3,850	3
	South	\$3,027	\$2,830	4	\$2,989	\$2,790	4	\$3,208	\$3,030	4
Fruit Soda	West	\$8,403	\$5,540	1	\$8,888	\$6,840	1	\$9,206	\$6,070	1
	Central	\$8,010	\$6,830	2	\$8,477	\$7,250	2	\$8,672	\$7,420	2
	East	\$3,735	\$3,880	3	\$3,990	\$4,150	3	\$4,201	\$4,350	3
Diet Drinks	Central	\$10,544	\$10,460	1	\$10,809	\$10,750	1	\$10,959	\$10,830	1
	West	\$8,820	\$8,620	2	\$9,086	\$8,910	2	\$9,518	\$9,330	2
	South	\$4,483	\$4,410	3	\$4,796	\$4,710	3	\$4,947	\$4,830	3
	East	\$1,884	\$1,700	4	\$2,096	\$1,900	4	\$2,071	\$1,880	4

主な機能

Product Profitability レポートには、製品の Actuals（実績）と Budgets（予測）とを比較し、パーセントの違いによってシートの交点を赤、黄、および緑に色分けするトラフィック ライトがあります。

トラフィック ライトにより、アナリストは、各メンバが含まれる範囲や問題点を速やかに見つけることができます。

トラフィック ライト分析ツールでは、2つの次元メンバの比較や1つの次元メンバの固定された制限値に基づいて、次元メンバの値を色分けできます。トラフィック ライトは、ソートまたは順位付けの有無にかかわらず、メンバの値を視覚的に関連付けます。

Product Profitability レポートには、計算式分析ツールによって計算された列が2列挿入されています。

% Total 列は、製品ごとの収益合計のうち各市場が占めるパーセントを計算します。

Rank 列は、計算された **% Total** 列に基づいて表示順位を割り当てます。計算式分析ツールでは、アナリストはより複雑な内部依存型計算式を作成できます。

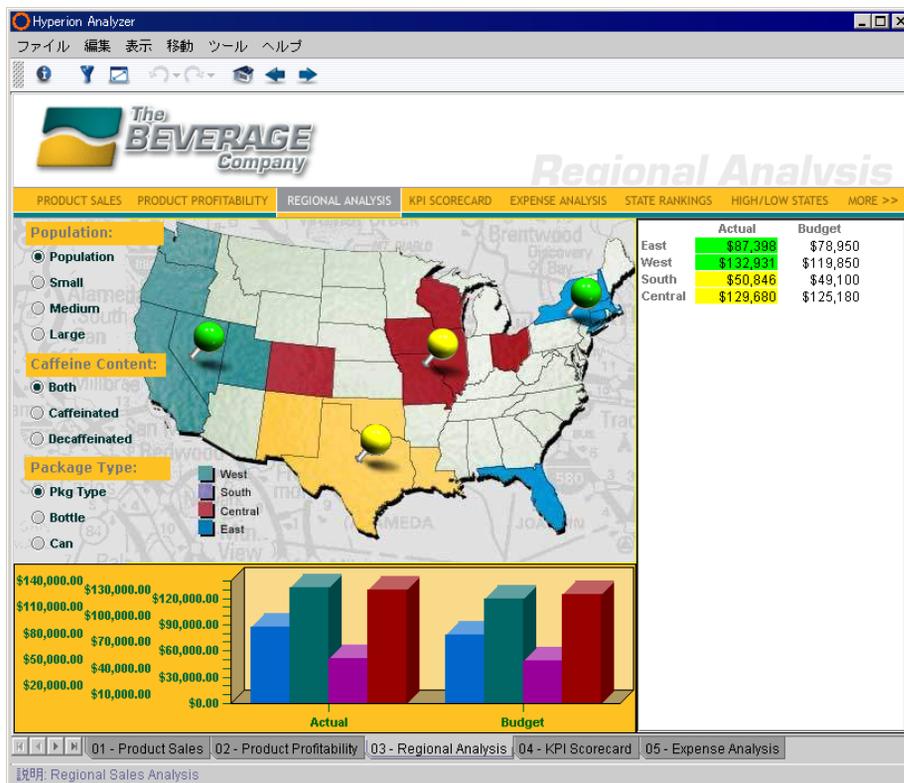
計算列は、レポートのピボットおよび変更時にも維持され、データ値が再読み込みされるときに結果および表示順位を動的に更新します。

- ▶ 次のレポートに進むには**[Regional Analysis]** (地域分析) レポート タブをクリックします。

地域分析レポート

Regional Analysis（地域分析）レポートには、ピンボード、チャートおよびスプレッドシートが組み合わされています。ここでは、カスタム選択コントロールを使用して移動できます。

図 57: 地域分析レポート



主な機能

Regional Analysis レポートの特徴はピンボードです。ピンボードにより、カスタムグラフィックを使用して複数の次元を表現できます。ピンボードでは、グラフィック、そのグラフィック上のピンアイコン、およびピンの色（または状態）で次元が表されます。

Regional Analysis ピンボードの場合、背景の地図が **Markets**（市場）次元を表しています。**Markets** の子は、**East**（東部）、**South**（南部）、**Central**（中部）および **West**（西部）のピンアイコンとして表示され配置されます。**Actual**（実績）と **Budget**（予測）とを比較するトラフィック ライトの定義により、トラフィック ライトのピンの状態が決定されます。

この **Regional Analysis** レポートは、**Hyperion Analyzer** の優れた機能を活用したカスタム レポートの一例です。**Hyperion Analyzer 6.0** 以降、プログラミング技術を使用しない環境で、また **Hyperion Analyzer Java Web Client** を終了せずに高度なカスタム レポート レイアウトを作成できるようになりました。

指定されたデータベース接続のデータベース クエリおよびクライアントベースの書式設定は、表示されないデータソース オブジェクトに格納されます。結果として、そのデータソースを使用しているレポート上のすべてのオブジェクトは統合されています。

つまり、**Regional Analysis** レポートのカスタム選択コントロールにより、相互に関連付けられたピンボード、スプレッドシートおよびチャート オブジェクト間の移動が管理されます。

Hyperion Analyzer では、**Hyperion Essbase** の属性次元をサポートしています。属性は、従来の次元の特性を意味します。**Caffeination**（カフェイン入り製品）および **Package Type**（製品タイプ）は **Product**（製品）次元メンバの属性です。属性次元は、次元ブラウザを使用した次元の選択と同じ方法で参照や選択が可能です。

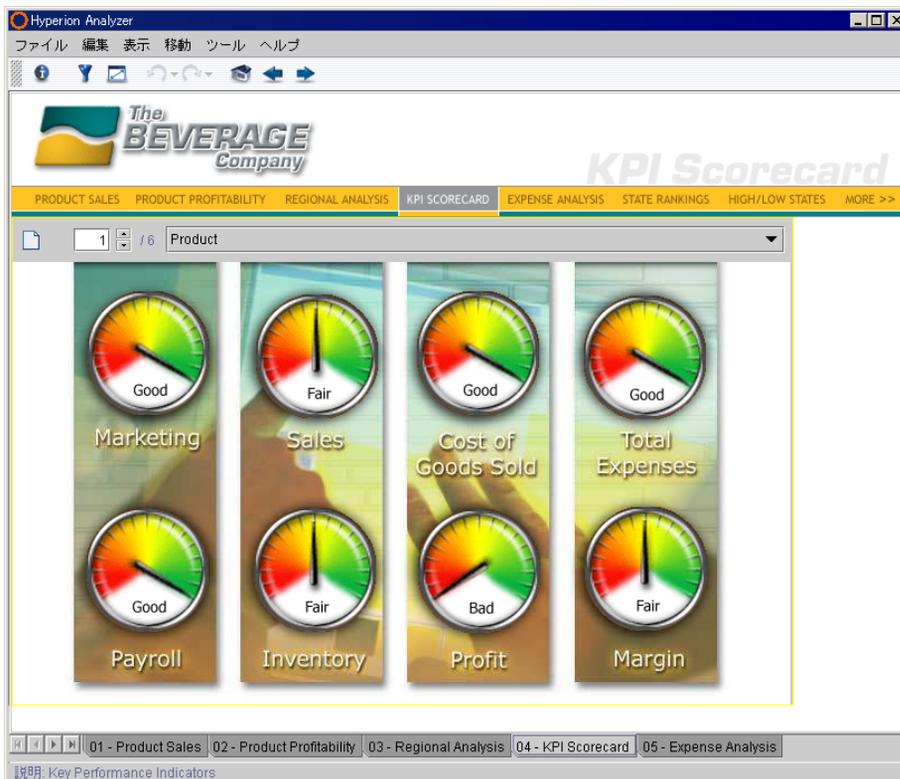
ドリル操作によって表示の次元階層のメンバを含めたり除外することにより、レポートの詳細レベルを上げたり下げたりできます。ドリルの方法はユーザ設定でカスタマイズでき、さまざまな種類の階層移動が可能です。

- ▶ **All Markets**（全市場）から **Southern**（南部）にドリルダウンするには、**South** ピンをダブルクリックします。
チャートとスプレッドシートに **Southern** 市場が追加されます。
- ▶ **Package Type** 選択コントロールにある **[Can]**（缶）オプション ボタンをクリックします。
ここでもやはり、すべてのレポート オブジェクトが選択した項目（缶製品）に対応して変化します。
- ▶ 次のレポートに進むには **[KPI Scorecard]**（KPI スコアカード）レポート タブをクリックします。

KPI スコアカード レポート

Key Performance Indicator Scorecard (KPI スコアカード) レポートでは、ピンボートの別の使用法が示されています。Product (製品) 次元メンバは、主要ビジネス指標のピンアイコンが表示されるページに整理されています。

図 58: KPI スコアカード レポート



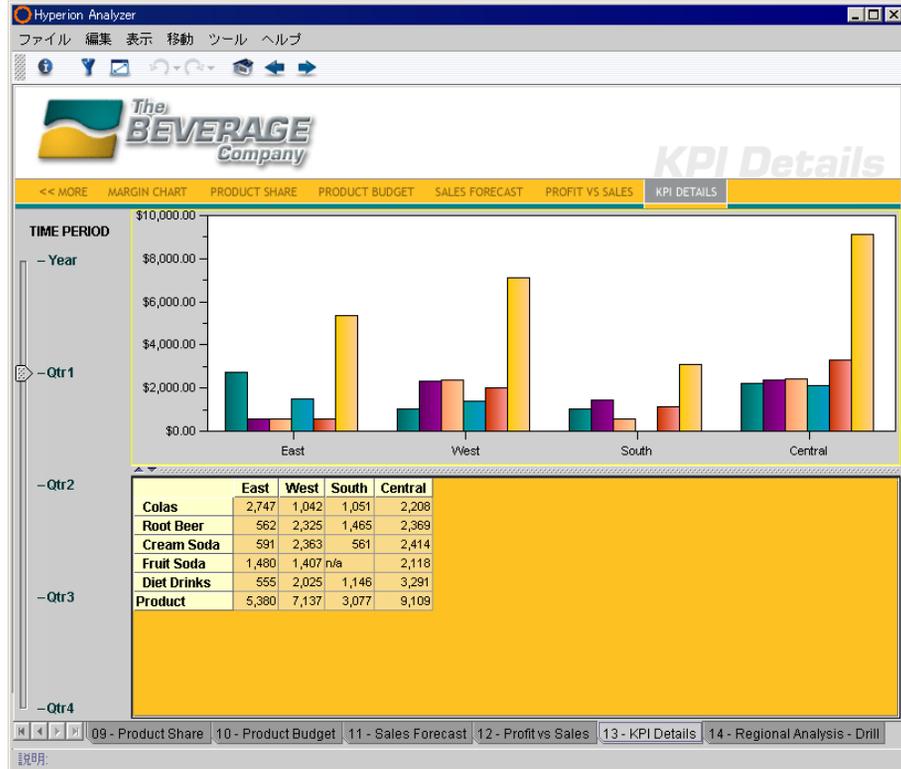
主な機能

ピンアイコンは、Actual (実績) と Budget (予測) とを比較するトラフィック ライト定義を使用して色分けされます。

次元階層をドリルダウンするかわりに、これらのピンは Actual と Budget との比較の本質に関する詳細情報を表示するレポートをドリルリンクするように設定されています。

- ▶ KPI Details (KPI 詳細) レポートをドリルリンクするには、Sales ピンアイコンをダブルクリックします。

図 59: KPI 詳細レポート



KPI Details レポートは、リレーショナル データベースから生成されます。Hyperion Analyzer では、OLAP データを分析するのと同じように、リレーショナル データへのアクセスと分析が可能です。

リレーショナル データベース アクセスを定義するインターフェイスは改良され、リレーショナル データベース ウィザードが加わりました。これで、リレーショナル データの保存場所にかかわらずアクセスが可能になり、リレーショナル データと多次元 データを 1 つのレポートにまとめることができます。

- ▶ レポート タブのスクロール バーにある一番左側のボタンをクリックし、レポート タブセット内の最初のレポート タブを表示します。

- ▶ 次のレポートに進むには[Expense Analysis] (経費分析) レポート タブをクリックします。

経費分析レポート

Expense Analysis (経費分析) レポートには、年間の経費が製品ごとにまとめられています。

図 60: 経費分析レポート

The screenshot shows the Hyperion Analyzer interface for 'The BEVERAGE Company' with the 'Expense Analysis' report selected. The report displays a table with columns for Qtr1, Qtr2, Qtr3, Qtr4, and Year. The rows are categorized by 'Total Expenses', 'Marketing', 'Payroll', and 'Misc'. Each category has sub-rows for 'Actual', 'Budget', 'Variance', and 'Variance %'. The 'Variance' and 'Variance %' values are shown in red, indicating negative variances. Below the table, a 'Report Notes' section contains text explaining the increase in total expenses for Q4 over Q3.

		Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4	Year
Total Expenses	Actual	\$28,240	\$29,210	\$29,960	\$28,587	\$115,997
	Budget	\$20,960	\$21,910	\$22,430	\$19,460	\$84,760
	Variance	-\$7,280	-\$7,300	-\$7,530	-\$9,127	-\$31,237
	Variance %	-36%	-33%	-34%	-47%	-37%
Marketing	Actual	\$15,839	\$16,716	\$17,522	\$16,160	\$66,237
	Budget	\$11,900	\$12,700	\$13,370	\$11,550	\$49,520
	Variance	-\$3,939	-\$4,016	-\$4,152	-\$4,610	-\$16,717
	Variance %	-33%	-32%	-31%	-40%	-34%
Payroll	Actual	\$12,168	\$12,243	\$12,168	\$12,168	\$48,747
	Budget	\$9,060	\$9,210	\$9,060	\$7,910	\$35,240
	Variance	-\$3,108	-\$3,033	-\$3,108	-\$4,258	-\$13,507
	Variance %	-34%	-33%	-34%	-54%	-38%
Misc	Actual	\$233	\$251	\$270	\$259	\$1,013
	Budget	\$233	\$251	\$270	\$259	\$1,013
	Variance	-\$233	-\$251	-\$270	-\$259	-\$1,013

Report Notes: COO 12/31- Expenses for quarter 4 were abnormally high. This is due to an increase in payroll expenses caused by the hiring of contract employees.
CEO 1/01- Does this account for the full 10% increase in total expenses for Q4 over Q3?

主な機能

通常のスプレッドシート表示形式を使用していますが、この Expense Analysis レポートはカスタム レポートです。

Expense Analysis レポートには、レポートに注釈を加える際に使用される動的なテキスト ボックスが含まれています。これにより、アナリストは、特定の費用および長期間利益に関連する注釈を確認できます。

- ▶ 情報パネルを表示するには、詳細バーの[情報パネルの表示]をクリックします。

情報パネルは、メイン表示パネルのデータソースと特性を要約したセグメントで構成されています。各セグメントには、さまざまなコントロールと、状況に依存した右クリック メニューがあります。情報パネルの軸セグメント間で次元をドラッグアンドドロップすると、メイン表示パネルの表示内容が変更されます。また、情報パネル内の次元を右クリックすると、新しい次元ブラウザを選択できます。

- ▶ [State Rankings] (州の順位付け) レポート タブが表示されるまでレポート タブのスクロール ボタンをクリックし、[State Rankings] レポート タブをクリックします。

州の順位付けレポート

State Rankings（州の順位付け）レポートは、昨年度の州の市場性のランク付けを示します。このレポートでは、トラフィック ライトの定義を使用して、ランクが上がったか下がったかによって項目を色分けします。

図 61: 州の順位付けレポート

	Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4
	Rank	Rank	Rank	Rank
California	1	1	1	1
Illinois	2	3	3	3
New York	3	2	2	2
Nevada	4	4	4	4
Iowa	5	5	5	5
Colorado	6	6	6	6
Oregon	7	7	8	7
Washington	8	9	10	8
Texas	9	10	9	10
Ohio	10	12	13	12
Utah	11	11	11	9
Florida	12	8	7	11
Wisconsin	13	13	12	13
Massachusetts	14	14	14	14
Connecticut	15	17	18	16
Missouri	16	16	16	18
Oklahoma	17	15	15	15

主な機能

アナリストは、Measures（指標）次元の各メンバ（Sales、Cost of Goods Sold、Margins、Total Expenses および Profit）ごとに異なる表示順位を表示できます。

第 2 四半期、第 3 四半期および第 4 四半期のそれぞれの列に適用されているトラフィック ライトの基準の説明が情報パネルに表示されていることに留意してください。これで、アナリストは色分けの本質を理解し、またトラフィック ライトの定義を変更するかどうかを決定できます。

また、第 1 四半期のランクに基づいて市場を降順に並べ替えるソート分析ツールが利用できることも情報パネルに示されます。

- ▶ 情報パネルを隠すには、詳細バーの[情報パネルを隠す]をクリックします。

分析の対象を絞り込むには、業績が低下している州にスプレッドシートを限定します。トラフィック ライトの定義はすでに設定されているので、トラフィック ライトの色にフィルタを適用することで対象を絞り込むことができます。

表示/非表示の制限分析ツールでは、メンバ名、トラフィック ライトの色、またはデータ値の基準を使用してメイン表示パネルの次元メンバを挿入または削除できます。これは、分散した値を分析するときに最適の方法です。

- ▶ 表示/非表示の制限定義を作成するには、次の手順を実行します。

1. [Q2]次元メンバのラベルを右クリックし、[分析ツール]>[表示/非表示の制限]を選択します。
2. [メソッドの選択]グループから[表示]オプションを選択します。
3. [対象]グループの[いずれかの色]オプションをクリックします。
4. [条件の設定]グループで、ドロップダウンリストから[=]を選択し、[色]ボタンをクリックします。
5. [色の選択]ダイアログ ボックスの[Red] (パフォーマンスの低下を示す色) を選択します。
6. [Ctrl]キーを押しながら、次元/属性パネルで[Q2 Rank]、[Q3 Rank]および[Q4 Rank]メンバ名をクリックします。
7. [適用]をクリックし、[OK]をクリックします。

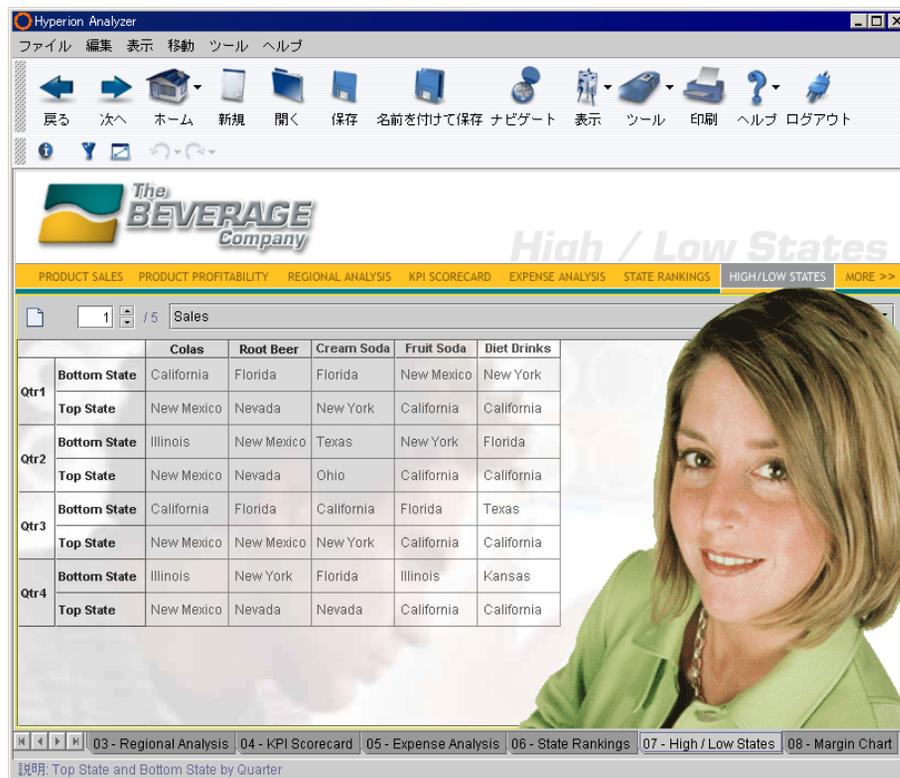
これで、スプレッドシートには Market (市場) 次元メンバのみが表示されます。Market 次元メンバには赤色のトラフィック ライトで示される交点が少なくとも 1 つ表示されます。この操作によって、業績の低下に関連する問題をより簡単に識別し、その解決に取り組むことができます。

- ▶ ツールバーの[次へ]をクリックして High/Low States (上位/下位の州) レポートに進みます。

上位/下位の州レポート

High/Low States（上位/下位の州）レポートは、特定の製品または製品全体について売上が最高および最低であった州を四半期ごとに要約します。

図 62: 上位/下位の州レポート



主な機能

このレポートには、計算された列のみが表示されます。次元メンバおよびデータ値のすべての交点は、表示/非表示の制限分析ツールによって表示されません。

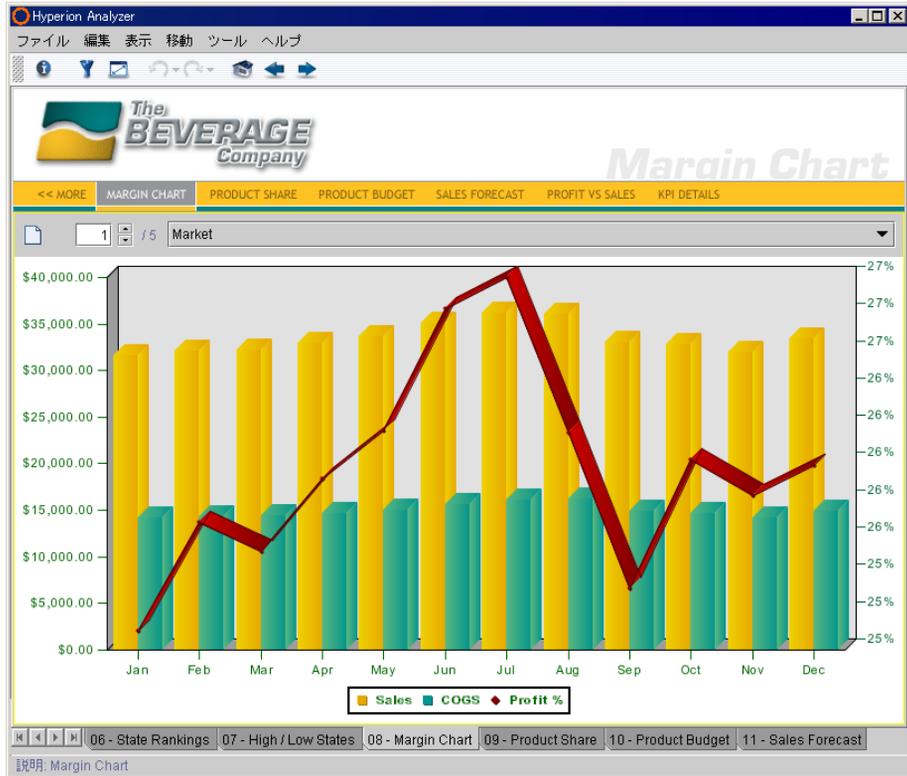
売上が最上位および最下位の州は、計算式分析ツールの Max および Min 計算式を使用して計算されます。

- ▶ ツールバーの[次へ]をクリックして Margin Chart(限界収益点)レポートを表示します。

限界収益点レポート

Margin Chart (限界収益点) レポートは、売上の数字および収益のパーセントの両方を製品ごとに表示します。

図 63: 限界収益点レポート



主な機能

新しいチャート エンジンによって、複数のチャート形式を同時に表示することが可能になりました。サンプルでは、棒グラフと 3D 折れ線グラフが同時に表示されています。

棒グラフは、ドル建て（または円建て）の売上値を示す Y 軸とは反対側にあるセカンダリ Y 軸に関連していることに留意してください。セカンダリ Y 軸は、収益の割合がパーセントで示されています。

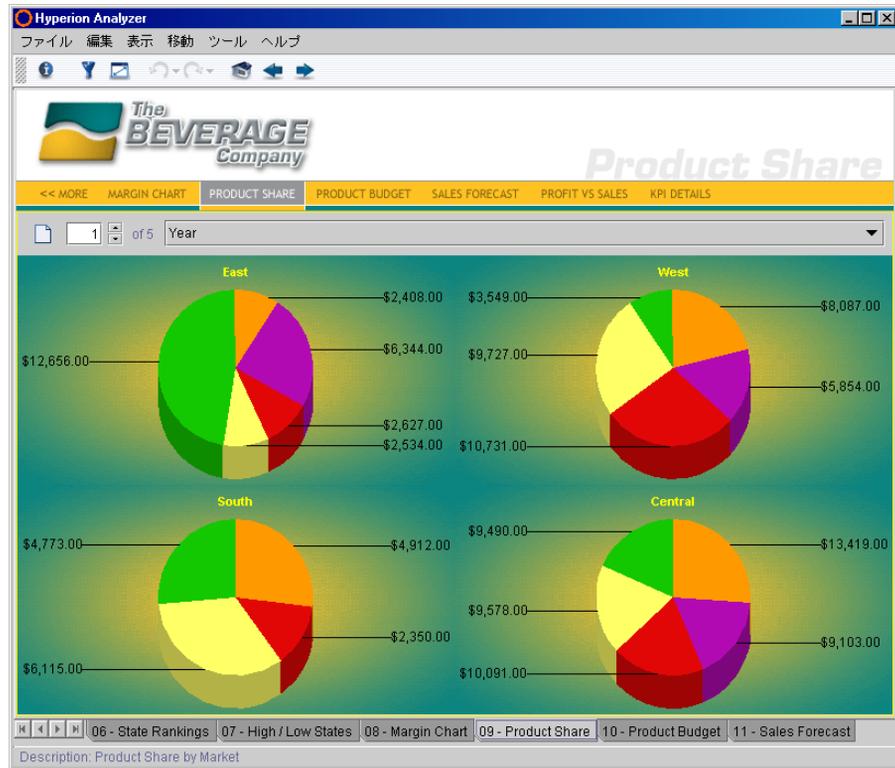
これにより各軸に異なるスケールを設定でき、2 つの次元のデータを同時に表示できます。たとえば、パーセントを表す Y 軸が、10 万の桁の数値と同じ軸上にある場合、範囲が 0 ~ 100 であるパーセント値は非常に見づらくなります。このチャートにはパーセント用の Y 軸が別にあるため、比較可能な分析値としてパーセントを見ることができます。

- ▶ 次のレポートに進むには[Product Share] (製品別シェア) レポート タブをクリックします。

製品別シェア レポート

Product Share（製品別シェア）レポートは、複数の円グラフを使用して製品の占有率を市場地域ごとに示しています。このような種類のレポートは通常、分散度分析に使用されます。

図64: 製品別シェア レポート



主な機能

複数のチャートを同時に表示できます。同じ形式のチャートであっても、これは大きな特徴と言えます。

- ▶ 円グラフを回転するには、円グラフのくさび部分をクリックして円を描くようにドラッグします。
- ▶ くさび部分を分離するには、次のいずれかの操作を行います。
 - 円グラフのくさび部分を右クリックしてドラッグします。
 - 円グラフを選択して、[Page Up]キーまたは[Page Down]キーを押します。
- ▶ くさび部分をドラッグアンドドロップして次元階層をドリルダウンします。
- ▶ 次のレポートに進むには[Product Budget]（製品売上予測）レポート タブをクリックします。

製品売上予測レポート

Product Budget（製品売上予測）レポートは、1年の中間期におけるスプレッドシートレポートに、Actual（実績）次元メンバと Budget（予測）次元メンバを組み合わせて1年間の数値を推測します。このレポートは、財政レポートではよく見られる非対称分析を使用しています。

図 65: 製品売上予測レポート

		Qtr1	Qtr2	Qtr3	Qtr4
		Actual	Actual	Actual	Budget
Colas	East	\$6,292	\$7,230	\$7,770	\$5,570
	West	\$6,950	\$7,178	\$7,423	\$8,430
	South	\$3,732	\$4,078	\$4,457	\$5,010
	Central	\$8,074	\$8,701	\$8,894	\$7,800
	Market	\$25,048	\$27,187	\$28,544	\$26,810
Root Beer	East	\$5,726	\$5,902	\$5,863	\$5,790
	West	\$8,278	\$8,524	\$8,885	\$7,820
	South	\$5,354	\$5,535	\$5,690	\$3,780
	Central	\$7,269	\$7,440	\$7,504	\$9,260
	Market	\$26,627	\$27,401	\$27,942	\$26,640
Cream Soda	East	\$4,868	\$5,327	\$5,142	\$3,170
	West	\$8,043	\$8,982	\$9,816	\$7,570
	South	\$3,027	\$2,989	\$3,208	\$2,930
	Central	\$8,059	\$8,438	\$8,684	\$6,880
	Market	\$23,997	\$25,736	\$26,650	\$20,550
Fruit Soda	East	\$3,735	\$3,990	\$4,201	\$3,850
	West	\$8,403	\$8,888	\$9,206	\$5,280
	Central	\$8,010	\$8,477	\$8,672	\$6,340
	Market	\$20,148	\$21,355	\$22,079	\$15,470
	Diet Drinks	East	\$1,884	\$2,096	\$2,071
West		\$8,820	\$9,086	\$9,518	\$8,830
South		\$4,483	\$4,796	\$4,947	\$4,010
Central		\$10,544	\$10,900	\$10,950	\$10,500
Market		\$25,736	\$27,880	\$27,506	\$20,280

7

主な機能

非対称分析レポートには、軸全体にわたって少なくとも1つのメンバが異なる、ネストされた次元が表示されます。メンバ数またはメンバの名前が異なることはありますが、原因にかかわらず次元メンバの対称性は欠如しています。

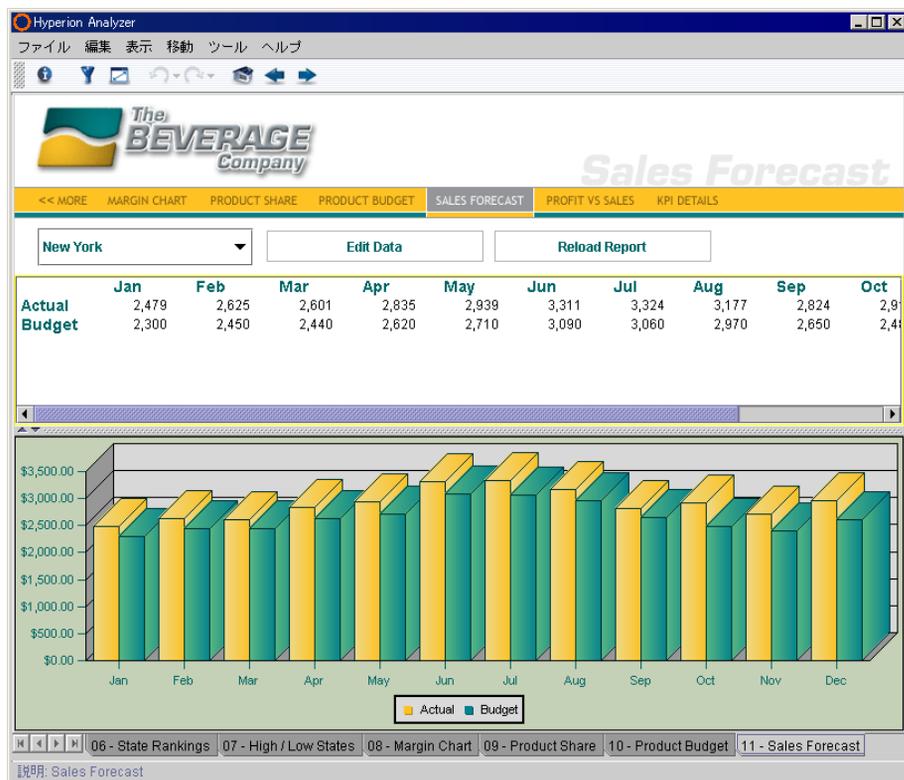
Hyperion Analyzer では、特定の行、列およびチャート オブジェクトを隠すことによって非対称分析を行うことができます。

- ▶ 次のレポートに進むには[Sales Forecast](売上予測) レポート タブをクリックします。

売上予測レポート

Sales Forecast (売上予測) レポートにはスプレッドシートとチャートが含まれ、売上および予算の数値を予測してその数値を OLAP データベースに適用することで、このレポートを使用して結果をリアルタイムで評価できます。

図 66: 売上予測レポート



主な機能

許可を持つユーザは、セルの値を編集し、その結果を Hyperion Essbase に保存できます。

データの編集モードは、スプレッドシート表示形式からのみ開始できます。

このモードでは、メイン表示パネルの下部に[データの編集]バーが表示されます。

- ▶ データ値を編集するには、次の手順を実行します。
 1. スプレッドシートのセルのいずれかを右クリックして、[データの編集]を選択します。

スプレッドシートに[データの編集]バーが表示されます。
 2. 編集するデータ値が含まれているセルをダブルクリックします。

セルの枠線が灰色に変わり、セルの書式が変更できなくなります。
 3. 新しいデータ値を入力し、セルの外側をクリックします。
 4. [データの編集]バーの[変更を確定してデータベース サーバに送信]をクリックします。

許可を持つユーザのみが変更内容をデータベースへ書き込むことができます。データベースへの書き込みが完了すると、処理が完了したことを示すダイアログボックスが表示されます。

データベースに計算されたメンバが含まれる場合、[データベースの計算]ボタンをクリックするとデータベースを再計算することができます。
 5. [データの編集モードを閉じて使用不可に設定]ボタンをクリックしてデータの編集モードを終了します。
- ▶ 1回のクリック操作でレポート グループをすべて閉じるには、いずれかのレポートのタブを右クリックして[すべて閉じる]を選択します。

レポートを作成するには、次の2つの方法があります。

- 既存のレポートを変更し、新しいレポート名で保存するか、または新しいレポートグループに保存（[名前を付けて保存]コマンドを使用）します。
- 新規レポートウィザードを使用します。

この章では、Java Web Client を使用した Hyperion Analyzer のレポート作成手順を説明します。

HTML Web Client を使用した新規レポートの作成手順は、[84 ページの「HTML Web Client を使用したレポートの作成」](#)を参照してください。

新規レポートの作成の概要

新規レポートの作成には、次の手順が含まれます。

1. Hyperion Analyzer Java Web Client の起動
2. 新規レポートウィザードの起動
 - a. 表示形式の選択
 - b. データベース接続の選択
 - c. Cube Navigator によるクエリの定義
 - d. 次元ブラウザによる次元の選択メンバの定義
3. レポートの保存
4. スプレッドシートの書式設定
5. トラフィック ライト定義の作成
6. 算出メンバの作成

7. Web ページとしてレポートを保存

Hyperion Analyzer Java Web Client の起動

Hyperion Analyzer Java Web Client をまだ起動していない場合は、33 ページの「Hyperion Analyzer Java Web Client の起動」を参照してください。

新規レポート ウィザードの起動

Hyperion Analyzer では、新規レポートを作成する際にレポートのレイアウト、OLAP クエリの作成、次元の選択メンバの定義を行うための一連のダイアログ ボックス（新規レポート ウィザード）が表示されます。

- ▶ 新規レポート ウィザードを起動するには、ツールバーの[新規]ボタンをクリックします。

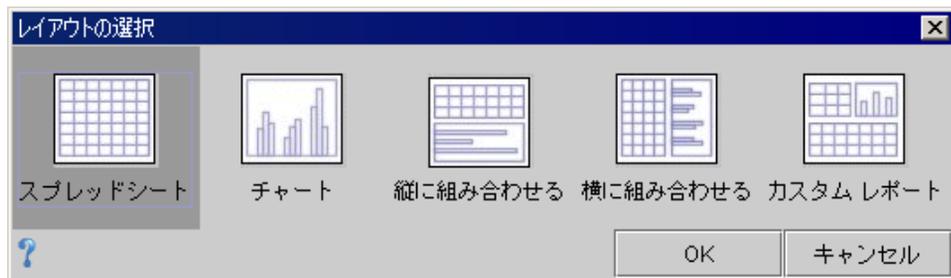
図 67: ツールバーの[新規]ボタン



表示形式の選択

ウィザードで最初に表示される[レイアウトの選択]ダイアログ ボックスでは、作成するレポートの表示形式を選択します。

図 68: [レイアウトの選択]ダイアログ ボックス



このダイアログ ボックスではスプレッドシートとチャートを選択できますが、ピンボードは選択できません。ピンボードを使用するには、トラフィック ライトの定義されたスプレッドシートを最初に作成する必要があるからです。ピンボードの作成にはピンボード デザイナを使用します。

[縦に組み合わせる]および[横に組み合わせる]レイアウト オプションもあります。これらのオプションでは、レポートにスプレッドシートとチャートを含めることができます。

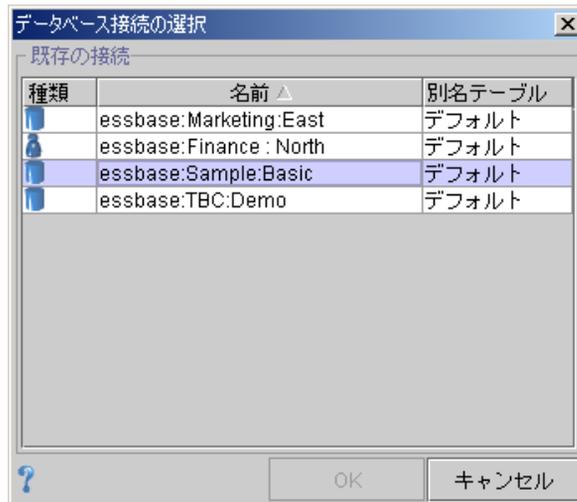
最後のオプションは、カスタム レポートを作成するためのオプションです。詳細は、[第9章「カスタム レポートの作成」](#)を参照してください。

- ▶ スプレッドシートの表示形式を選択するには、[スプレッドシート]アイコンを選択して[OK]をクリックします。

データベース接続の選択

ウィザードで2番目に表示される[データベース接続の選択]ダイアログ ボックスでは、Hyperion Essbase、Hyperion Financial Management またはリレーショナル データベース接続のいずれかを選択します。ここで選択するサーバに対してクエリが実行され、レポートのデータ値が取得されます。

図69: [データベース接続の選択]ダイアログ ボックス



各データベース接続には、固有のアイコンがあります。

図 70: 共有データベース接続と個人データベース接続のアイコン



共有データベース接続は管理者によって定義され、許可を与えられたすべてのユーザが使用できます。個人データベース接続は、ユーザ独自の分析用に作成し、それを作成したユーザのみが使用できます。

[名前]列ヘッダーにある矢印をクリックすると、データベース接続名を昇順または降順にソートできます。

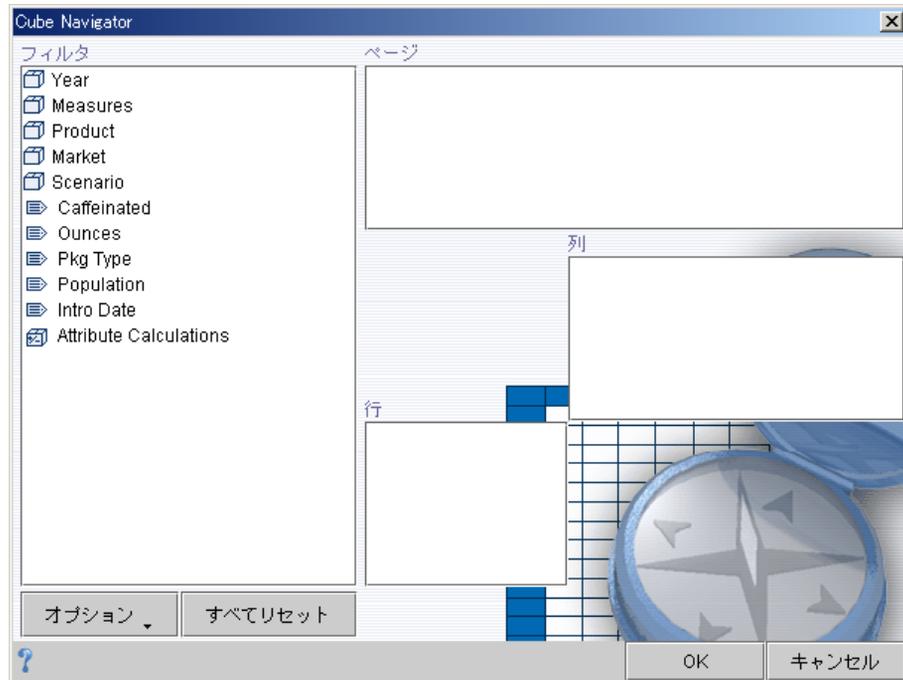
- ▶ データベース接続を選択するには、データベース接続名をクリックしてから [OK] をクリックします。

メモ: このチュートリアルでは、共有データベース接続の [essbase: Sample: Basic] を選択します。管理者によってデータベース接続名が変更されている場合もあるので、データベース接続名が不明な場合は管理者に確認してください。

Cube Navigator

ウィザードで3番目に表示される [Cube Navigator] ダイアログボックスは、レポートのレイアウトやデータベースクエリの定義を行うためのグラフィカルインターフェイスです。

図 71: Cube Navigator



データベース接続を選択すると、そのデータベース アウトラインで定義されている次元、属性および計算された次元が Cube Navigator に表示されます。

図 72: 次元、属性、計算された次元の各アイコン



デフォルトでは、すべての次元はフィルタ軸にまとめて表示されます。

Cube Navigator には、ページ軸、列軸および行軸のパネルも用意されています。

次元、属性、計算された次元を他の軸にドラッグアンドドロップすると、クエリの作成プロセスが起動し、次元がレポート レイアウト内でその軸に割り当てられます。

次元ブラウザによる次元の選択メンバの定義

次元をいずれかの軸にドラッグアンドドロップすると、[次元ブラウザ]ダイアログボックスが表示されます。

[次元ブラウザ]ダイアログボックスでは、次元の選択メンバを定義します。

特定の次元メンバを選択すると、クエリおよびレポートでさらに詳細な情報を表示できるようになります。

図 73: 次元ブラウザ



次元ブラウザを使用すると、以下の操作ができます。

- 次元階層の展開と縮小
- 個別の次元メンバの選択
- 家系を使用した次元メンバの選択
- 多次元階層による次元メンバの選択
- サーバ固有の定義からの次元メンバの選択

- あらかじめ定義された選択リストからの次元メンバの選択
- 次元のラベルモードの表示
- 選択項目からの次元メンバの削除

次元階層を展開または縮小するには、プラス記号 (+) またはマイナス記号 (-) をクリックするか、次元メンバ名をダブルクリックします。

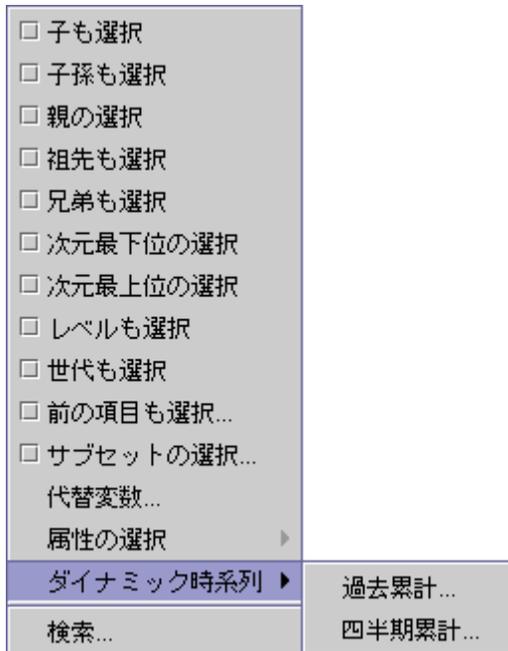
次元の選択メンバを指定するには、次元階層を展開し、目的の次元メンバのチェックボックスをクリックして選択します。選択した次元メンバが右側の[選択]パネルに表示されます。

次元ブラウザでは、一連のオプション ボタンを使用して次元のラベルモードを選択できます。メンバの説明や固有の ID を表示することも、デフォルトのユーザ設定のままにすることもできます。

動的なメンバ選択

多数のメンバセットが含まれる次元では、次元ブラウザの右クリックメニューを使用すると簡単に選択メンバを定義できます。次元メンバ名を右クリックすると、家系やデータベース固有の選択オプションによる選択が可能になります。

図 74: 次元ブラウザの右クリックメニュー (Essbase:Sample:Basic)



詳細なメンバ選択項目は動的に行われます。つまり、右クリックした次元メンバがデータベースアウトライン内に存在している限り、アウトラインが拡大または縮小されているか、あるいは再定義されているかどうかにかかわらず、詳細なメンバ選択項目が適用されます。これによって、選択内容が最新の状態に保たれ、データソースでの変更をレポートに反映できるようになります。

クエリの定義

ここまで Cube Navigator と次元ブラウザの概要を説明してきました。次にこのチュートリアルで使用するクエリとレポートを定義します。Cube Navigator と次元ブラウザを使用して、次に示す次元の割り当てと選択メンバを定義します。

Year 次元の定義

- ▶ レポート レイアウトに **Year**（年）次元を配置して次元の選択メンバを定義するには、次の手順を実行します。
 1. **[Year]**次元を**[列]**パネルにドラッグアンドドロップします。

列軸パネルに次元をドロップすると、**Year** 次元ブラウザが開きます。
 2. **Year** の横のプラス記号 (+) をクリックして次元階層を展開します。

Year の子が表示されます。
 3. 四半期 (**Q1**、**Q2**、**Q3**および**Q4**) のチェックボックスをクリックして選択します。
 4. **[OK]**をクリックします。

Cube Navigator が再度表示されます。

Scenario 次元の定義

- ▶ レポート レイアウトに **Scenario**（シナリオ）次元を配置して次元の選択メンバを定義するには、次の手順を実行します。
 1. **[Scenario]**次元を**[列]**パネルにドラッグします。

列軸パネルに次元をドロップすると、**Scenario** 次元ブラウザが開きます。
 2. **Scenario** 次元の**[Actual]**（実績）および**[Budget]**（予算）を選択します。
 3. **[OK]**をクリックします。

Cube Navigator が再度表示されます。

Product 次元の定義

- ▶ レポート レイアウトに **Product**（製品）次元を配置して次元の選択メンバを定義するには、次の手順を実行します。
 1. **[Product]**次元を**[行]**パネルにドラッグします。

行軸パネルに次元をドロップすると、**Product** 次元ブラウザが開きます。
 2. **[Product]**次元名を右クリックします。

右クリック メニューに詳細なメンバ選択項目のオプションが表示されます。

3. [子も選択]を選択します。

この操作によって、次元階層で Product 次元の直下にある Product メンバも選択されます。

4. [説明の表示]オプション ボタンをクリックします。

5. [OK]をクリックします。

Cube Navigator が再度表示されます。

Market 次元の定義

- ▶ レポート レイアウトに Market (市場) 次元を配置して次元の選択メンバを定義するには、次の手順を実行します。

1. [Market]次元を[行]パネルにドラッグアンドドロップします。

Market 次元ブラウザが表示されます。

2. Market の横のプラス記号 (+) をクリックして、次元階層を展開します。

3. [Central] (中部) 次元メンバを右クリックします。

右クリック メニューに詳細なメンバ選択項目のオプションが表示されます。

4. [レベルも選択]を選択します。

Central (すべての地域) と同じレベルにあるすべての Market 次元メンバが選択されます。

5. [OK]をクリックします。

Cube Navigator が再度表示されます。

Measures 次元の定義

- ▶ レポート レイアウトに Measures (指標) 次元を配置して次元の選択メンバを定義するには、次の手順を実行します。

1. [Measures]次元を[ページ]パネルにドラッグします。

Measures 次元ブラウザが表示されます。

2. [Sales] (売上) 次元メンバを選択します (+Measures > +Profit > +Margins > Sales)。
Sales 指標をページ軸に配置することで、すべてのレポートの交点が Sales の数字に関連付けられます。
3. [OK] をクリックします。
Cube Navigator が再度表示されます。

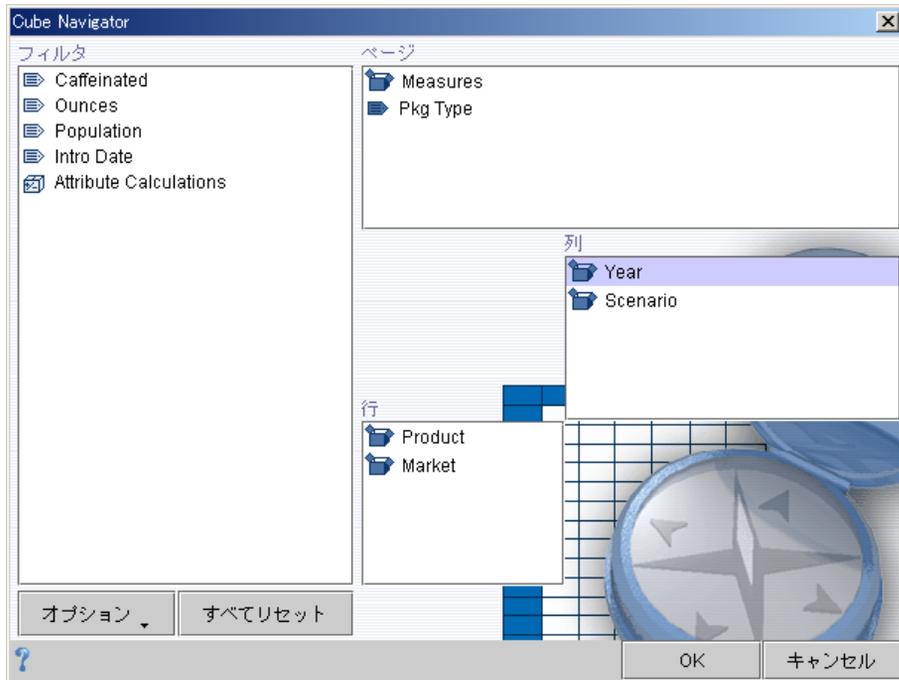
Package Type 次元の定義

- ▶ レポート レイアウトに Package Type (製品タイプ) 次元を配置して次元の選択メンバを定義するには、次の手順を実行します。
 1. [Pkg Type] 属性次元を[ページ]パネルにドラッグします。
Pkg Type 次元ブラウザが表示されます。
 2. [Pkg Type] を右クリックし、[子も選択] を選択します。
これで、クエリ結果セットは Package Type 属性次元の子によってページにまとめられます。Sales 指標はページ軸にもあるため、すべてのレポートの交点は Sales の数字および現在の製品タイプ (Package Type) に関連付けられます。
 3. [OK] をクリックします。
Cube Navigator が再度表示されます。

Cube Navigator のオプション

Cube Navigator の [オプション] ボタンには複数のオプションがあります。これらのオプションによって、データベース クエリの送信前にレポート パラメータを指定できます。

図 75: Cube Navigator



クエリの送信

ここまでで、次元がすべて配置され、次元の選択メンバが定義されました。次に、選択したデータベース接続を使用して、データソースにクエリを送信します。

- ▶ OLAP クエリを多次元データベースに送信するには、Cube Navigator の [OK] ボタンをクリックします。

要求したデータ値が返され、クエリパラメータごとに表示されます。

図 76: 完成したレポート

		Qtr1		Qtr2		Qtr3		Qtr4
		Actual	Budget	Actual	Budget	Actual	Budget	Actual
Colas	East	6,292	5,870	7,230	6,760	7,770	7,300	6,448
	West	6,950	8,500	7,178	8,800	7,423	9,100	6,755
	South	3,732	4,570	4,078	5,000	4,457	5,470	4,013
	Central	8,074	8,200	8,701	8,870	8,894	9,060	8,139
Root Beer	East	5,726	5,460	5,902	5,650	5,863	5,600	6,181
	West	8,278	7,700	8,524	7,970	8,885	8,320	8,513
	South	5,354	4,430	5,535	4,580	5,690	4,680	5,429
	Central	7,269	8,420	7,440	8,610	7,504	8,680	6,993
Cream Soda	East	4,868	3,680	5,327	4,030	5,142	3,850	4,904
	West	8,043	6,890	8,982	7,720	9,616	8,300	8,750
	South	3,027	2,830	2,989	2,790	3,208	3,030	3,334
	Central	8,059	6,880	8,438	7,220	8,684	7,460	8,034
Fruit Soda	East	3,735	3,880	3,990	4,150	4,201	4,350	3,819
	West	8,403	5,540	8,888	5,840	9,206	6,070	8,537
	South	n/a						
	Central	8,010	6,830	8,477	7,250	8,672	7,420	8,292

これで、最初のレポートが完成しました。

レポートの保存

作成したレポートを Hyperion Analyzer レポジトリに保存するには、[名前を付けて保存]コマンドを使用する必要があります。

- ▶ 作成したレポートを保存するには、次のいずれかの操作を行います。
 - ツールバーの[名前を付けて保存]ボタンをクリックします。
 - [レポート]タブを右クリックして[名前を付けて保存]を選択します。
 - メニューバーから[ファイル]>[名前を付けて保存]を選択します。

[名前を付けて保存]コマンドでは[レポートの保存]ダイアログ ボックスが表示され、このダイアログ ボックスを使用してレポート名およびレポート グループの場所を定義できます。

- ▶ [レポートの保存]ダイアログ ボックスに次の情報を入力して[OK]をクリックします。

レポート名 : First Report (サンプル レポート)

グループ : First Report Group (サンプル レポート グループ)

レポートを保存すると、レポートを構成するクエリ、次元の選択メンバおよび書式定義が Hyperion Analyzer のレポジトリに保管されます。レポートを開くたびに、多次元の交点に存在するデータの値がデータベース接続から返されます。

スプレッドシートの書式設定

[スプレッドシート オプション]ダイアログ ボックスを使用して、スプレッドシートの表示形式に書式を適用します。次の設定ができます。

- 背景色の設定
- 行のバンドの色の設定
- ヘッダーのフォントスタイルの設定

背景色の設定

- ▶ スプレッドシートの背景色を設定するには、次の操作を行います。
 1. [Qtr1]次元のラベルを右クリックし、[スプレッドシート オプション]を選択します。
[スプレッドシート オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。
 2. [表示]グループの[背景色]ボタンをクリックします。
[色の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。
 3. [サンプル]タブで、背景色に使用する色をクリックします。
 4. [OK]をクリックします。
[スプレッドシート オプション]ダイアログ ボックスが再度表示されます。
 5. [OK]をクリックします。

行のバンドの色の設定

- ▶ スプレッドシートの行のバンドの色を設定するには、次の操作を行います。
 1. [Qtr1]次元のラベルを右クリックし、[スプレッドシート オプション]を選択します。
[スプレッドシート オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。
 2. [表示]グループの[行のバンドの色]ボタンをクリックします。
[色の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。
 3. [サンプル]タブで、行のバンドの色に使用する色をクリックします。
 4. [OK]をクリックします。
[スプレッドシート オプション]ダイアログ ボックスが再度表示されます。
 5. [OK]をクリックします。

ヘッダーのフォントの設定

- ▶ 次元のラベルのヘッダーのフォントスタイルを設定するには、次の操作を行います。
 1. [Qtr1]次元のラベルを右クリックし、[スプレッドシート オプション]を選択します。
[スプレッドシート オプション]ダイアログ ボックスが表示されます。
 2. [ヘッダー]グループ ボックスの[ヘッダーのフォント]ボタンをクリックします。
[フォント プロパティ]ダイアログ ボックスが表示されます。
 3. [フォントスタイル]グループの[太字]チェックボックスをクリックします。
 4. [サイズ]テキスト ボックスに、フォントのポイント数として **12** を入力します。
 5. [OK]をクリックします。
[スプレッドシート オプション]ダイアログ ボックスが再度表示されます。
 6. [OK]をクリックします。

トラフィック ライト定義の作成

トラフィック ライト分析ツールでは、2つの次元メンバの比較や1つの次元メンバの固定された制限値に基づいて、次元メンバのセルを色分けできます。

トラフィック ライトは、ソートまたは順位付けの有無にかかわらず、メンバの値を視覚的に関連付けます。

[トラフィック ライト]ダイアログ ボックスを使用して、次の操作を行います。

- Actual（実績）指標と Budget（予算）指標を比較する。
- パーセント差異を識別する色を設定する。
- トラフィック ライトを半透明にする。

トラフィック ライトの定義

▶ トラフィック ライトを定義するには、次の操作を行います。

1. [Actual]次元メンバのラベルを右クリックし、[分析ツール]>[トラフィック ライト]を選択します。

[トラフィック ライト]ダイアログ ボックスが表示されます。

2. [トラフィック ライトの適用先]パネルで[Actual]をクリックします。
3. [比較の対象]パネルで[Budget]をクリックします。

これで、Actual 指標と Budget 指標を比較するようにトラフィック ライトが定義されました。

差異の制限によって、トラフィック ライトの色を適用するしきい値と範囲が決まります。これらの制限は、固定差またはパーセント差異によって設定されます。

4. [制限の割り当て]グループの[% 差異]チェックボックスを選択します。

3つの範囲と色がデフォルトで設定されています。範囲のしきい値を入力し直して再定義することができます。

5. [制限の割り当て]グループで、一番上の設定ポイントのしきい値を10に設定します。

これで Budget データ値が Actual データ値の10パーセントを超えたら、セルの背景色が最上位範囲を示すものになるように設定されます。

6. [制限の割り当て]グループで、2番目の設定ポイントのしきい値を **-10** に設定します。

これで **Budget** データ値が **Actual** データ値の **-10** パーセントを超えたら、セルの背景色が中間範囲を示すものになるように設定されます。**Budget** データ値が **Actual** データ値の **-10** パーセントを下回る場合、セルの背景色は最下位範囲を示すものになります。

7. [適用]ボタンをクリックします。

トラフィック ライトの範囲の色の設定

▶ トラフィック ライトの範囲を示す色を設定するには、次の操作を行います。

1. 最上位の色の範囲を右クリックして[色の設定]を選択します。

[色の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。

2. [サンプル]タブで、最上位範囲の色に使用する色をクリックします。

3. [OK]をクリックします。

[トラフィック ライト]ダイアログ ボックスが表示されます。

4. 中間範囲の色を右クリックして[色の設定]を選択します。

[色の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。

5. [サンプル]タブで、中間範囲の色に使用する色をクリックします。

6. [OK]をクリックします。

[トラフィック ライト]ダイアログ ボックスが表示されます。

7. 同じ手順を最下位の範囲でも繰り返します。

[トラフィック ライト]ダイアログ ボックスが表示されたら、しきい値の矢印を右クリックします。該当する範囲の色を選択すると、しきい値をその値の上の範囲か下の範囲に含めることができます。

8. [適用]ボタンをクリックします。

トラフィック ライトの範囲の透明度の設定

セルのトラフィック ライトで背景画像を覆い隠さないようにする場合は、トラフィック ライトの透明度を制御する必要があります。

▶ トラフィック ライトの範囲の透明度を設定するには、次の操作を行います。

1. 中間範囲の色を右クリックして[不透明度の設定]を選択します。

[不透明度]ダイアログ ボックスには、透明度の割合を制御するスライダと、[すべての色に適用]チェックボックスがあります。スライダを 100 に設定すると、範囲内の色は不透明になり、0 に設定すると完全に透明になります。

2. スライダ コントロールを 50 にドラッグアンドドロップします。

トラフィック ライトの範囲の透明度は 50% になります。

3. [すべての色に適用]チェックボックスをクリックします。

すべての範囲に 50% の透明度が適用されます。

4. [OK]をクリックします。

[トラフィック ライト]ダイアログ ボックスに設定が反映されます。

5. [OK]をクリックします。

トラフィック ライトの定義がレポートに適用されます。

図 77: トラフィック ライトを適用したレポート (First Report)

		Qtr1		Qtr2		Qtr3	
		Actual	Budget	Actual	Budget	Actual	Budget
Colas	East	6,292	5,870	7,230	6,760	7,770	7,30
	West	6,950	8,500	7,178	8,800	7,423	9,10
	South	3,732	4,570	4,078	5,000	4,457	5,47
	Central	8,074	8,200	8,701	8,870	8,894	9,06
Root Beer	East	5,726	5,460	5,902	5,650	5,863	5,60
	West	8,278	7,700	8,524	7,970	8,885	8,32
	South	5,354	4,430	5,535	4,580	5,690	4,68
	Central	7,269	8,420	7,440	8,610	7,504	8,68
Cream Soda	East	4,868	3,680	5,327	4,030	5,142	3,85
	West	8,043	6,890	8,982	7,720	9,616	8,30
	South	3,027	2,830	2,989	2,790	3,208	3,03

算出メンバの作成

Hyperion Analyzer では、次元メンバと値の変動をクライアント ベースの計算として定義できます。

[計算式の定義] ダイアログ ボックスを使用して、次の算出メンバを作成します。

- Variance (差異) - Actual シナリオと Budget シナリオの差異
- %Variance (パーセント差異) - Actual シナリオと Budget シナリオのパーセントの差異

差異の計算定義の実行

- ▶ 差異の計算定義を実行するには、次の操作を行います。
1. [Actual]次元メンバのラベルを右クリックし、[分析ツール]>[計算]を選択します。
[計算式の定義]ダイアログ ボックスが表示されます。
 2. [名前]フィールドに **Variance** と入力します。
 3. [関数]ドロップダウンリストボックスの[減算]を選択します。
 4. [位置の選択]グループボックスで[この後に挿入]オプションを選択し、[挿入位置]ドロップダウンリストボックスから[Budget]を選択します。

これで、**Variance** という名前の減算が作成され、レポートの **Budget** 次元の後に算出メンバが配置されました。

ダイアログ ボックスの下部にある[方程式]パネルで、減算の関数には引数が2つあることに注意してください。2つの疑問符が[引数]パネルに表示されます。計算式の引数を入力する必要があります。
 5. [メンバの選択]パネルの[Actual]をクリックして右矢印をクリックします。

Actual が[引数]パネルに移動して、最初の引数になります。
 6. [メンバの選択]パネルの[Budget]をクリックして右矢印をクリックします。

Budget が[引数]パネルに移動して2番目の引数になります。[方程式]パネルには、この2つのメンバを引数とする減算の関数が表示されます。
 7. [適用]をクリックします。
 8. [OK]をクリックします。

パーセント差異の計算定義の実行

- ▶ パーセント差異の計算定義を実行するには、次の操作を行います。
1. [Actual]次元メンバのラベルを右クリックし、[分析ツール]>[計算]を選択します。
[計算式の定義]ダイアログ ボックスが表示されます。
 2. [名前]フィールドに **%Variance** と入力します。
 3. [関数]ドロップダウンリストの[パーセント]を選択します。

4. [位置の選択]グループボックスで[この後に挿入]を選択し、[挿入位置]ドロップダウンリストボックスから[Variance]を選択します。

これで、%Variance という名前のパーセントの計算が作成され、レポートの他の計算された次元の後に算出メンバが配置されました。

パーセントの計算用に、[方程式]パネルでは2つの引数が必要です。

5. [メンバの選択]パネルの[Actual]をクリックして右矢印をクリックします。

Actual が[引数]パネルに移動して、最初の引数になります。

6. [メンバの選択]パネルの[Budget]をクリックして右矢印をクリックします。

Budget が[引数]パネルに移動して2番目の引数になります。

7. [適用]をクリックします。

8. [OK]をクリックします。

図78: トラフィック ライトと計算を適用したレポート (First Report)

		Qtr1					
		Actual	Budget	Variance	%Variance	Actual	Budget
Colas	East	6,292	5,870	422	107.189	7,230	6,76
	West	6,950	8,500	-1,550	81.765	7,178	8,80
	South	3,732	4,570	-838	81.663	4,078	5,00
	Central	8,074	8,200	-126	98.463	8,701	8,87
Root Beer	East	5,726	5,460	266	104.872	5,902	5,65
	West	8,278	7,700	578	107.506	8,524	7,97
	South	5,354	4,430	924	120.858	5,535	4,58
	Central	7,269	8,420	-1,151	86.33	7,440	8,61
Cream Soda	East	4,868	3,680	1,188	132.283	5,327	4,03
	West	8,043	6,890	1,153	116.734	8,982	7,72
	South	3,027	2,830	197	106.961	2,989	2,79

これでレポートには、計算された列が2列表示されるようになりました。

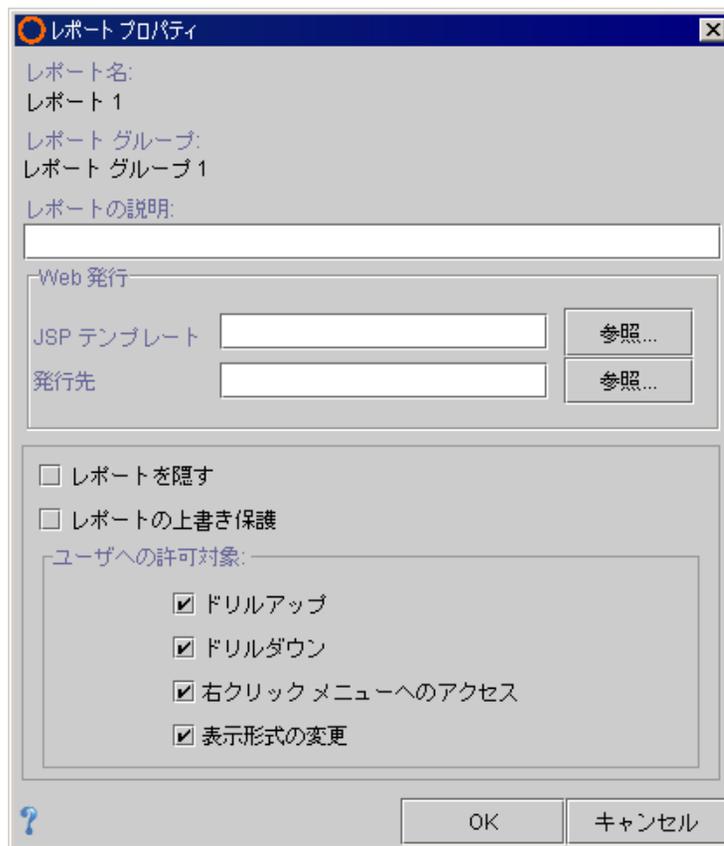
Web ページとしてレポートを保存

レポートが作成できたら、それを他のユーザと共有できます。Hyperion Analyzer レポートを HTML 形式で保存できます。

Web に発行するには、[レポート プロパティ] ダイアログ ボックスを使用して Web ページとして保存するためのパラメータを設定します。

同様にして、レポート グループ全体を Web に発行することもできます。

図 79: [レポート プロパティ] ダイアログ ボックス



Web ページとして保存するためのパラメータの設定

- ▶ Web ページとして保存するためのパラメータを設定するには、次の手順を実行します。
1. 現在のレポートのレポート タブを右クリックして[レポート プロパティ]を選択します。
[レポート プロパティ] ダイアログ ボックスが表示されます。
 2. 次のいずれかの操作を行って、Web ページを生成するための JSP テンプレートを
選択します。
 - [JSP テンプレート] フィールドに、Hyperion Analyzer サーバ上の JSP テンプレートのファイル名を拡張子とともに入力します。
 - [参照] ボタンをクリックして、Hyperion Analyzer サーバ上の JSP テンプレートを
探して選択します。
 - このフィールドを空白のままにしておくと、Hyperion Analyzer のデフォルト
の JSP テンプレートが使用されます。

メモ：[発行先] フィールドの出力ディレクトリは指定する必要はありません。この出力
フィールドは、Web ページとして保存するためのバッチ ユーティリティと組み合わせて使
用する場合にのみ必要です。詳細は、管理ツールのオンライン ヘルプを参照してください。

3. [OK] をクリックします。

Web ページとして保存するパラメータが設定され、次にレポートを保存するとき
にレポート定義に保管されます。

レポートの Web への発行

- ▶ 現在のレポートを HTML に保存するには、次の操作を行います。
1. [ファイル] > [Web 発行] > [現在のレポート] を選択します。
[保存] ダイアログ ボックスが表示されます。

2. HTML 出力を保存するネットワーク ディレクトリに移動し、[OK]をクリックします。

[レポート プロパティ]ダイアログ ボックスに指定されている値に基づいてレポートが HTML に変換され出力されます。

これでレポートの作成、書式設定、高度な分析ツールの適用、および Web 上で配布するための準備が終了しました。

レポートの作成は、レポート作成ウィザードによるものに限られているわけではありません。Hyperion Analyzer では、カスタム レポートを作成するためのインターフェイスが提供されています。

この章では、Java Web Client を使用した Hyperion Analyzer のカスタム レポートの作成手順を説明します。

HTML Web Client では、カスタム レポートの閲覧は可能ですが、作成することはできません。

次のチュートリアルは、多次元分析、Hyperion Analyzer インターフェイス、Hyperion Analyzer の一般的なレポート作成に関連する知識があるユーザを対象にしています。これらの項目を熟知していない場合は、第 2 章～第 7 章を参照してください。

カスタム レポートの作成の概要

カスタム レポートの作成には、次の手順が含まれます。

1. Hyperion Analyzer Java Web Client の起動
2. レポートのデザイン モードの起動
3. レポートのデザイン インターフェイスの理解
4. コンポーネント ツールバーの理解
5. メイン レポート パネルの作成
6. パネルの背景色の設定
7. スプレッドシート データ オブジェクトのドラッグアンドドロップ
8. コンポーネントの移動

9. ダイナミック テキスト ラベルの作成
10. コンポーネントのサイズ設定
11. チャート データ オブジェクトの追加
12. コンポーネントの配置
13. 選択コントロールの作成
14. コンポーネントの枠線の書式設定
15. ホットスポットの作成
16. 標準モードに戻る

Hyperion Analyzer Java Web Client の起動

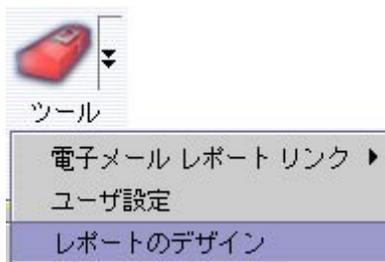
Hyperion Analyzer Java Web Client をまだ起動していない場合は、[33 ページの「Hyperion Analyzer Java Web Client の起動」](#)を参照してください。

レポートのデザイン モードの起動

カスタム レポートは、レポートのデザイン モードで作成します。レポートのデザイン モードを開始するには、次の 2 通りの方法があります。

- ツールバーの[ツール]ボタンのドロップダウン メニューから、[ツール]>[レポートのデザイン]を選択して、既存のレポートを標準モードからレポートのデザイン モードにインポートします。

図 80: ツールバーの[ツール]ボタンとドロップダウン メニュー



- 新規レポート ウィザードを使用して、新しいカスタム レポートを作成します。

図81: ツールバーの[新規]ボタン



このチュートリアルでは、2 番目の方法で作成します。

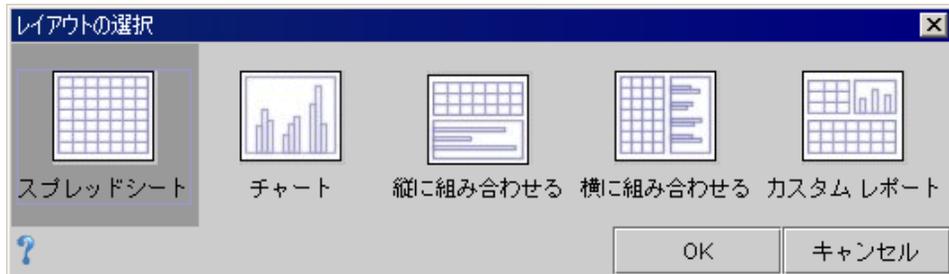
- ▶ 新規レポート ウィザードを使用してレポートのデザイン モードを開始するには、次の操作を行います。

1. ツールバーの[新規]ボタンをクリックします。

[レイアウトの選択]ダイアログ ボックスが表示されます。

2. [カスタム レポート]アイコンをクリックして[OK]をクリックします。

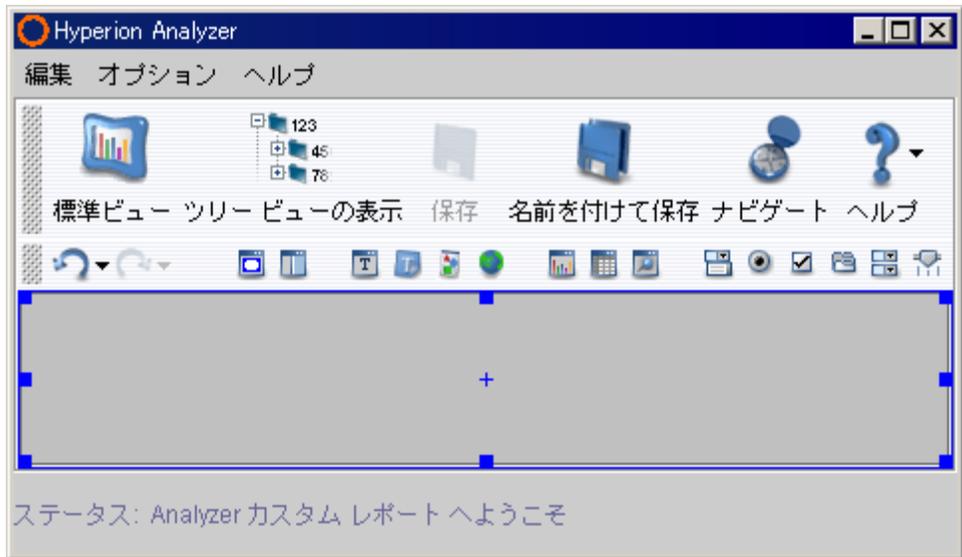
図82: [レイアウトの選択]ダイアログ ボックス



レポートのデザインモードのインターフェイス

レポートのデザインモードは、カスタム レポートを作成するためのインターフェイスです。

図 83: Hyperion Analyzer のレポートのデザイン モード



次のコンポーネントで構成されています。

- アプリケーション ウィンドウのタイトルバー
- メニューバー
- レポートのデザインのツールバー
- コンポーネント ツールバー
- レポート パネル
- ステータスバー

コンポーネント ツールバー

Hyperion Analyzer では、自由にコーディングできるコンポーネントが多数準備されており、これらをカスタム レポートに含めることができます。何度でも繰り返し使用でき、何通りもの方法でカスタマイズできる 19 種類の異なるコンポーネントがあります。オプションの組み合わせによって、カスタム レポートの作成に無限の可能性が提供されます。

図 84: レポートのデザイン モードのコンポーネント ツールバー



各コンポーネントは、コンポーネント ツールバーにアイコンとして表示されます。

アイコン	コンポーネント	説明
	パネル	空のコンテナを作成します。コンテナを使用してレポート内のスペースを分割します。
	分割パネル	分割バーで区切られた 2 つの関連パネルを作成します。
	ラベル	タイトル、ラベル、またはキャプションとして使用するテキスト ラベルを作成します。
	テキスト領域	レポートの注釈に使用する動的なテキストを作成します。
	画像	グラフィック パネルを作成します。このグラフィックには、背景、ピクチャ、イラストおよびホットスポットを含めることができます。
	HTML ブラウザ	動的変化のない HTML を参照するウィンドウを作成します。
	チャート データ オブジェクト	チャート表示形式のデータ オブジェクトを作成します。
	スプレッドシート データ オブジェクト	スプレッドシート表示形式のデータ オブジェクトを作成します。
	ピンボード データ オブジェクト	ピンボード表示形式のデータ オブジェクトを作成します。

アイコン	コンポーネント	説明
	コンボボックス要素	レポート内の他のオブジェクトに対応して機能するコンボボックス（ドロップダウンリストボックス）を作成します。
	ラジオボタン グループ要素	レポート内の他のオブジェクトに対応して機能する一連のオプション ボタンを作成します。
	チェックボックス グループ要素	レポート内の他のオブジェクトに対応して機能する一連のチェックボックスを作成します。
	タブ グループ要素	レポート内の他のオブジェクトに対応して機能する一連のタブ コントロールを作成します。
	マルチレベルのコンボボックス要素	レポート内の他のオブジェクトに対応して機能するサブセットを持つコンボボックスを作成します。
	スライダ要素	レポート内の他のオブジェクトに対応して機能するスライダ バーを作成します。
	選択ボタン要素	レポート内の他のオブジェクトに対応して機能する選択ボタンを作成します。
	別名コントローラ	対応するデータ オブジェクトのラベル モードを選択できるドロップダウン リストボックスを作成します。
	サービス ボタン	Hyperion Analyzer の機能を割り当てることのできるサービス ボタンを作成します。
	SQL スプレッドシートデータ オブジェクト	独自のリレーショナル SQL クエリを作成できるスプレッドシート データ オブジェクトを作成します。
	SQL スプレッドシート要素	レポート内の SQL スプレッドシート オブジェクトに対応して機能するコンボボックス（ドロップダウンリストボックス）を作成します。

このチュートリアルでは、これらのカスタム レポート コンポーネントをいくつか使用します。

アイコンの意味を忘れた場合は、コンポーネント アイコンにカーソルを置くとヒントが表示されます。

メイン レポート パネルの作成

最初に、メイン レポート パネルを作成します。このパネルは、他のすべてのレポート コンポーネントのコンテナとして機能します。

▶ メイン レポート パネルを作成するには、次の操作を行います。

1. コンポーネント ツールバーの[パネル]コンポーネントを、メイン表示領域にドラッグアンドドロップします。

図 85: [パネル]コンポーネント アイコン



コンテナの背景となるグラフィックを選択するための[グラフィックの選択]ダイアログ ボックスが表示されます。

2. [色]をクリックします。
[色の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。
3. [サンプル]タブで、レポートの背景にする色のセルをクリックします。
4. [OK]をクリックします。
5. [グラフィックの選択]ダイアログ ボックスの[OK]をクリックします。

レポートの背景として色の付いたパネルが表示されます。

表示領域全体の使用

- ▶ 表示領域全体のサイズにパネルを設定するには、パネル コンポーネントを右クリックして[アンカー]>[全領域の使用]を選択します。

パネルがレポート表示領域全体に表示されます。[全領域の使用]を使用すると、各ユーザの画面サイズやウィンドウサイズに関係なく、パネル コンポーネントが表示領域全体になるように設定されます。

選択されたコンポーネント

パネルが選択された状態のときは、カスタム レポート コンポーネントが青色の枠線で囲まれ、各枠線の間接点と角にハンドルが表示されます。

スプレッドシート データ オブジェクトの追加

- ▶ スプレッドシート データ オブジェクトを作成するには、次の操作を行います。
 1. コンポーネント ツールバーの[スプレッドシート]コンポーネントを、メイン表示領域にドラッグアンドドロップします。

図 86: [スプレッドシート]コンポーネント アイコン



スプレッドシートなどのデータ オブジェクトには、プロパティを設定する必要があります。[データ オブジェクト プロパティ]ダイアログ ボックスでは、次の作業が必要です。

- データソース（またはクエリ）の指定
- 表示形式の確認

既存のデータソースがないため、新しいデータソースを作成する必要があります。

2. [新規データソース]をクリックして、新規レポート ウィザードの手順に従ってクエリを作成します。

[スプレッドシート]オプション ボタンが選択されているので、表示形式の変更は必要ありません。

3. [OK]をクリックします。

[OK]をクリックすると、第8章のチュートリアルで使用した新規レポート ウィザードが起動します。データベース接続を指定する必要があります。Cube Navigator を使用してレポートのレイアウトを作成し、次元ブラウザで次元メンバを選択します。新規レポート ウィザードの詳細は、第8章「レポートの作成」を参照してください。

Cube Navigator の[OK]ボタンをクリックすると、メイン レポート パネルにスプレッドシート データ オブジェクトが表示されます。

コンポーネントの移動

▶ カスタム レポートのコンポーネントを移動するには、次の手順を実行します。

1. コンポーネントをクリックして選択します。

カーソルをコンポーネントに置くと、カーソルがコンパスの形状に変わります。

2. コンポーネントをドラッグアンドドロップします。このとき、外枠のハンドルをドラッグしないように注意します。

外枠のハンドルはコンポーネントのリサイズ用で、ドラッグするとスプレッドシート データ オブジェクトの形状が変わってしまいます。

ダイナミック テキスト ラベルの追加

スプレッドシート データ オブジェクトのラベルを作成できます。

▶ ダイナミック テキスト ラベルを作成するには、次の操作を行います。

1. コンポーネント ツールバーの[ラベル]コンポーネントを、メイン表示領域にドラッグアンドドロップします。

図87: [ラベル]コンポーネント アイコン



テキスト ラベルの静的なテキストを入力するための[テキストの挿入]ダイアログボックスが表示されます。静的なテキストとは、入力内容が変化しないテキストのことです。

ここではダイナミック テキスト ラベルも作成できます。ダイナミック テキストとは、最新情報に基づいて更新されるテキストのことです。

ダイナミック テキストは、テキスト ラベルに特別なタグを追加して作成します。これらのタグは、レポートが標準モードで表示されているときに最新の値で置き換えられます。

2. 静的テキストの "Report Name:" とスペースを入力します。
3. スペースの後で右クリックして、[レポート名]を選択します。
4. [OK]をクリックします。

メイン レポート パネルに、スプレッドシートとともにダイナミック テキスト ラベルが表示されます。このラベルには、静的テキストと、現在のレポートの名前が表示されます。新しい名前でもレポートを保存すると、ダイナミック テキスト ラベルに変更が反映されます。

コンポーネントのリサイズ

- ▶ ラベルをリサイズするには、コンポーネントをクリックして選択し、外枠のハンドルをドラッグアンドドロップします。

チャート データ オブジェクトの追加

- ▶ チャート データ オブジェクトを作成するには、次の操作を行います。
1. コンポーネント ツールバーの[チャート]コンポーネントを、メイン表示領域にドラッグアンドドロップします。

図 88: [チャート]コンポーネント アイコン



[スプレッドシート]データ オブジェクトの場合と同様に、[データ オブジェクトプロパティ]ダイアログ ボックスで次の作業が必要です。

- データソース（またはクエリ）の指定
- 表示形式の確認

2. スプレッドシートデータ オブジェクトで使用したデータソースをクリックします。

同じデータソースを共有するデータ オブジェクトは相互に関連付けられます。つまり、片方のデータ オブジェクトで移動を行うと、関連付けられたもう一方のデータ オブジェクトにも同じ移動が反映されます。

メモ：スプレッドシートのデータ オブジェクトと同じデータソースを選択したかどうか不明な場合は、チャート コンポーネントを右クリックして[プロパティ]を選択し、必要に応じて目的のデータソースを選択できます。

[チャート]オプション ボタンが選択されているので、表示形式の変更は必要ありません。

3. [OK]をクリックします。

メイン レポート パネルに、スプレッドシート、ラベルとともにチャート データ オブジェクトが表示されます。

コンポーネントの配置

これらのコンポーネントのレイアウトを整えるには、次のオプションを使用します。

- 右クリック メニューの[アンカー] - コンポーネントがパネルの端に固定されます。表示領域全体を使用するように設定したり、位置が固定されないように設定することもできます。
- 右クリック メニューの[配置] - 特定の端や中心点から相対的にコンポーネントを配置します。少なくとも2つのコンポーネントを選択する必要があります。
- 右クリック メニューの[均等配置] - 特定の端や中心点から相対的に間隔を空けてコンポーネントを配置します。少なくとも3つのコンポーネントを選択する必要があります。
- ドラッグアンドドロップ - レポート上のコンポーネントを手動で移動します。
- [Shift] + 矢印キー - 一度に1ピクセルずつ矢印キーの方向（上、下、左、右）にコンポーネントを移動させます。

コンポーネントの配置手順

- ▶ パネル上の3つのレポート コンポーネントを配置するには、次の操作を行います。
1. [Ctrl]キーを押しながら、3つのコンポーネント（ラベル、スプレッドシート、チャート）をクリックします。
メイン レポート パネルを選択しないようにします。選択してしまった場合は、もう一度クリックして選択を解除します。
 2. 選択したコンポーネントのいずれかを右クリックして、[配置] > [左端]を選択します。
3つのコンポーネントすべての左端が縦に揃います。
3つの選択コンポーネントを1つのグループとして移動できます。
 3. いずれかのコンポーネントにカーソルを置き、カーソルがコンパスの形になったら、コンポーネントのグループをメイン レポート パネルの左側にドラッグアンドドロップします。
 4. コンポーネントの1つをクリックして選択します。
他の2つのコンポーネントの選択が解除されます。
 5. [Shift] キーを押しながら上矢印キーと下矢印キーを押して、コンポーネントを縦方向に移動させます。
この方法によって、パネル内の相対的な位置と左揃えの配置を維持しながら、重なっているコンポーネントの間隔を空けていくことができます。
一度に1ピクセルしか移動しないので、コンポーネントを長い距離移動させるには、キーを何度も押す必要があります。
 6. 1つ目のコンポーネントが目的の位置になったら、2つ目のコンポーネントをクリックして同じ操作（[Shift]キーを押しながら上矢印キーと下矢印キーを押す）を繰り返してコンポーネントを縦方向に移動します。
コンポーネントが他のコンポーネントに完全に重なっている場合は、上のコンポーネントを右クリックして[背面へ移動]を選択します。
 7. 同じ操作を3つ目のコンポーネントにも繰り返します。
これでメイン レポート パネルに、チャート、スプレッドシートおよびラベルがパネルの左側に揃って表示されます。

選択コントロールの作成

データ オブジェクトに表示される次元メンバの指定を行うためのコントロールを作成できます。

▶ ラジオボタン グループ要素を作成するには、次の操作を行います。

1. コンポーネント ツールバーの[ラジオボタン グループ]コンポーネントを、メイン表示領域の右側にドラッグアンドドロップします。

図 89: ラジオボタン グループ要素のコンポーネント アイコン



要素と選択コントロールでは、多数のプロパティを設定する必要があります。要素ボタン オブジェクトでは、一連のダイアログ ボックスを使用して次の操作を行うことができます。

- データソース（またはクエリ）の指定
- 次元の選択
- 次元の選択メンバの定義
- 要素コントロール オプションの選択

[データソースの選択]ダイアログ ボックスが表示されます。

2. スプレッドシートおよびチャート データ オブジェクトで使用したデータ ソースをクリックして[OK]をクリックします。

同じデータソースを共有するコンポーネントは相互に関連付けられることに留意してください。

メモ: スプレッドシートおよびチャート データ オブジェクトと同じデータソースを選択したかどうか不明な場合は、コンポーネントを右クリックして[プロパティ]を選択し、必要に応じて目的のデータソースを選択できます。

[次元の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。

3. [Product]（製品）次元をクリックして選択し、[OK]をクリックします。

[メンバの選択]ダイアログ ボックスが表示されます。

4. [追加] ボタンをクリックして次元の選択メンバを指定します。

Product 次元ブラウザが表示されます。

5. プラス記号 (+) をクリックして Product 次元階層を展開します。
6. [Colas] (コーラ) を右クリックして[子孫も選択]を選択します。
7. [Diet Drinks] (ダイエット飲料) を右クリックして[子孫も選択]を選択します。
8. [Root Beer] (ルートビア) を右クリックして[子孫も選択]を選択します。
9. [OK]をクリックします。

[メンバの選択]ダイアログ ボックスがもう一度表示されます。

10. [メンバ]パネルで3つの[ダイナミック]チェックボックスをクリックします。
11. 左側にある[メンバのインデント]チェックボックスをクリックします。
12. [OK]をクリックします。

メイン レポート パネルにラジオボタン グループが表示されます。動的な選択メンバの表示に合わせてパネル サイズの変更が必要な場合があります。テキストラベルは次元階層を反映してインデントされることに注意してください。

コンポーネントの枠線の書式設定

コンポーネントの枠線を書式設定することで、ラジオボタン グループ要素をさらに強調できます。

- ▶ コンポーネントの枠線を書式設定するには、次の操作を行います。
 1. ラジオボタン グループを右クリックして[枠線]>[線]を選択し、枠線のスタイルを設定します。
 2. ラジオボタン グループを右クリックして[枠線]>[枠線の色の設定]を選択します。

[色の選択]ダイアログ ボックスが表示されます。
 3. [サンプル]タブでコンポーネントの枠線の色にするセルをクリックして[OK]をクリックします。
 4. ラジオボタン グループを右クリックして[枠線]> [枠線のサイズの設定]を選択します。

[枠線の幅の入力]ダイアログ ボックスが表示されます。
 5. 枠線の幅 (ピクセル) に 5 と入力して[OK]をクリックします。

ラジオボタン グループに、選択した色の 5 ピクセル幅の枠線が表示されます。

ホットスポットの作成

ホットスポットとは、Hyperion Analyzer の機能を開始するために使用するグラフィック画像のことです。ホットスポットは、透明色のサービス ボタンをグラフィック画像の上に配置して作成します。

画像パネルの作成

- ▶ 画像パネルを作成するには、次の操作を行います。
- 1. コンポーネント ツールバーの[画像]コンポーネントを、メイン表示領域の右側にドラッグアンドドロップします。

図90: [画像]コンポーネント アイコン



[グラフィックの選択]ダイアログ ボックスが表示されます。

- 2. **[読み込み]**をクリックします。
GIF または JPEG 形式ファイルを検索して選択するための**[開く]**ダイアログ ボックスが表示されます。
- 3. GIF または JPG ファイルを検索し、**[開く]**をクリックします。
パネルに表示するグラフィックが選択された状態で、[グラフィックの選択]ダイアログ ボックスがもう一度表示されます。
- 4. **[OK]**をクリックします。
選択したグラフィックのパネルがメイン レポート パネルに表示されます。

サービス ボタンの作成

- ▶ サービス ボタンを作成するには、次の操作を行います。
 1. コンポーネント ツールバーの[サービス]コンポーネントを、メイン表示領域の右側にドラッグアンドドロップします。

図91: [サービス]コンポーネント アイコン



[サービス プロパティ]ダイアログ ボックスが表示され、そこからさまざまな Hyperion Analyzer 機能を選択できます。

2. [レポートを開く]オプション ボタンをクリックして選択します。

[レポート マネージャ]ダイアログ ボックスが表示されます。
3. 左側の[First Report Group] (サンプル レポート グループ) と、右側の[First Report] (サンプル レポート) レポートを選択し、[OK]をクリックします。

[サービス プロパティ]ダイアログ ボックスがもう一度表示されます。[テキスト ラベルの入力]フィールドに[レポートを開く]が表示されていることに留意してください。このテキストは必要に応じて編集できます。

4. [OK]をクリックします。

メイン レポート パネルにサービス ボタンが表示されます。

サービス ボタンの透明度の設定

- ▶ サービス ボタンを透明に設定するには、サービス ボタン コンポーネントを右クリックして[不透明色]チェックボックスの選択を解除します。

サービス ボタンとイメージ パネルの移動

- ▶ ホットスポットを完成させるには、次の操作を行います。
 1. 透明のサービス ボタン コンポーネントをクリックして選択します。

カーソルをコンポーネントに置くと、カーソルがコンパスの形状に変わります。

- サービス コンポーネントを画像パネル上にドラッグアンドドロップします。
サービス ボタンが最も手前でない場合は、画像パネルを右クリックして[背面へ移動]を選択します。
これでレポートを開くためのグラフィック付きのホットスポットが完成しました。

標準モードに戻る

カスタム レポートの作成が終了したら、標準モードに戻って結果を確認できます。

- ▶ 標準モードに戻るには、ツールバーの[標準ビュー]ボタンをクリックします。

図92: レポートのデザイン モードのツールバーの[標準ビュー]ボタン



この章では、Hyperion Analyzer の高度な機能の一部を紹介します。詳細は、Hyperion Analyzer のオンライン ヘルプを参照してください。

Web ブラウザを使用した、場所を選ばない分析ツール

今回のリリースの Hyperion Analyzer では、より多くのユーザが Web ブラウザを使用して、どこからでも分析アプリケーションにアクセスできるようになりました。

優れた拡張性と処理能力

今回のリリースの Hyperion Analyzer ではアーキテクチャが再設計され、先進の J2EE 対応アプリケーション サーバで実行できるようになりました。これにより、Hyperion Analyzer ユーザは、既存の企業アプリケーション サーバ技術を再利用できるだけでなく、業界で最高の信頼性、安定性、拡張性、および処理性能を手に入れることができます。

オープン環境のクロスプラットフォーム対応

Hyperion Analyzer は、Microsoft Windows NT、IBM AIX、Sun Solaris、HP-UX を含む、オープン システム プラットフォームで利用できます。

Web への完全対応

100% Java 対応の Hyperion Analyzer Java Web Client を使用することによって、Hyperion Analyzer のパワフルな分析機能が Web 上で利用できるようになりました。Web に対応したことで、以前は別のコンポーネントであったデザイナ アプリケーションの機能が追加され、また、Hyperion Analyzer のクライアント アプリケーションから Hyperion Essbase サーバの機能を利用できるようになりました。

この Web 対応機能に合わせて、Hyperion Analyzer Administration Tools もアーキテクチャが再設計され、100% Java アプリケーションになりました。これにより、管理者はインターネットにアクセスできる場所ならどこからでも、ユーザ、ユーザグループ、およびデータベース接続を管理できるようになりました。

また、100% HTML シンクライアントの Hyperion Analyzer HTML Web Client も提供されています。

Microsoft Windows 対応 Java アプリケーション

Hyperion Analyzer Standalone Client は、操作の簡単な Java Web Client と同じインターフェイスおよび機能を持つ、Hyperion Analyzer でサポートしている Microsoft Windows オペレーティング システム用の Java アプリケーションです。

高度なグラフィカル ユーザ インターフェイス

Hyperion Analyzer の最大の特徴は、高度でなおかつ操作の簡単なグラフィカル ユーザ インターフェイスです。

簡単なレポート作成機能

レポート作成ウィザード

レポート作成ウィザードにより、ユーザは一連のダイアログ ボックスの指示に従うだけでレポートを作成できます。新しいレポートを作成するには、ツールバーの [新規] ボタンをクリックします。

レポート作成ウィザードでは、[レイアウトの選択]、[データベース接続の選択]、[Cube Navigator]、[次元ブラウザ]の各ダイアログボックスが順に表示され、これらのダイアログボックスでデータベースクエリの定義、送信、結果の受信を行うことができます。

Cube Navigator

Cube Navigator は多次元クエリを作成するためのグラフィック インターフェイスです。

クエリを作成するには、レポートの軸パネル上に次元アイコンをドラッグアンドドロップします。次元を移動すると対応する次元ブラウザが表示され、ここで次元メンバを選択できます。

Cube Navigator では、既存のキューブを編集するか、まったく新しいキューブを作成できます。同様に、属性次元のクエリを作成することもできます。Cube Navigator はレポート作成ウィザードの一部ですが、ツールバーの[ナビゲート]ボタンをクリックしても表示されます。

次元ブラウザ

次元ブラウザは、次元メンバの選択ステートメントを作成するためのグラフィカル インターフェイスです。次元をレポートの軸パネルに移動すると、クエリに使用する特定の次元メンバを選択するように指示されます。

Cube Navigator での操作と同じように、メンバ名をクリックして次元メンバを選択します。

次元ブラウザの右クリック メニューには、メンバの選択オプションが表示されます。次の条件に基づいてメンバを選択できます。

- 家系
- データベース固有の選択オプション
- メンバ サブセット
- 代替変数
- 個人変数
- 選択メンバの検索

メンバの選択ステートメントを使用すると、動的クエリの結果セットも有効になります。各メンバが削除または追加されていたり、その名前が変更されていても、レポートが読み込まれる際、選択メンバの定義を満たすすべての次元メンバが返されます。これは、大きなサイズの次元で特に有益です。

カスタム レポート

プログラミング環境を必要とせず、また Hyperion Analyzer Java Web Client を終了しなくてもレポートを作成できるようになりました。

カスタム レポートを作成するには、レポートのデザイン モードを開始するだけです。レポートのデザイン モードはカスタム レポートをデザインするためのグラフィカル インターフェイスで、ユーザは、コンポーネントを選択して空白のレポート パネル上にドラッグアンドドロップできます。

レポートのデザイン モードは[ツール]メニューまたはツールバーの [ツール] ボタン、あるいは[レイアウトの選択] ダイアログ ボックスの [カスタム] を選択して開始します。

レポートのデザイン モードの新しい [元に戻す] および [繰り返す] コマンドにより、レポート デザイナは、マウスのクリック操作だけでインターフェイス コンポーネントに加えた操作を取り消したりやり直したりできます。

実行時に実際の値と置き換えられる動的な変数を使用してテキスト ラベルを定義できます。セル参照、レポートの説明、レポート名、接続名、時刻、ユーザ ID、ユーザ名、フィルタの説明、およびページ次元のそれぞれに動的変数を使用できます。

背景を追加できるスプレッドシート

Hyperion Analyzer のスプレッドシートでは、背景にグラフィックを追加できるようになり、より高度なカスタマイズとデザインが可能になりました。

柔軟性のある書式設定

スプレッドシート オプション、ピンボード デザイナ、およびチャート プロパティを使用し、レポートをカスタマイズしたり、書式を変更したりできます。これらのオプションは、右クリック メニューに表示されます。

スプレッドシートオプション

[スプレッドシート オプション]ダイアログ ボックスは、スプレッドシート表示形式の書式を設定できるインターフェイスです。

ピンボード デザイナ

ピンボード オプションにより、ピンボード表示形式を作成する手順を順に指示するピンボード デザイナ ウィザードを開始できます。

ピンボード オプションには次の項目が含まれます。

- 背景の画像
- ピンの機能
- ピンの画像
- アクティブな色
- ピンの配置
- 対応する次元

チャート プロパティ

[チャート プロパティ]ダイアログ ボックスは、チャートの書式を設定するためのインターフェイスです。

新しい Hyperion Analyzer では、2 色間のグラデーションや .GIF 画像アイコン（マーカ用）がサポートされ、また、チャートの種類として帯グラフ、ボックスプロット、泡グラフ、曲線領域が追加されました。

非対称分析

Hyperion Analyzer では、特定の行、列およびチャート オブジェクトを隠すことによって非対称分析を行うことができます。

複数のチャート

Hyperion Analyzer では、複数のチャートを 1 つのチャート オブジェクト内に表示して、簡単にチャートを比較できます。

セカンダリ Y 軸

チャートに、2つ目の Y 軸を表示できます。これにより各軸に異なるスケールを設定でき、2つの次元のデータを同時に表示できます。

情報のカスタマイズ

Hyperion Analyzer では、カスタマイズ機能がより強化されました。

画面表示と操作性のカスタマイズ

Hyperion Analyzer の表示と操作性は、ユーザ設定を変更してカスタマイズできます。ユーザ設定は、すべてのレポートに適用されるグローバル設定です。これらのデフォルト設定は、Hyperion Analyzer レポジトリ テーブルに格納されます。

データベース接続のカスタマイズ

データベースには、わかりやすい別名を定義できます。この別名を使用することで、データベースの長い ID が簡略化されるだけでなく、複数のサーバ上でデータベースを管理できるようになります。データベース接続の作成、管理および編集は、[ユーザ設定]の[接続]で行います。

個人変数

個人変数を使用すると、複雑なメンバ選択を定義し、定義に名前を付けることができます。これにより、一度定義した個人変数は、対応する次元およびデータベース接続内でいつでも利用できます。

同様に、他のユーザが、異なる次元の選択メンバが含まれる同じ名前、次元、およびデータベース接続を使用して個人変数を作成することもできます。個人変数により、デザインは一般的な内容とユーザ固有の内容を含むハイブリッドなレポートを作成できます。

データの視点 (POV)

[ユーザ設定]の[データの視点 (POV)]の設定により、ユーザ自身が興味のある次元とメンバを他のユーザのレポートに自動的に挿入できます。

データの視点 (POV) を使用することで、複雑な次元のメンバを迅速に選択でき、しかも正確で統一性のある選択ができます。

データの視点 (POV) は、個人変数の選択項目から定義することも可能です。

分析ツール マネージャ

Hyperion Analyzer では、サーバベースとクライアントベースの分析ツールのアプリケーションの作成、アクティブ化、順序を管理するためのインターフェイスが提供されています。分析ツール マネージャは、メイン表示パネルの右クリック メニューからアクセスできます。

分析ツールで GUI が強化され、迅速な比較を可能にする見やすく整理されたデータや、めりはりのある構成と多様性をレポートに適用できます。

トラフィック ライト

トラフィック ライト分析ツールでは、次元メンバの値が色分けされて表示されます。

2 つの次元メンバの比較や 1 つの次元メンバの固定された制限値に基づいて色分けを設定できます。各色は、ソートまたは順位付けの有無にかかわらず、メンバ値に視覚的に関連しており、収益の記録、例外の強調、比較分析の自動化に使用します。

トラフィック ライトの定義は、レポートのピボット時や変更時にも保持されます。

リリース 6.0 以降、データのフォントまたはセルの背景に色を設定できるようになりました。使用できる色の数に制限はありません。

計算式

計算式分析ツールを使用すると、計算を実行できる行と列をレポートに含めることができます。

計算式分析ツールのユーザインターフェイスでは、メンバ、値およびオペランドをポイントしてクリックするだけで選択できます。

クエリの結果セットには 20 を超える数学および統計用の計算式を適用できます。

- 平均
- パーセント
- 累積

- 平均からのパーセント差異
- 平均からの差異
- 差異のパーセント
- 除算
- 合計のパーセント
- 一次回帰
- 昇順表示
- 最大
- 降順表示
- 最大値
- 減算
- 最小
- 合計
- 最小値
- 傾向
- 乗算
- 複雑な計算式

表示/非表示の制限

表示/非表示の制限分析ツールでは、次の基準を使用してメイン表示パネルに次元メンバを含めたり、メイン表示パネルから次元メンバを削除したりできます。

- メンバ名
- トラフィック ライトの色
- データ値

これは、分散した値を分析するときに最適の方法です。

値による表示/非表示の制限

規定されたしきい値を越えるデータは、値による表示/非表示の制限分析ツールを使用して隠すことができます。これにより、データ値に基づいて特定の範囲のメンバに分析を絞り込むことができます。

色による表示/非表示の制限

色による表示/非表示の制限では、行、列およびオブジェクトをトラフィック ライトの色に基づいて隠すことができます。高度なトラフィック ライトの定義では、すべてまたは任意の次元メンバ値にしきい値を設定して結果セットをさらに絞り込むことができます。

メンバによる表示/非表示の制限

表示/非表示の制限のメンバ分析ツールでは、特定の次元、メンバ、およびメンバの組み合わせを隠したり表示したりできます。

クライアント側のソート

ソート分析ツールでは、指定した次元メンバの値に基づいて英数字の昇順または降順に並べ替えることができます。ソートの定義は動的で、レポートのドリル、ピボットおよび変更時に適用されます。クライアント側でのソートは、計算が可能な列またはリレーショナル結果セットをソートする場合に特に重要です。

上位/下位のみ取得

上位/下位のみ取得分析ツールでは、Hyperion Essbase サーバベースのソート機能と表示順位機能を利用して、OLAP クエリ結果セットのサイズと順序を制御します。これにより、大きなサイズの結果セットがネットワーク サーバから送信されたり、クライアント側で処理されないようにできます。

上位/下位のみ取得分析ツールは、上位/下位分析の中核ツールです。

データの制限

データの制限分析ツールは、戻り値セットを絞り込むもう一つの手法です。このツールでは、指定したルールおよびオペランドにデータ値が関連付けられている必要があります。

次のルールを適用できます。

- 列の値より大きい値 (>)
- 列の値より小さい値 (<)
- 列の値と等しい値 (=)

次のオペランドを適用できます。

- AND
- OR

列同士の比較や、1つの列で固定された制限値を使用してデータを制限できます。

Hyperion Essbase 機能の使用

サーバベースの機能を使用するには、大量の処理を実行するために Hyperion Analyzer クライアントのかわりに Hyperion Essbase が必要です。Hyperion Essbase を使用すると、クエリの速度向上とネットワーク トラフィックの減少が実現でき、Hyperion Analyzer での処理情報量を最小限に抑えることができます。

データの編集

許可を持つユーザは、Hyperion Analyzer を使用してデータ値を編集し、その結果を Hyperion Essbase データベースに保存できます。

編集内容を適用した後、クライアント経由でデータベースを再計算して、変更された値による影響を測定できます。

値の欠如した行、ゼロ値、および共有メンバの除去

Hyperion Analyzer では、Hyperion Essbase を利用して #Missing 行（データの欠如した行）、ゼロ行、および共有メンバがクエリ結果セットから削除されます。この処理により、関係ない情報を返さないようにし、ネットワーク トラフィックの減少とクエリ処理の速度向上が可能です。

すべてのレポートまたは特定のレポートに対して、ユーザ設定の #Missing 行、ゼロ値、および共有メンバを使用できます。

ラベルのモード

Hyperion Analyzer ユーザは、ラベルのモードを使用して、次元メンバのユーザ名のかわりにメンバ ID またはその説明を表示するように選択できます。説明が表示されている場合でも、レポジトリに格納されるのはメンバ ID のみです。

選択されたメンバの表示

Hyperion Essbase では、Hyperion Analyzer クライアントで移動している間、選択されている次元メンバの表示を保持できます。

ドリルの設定

カスタマイズ可能なドリルにより、次元ラベルをダブルクリックしたときに表示される階層のほとんどどこでも参照できます。

次の 3 種類の方法で Hyperion Analyzer のドリル処理をカスタマイズできます。

- 階層移動を利用した方法
- 現在の次元メンバを置換または引数として使用する方法
- ドリルした次元メンバを置換または引数として使用する方法

選択項目とメンバとの置換

選択項目とメンバを置換するように設定すると、既存の次元はドリルによって生成された選択メンバのセットで置換されます。

この処理により、ユーザは階層ラインに沿って移動している間、レポート詳細の現在のレベルを維持できます。

選択項目へのメンバの追加

選択項目にメンバを追加するように設定すると、既存の次元メンバは移動中そのまま保持されます。つまり、現在のメンバは生成された選択メンバに付け加えられます。

これにより、複雑なレポートを制御できます。

外部情報へのアクセス

データとレポートの関係は、次元間と同様に重要です。Hyperion Analyzer では、多数の方法で情報を関連付けることができます。

リレーショナル データの分析

操作の簡単な新しいインターフェイスにより、既存のリレーショナル データを Hyperion Analyzer に迅速に抽出できます。抽出したデータは、柔軟性のある Hyperion Analyzer の機能を使って分析することができます。

ユーザが必要とするデータベース接続の作成手順は、リレーショナル データベース接続ウィザードによって表示されます。

リレーショナル ドリルスルー

Hyperion Analyzer から Essbase データベース接続へのリンクを定義すると、Hyperion Essbase アウトラインの最下位レベルにある関連データへドリルスルー操作を行うことができます。ページ、フィルタおよび下限値を指定することで、リレーショナル データのクエリ結果セットの範囲を絞ったり柔軟性を持たせることができます。

Essbase Integration Services ドリルスルー

Essbase Integration Services (EIS) では、リレーショナル データを Hyperion Essbase の OLAP キューブとして整理、書式設定および表示できます。

Hyperion Analyzer ユーザは EIS ドリルスルー用にマークされたセルをドリルスルーすることで、Hyperion Essbase のリンクされたレポート オブジェクトを使って Essbase Integration Services レポートにアクセスできます。

Essbase Integration Services ドリルスルーにより、従来の多次元データと同様の高度な分析にリレーショナル データを利用することができます。

レポートへのリンク

リンクとは、レポート間の移動およびレポート間の選択メンバの移動を指します。

右クリックメニューの[ドリル]>[リンク]を使用して、別のレポートや実行可能ファイルにリンクを作成できます。リンクの作成後、マークされたセルをダブルクリックすると、ユーザの表示および選択メンバが指定された場所に渡されます。

外部メディアへのリンク

Hyperion Essbase のリンクされたレポート オブジェクト (LRO) では、外部メディアをセルに関連付けることによってデータ値に注釈を付けることができます。

LRO には次の項目が含まれます。

- テキスト ドキュメント
- オブジェクト
- URL

LRO としてマークされたセルをダブルクリックすると、HTML のリンクと同じ方法で関連メディアが表示されます。

分析結果の配布

分析の価値は、その配布先と方法によって変わります。OLAP データの作成して分析、利用するユーザは、OLAP データとツールを同時に使用できる必要があります。

Hyperion Analyzer レポートは、HTML Web コンテンツとして保存したり、Microsoft Excel へエクスポートしたり、またはそれらの URL を参照することで内部および外部に配布できます。

レポート グループのプロパティ

Hyperion Analyzer レポート グループの安全な配布方法は、レポート グループのプロパティを使用して指定できます。

レポート グループの共有と配布

レポート グループは、管理者が定義したユーザ グループへ配布（つまりユーザ グループで共有）されます。

各ユーザは、自分が属しているレポート グループのみを共有できます。

ユーザ グループでレポート グループを共有すると、そのユーザ グループに属しているユーザは、共有するレポート グループのコンテンツを参照できます。

レポートのプロパティ

レポートの識別と閲覧は、レポートのプロパティによって管理されます。レポート作成者は、レポートをレポート グループに保存することで、そのレポートを閲覧できるユーザを制限できます。ユーザは、次のレポート プロパティを設定できます。

- レポート グループ内のレポートを表示しないようにする。
- レポートを上書きできないようにする。
- ドリルアップ、ドリルダウン操作できないようにする。
- 右クリック メニューを使用できないようにする。
- 表示形式を変更できないようにする。

レポート グループに設定されているプロパティに従ってレポートは配布されますが、各レポートの機能は、そのレポートのプロパティによって決まります。

Microsoft Excel へのエクスポート

以前のリリースの Hyperion Analyzer と同様、レポートを Microsoft Excel へ簡単にエクスポートできます。これにより、Hyperion Analyzer を使用しないユーザでもデータを参照できます。また、Hyperion Analyzer 以外のレポート ツールでデータを利用することもできます。

クリップボードへのエクスポート

ユーザは、右クリック メニューの[クリップボードにコピー]を使用して、行と列のヘッダーをクリップボードにコピーできます。これにより、Hyperion Analyzer レポートのデータを多数の外部アプリケーションにコピーまたは配布できます。

強化された出力機能

Hyperion Analyzer には、レポート要約ページの印刷、印刷プレビュー、指定ページ内へのレポートの印刷、多次元ページコントロールなどを含む、高度な印刷機能があります。これらの機能により、ユーザの必要とする条件に応じてレポート全体のデータ、または特定のデータのみを印刷できます。

Hyperion Analyzer のカスタマイズと拡張

Hyperion Analyzer API Toolkit を使用すると、Web 開発者は Hyperion Analyzer Java Web Client の画面表示および機能をカスタム Web アプリケーションに統合できます。

開発者が、動作の実証されているコンポーネント、ダイアログ ボックス、および API 呼出しを使用してカスタム分析アプリケーションを迅速に作成できれば、企業は経費と時間を節約でき、信頼性も向上させることができます。

Hyperion Analyzer API Toolkit に関する情報は、『Hyperion Analyzer API Toolkit Developer's Guide』を参照してください。『Hyperion Analyzer API Toolkit Developer's Guide』には、API ツールキット、そのメソッド、プロパティ、および機能の概略の他に、API ツールキットの機能を説明するサンプルが含まれています。

Analysis Server – Hyperion Analyzer Analysis Server。レポートの情報を配布し、Web Client と OLAP サーバとの通信を可能にするアプリケーションサーバ。

JDBC – Java Database Connectivity ドライバ。Java 対応のクライアントとデータベース間におけるクライアント - サーバ通信エージェント。

Uniform Resource Locator (URL) – ドキュメント、画像、ダウンロード可能なファイル、サービス、または電子メールボックスなどの World Wide Web 内のリソースのアドレス。URL では、HTTP、FTP、インターネット メールなどの多様なネーミングの規約およびアクセス方法が使用される。URL はローカル ネットワーク ドライブ上のファイルまたは Hyperion Analyzer レポジトリ内のレポートを指すことが可能。

暗黙の共有 (implied share) – 子が1つだけのメンバ、または複数の子のうち1つの子だけが統合されるメンバ。このため、親と子は同じ値を共有する。

親 (parent) – 階層内で下に従属するメンバを持つメンバ。

オンライン分析処理 (online analytical processing, OLAP) – 統合された企業データをリアルタイムで分析する必要のあるユーザのための多次元、複数ユーザ用のクライアント - サーバ コンピュータ環境。OLAP システムには、ドリルダウン、データピボット、複雑な計算式、動向分析、およびモデリングの機能がある。

階層 (hierarchy) – 多くの場合、ツリー形式で生成される、アウトライン内の一連の多次元関係。

外部認証 (external authentication) – Hyperion アプリケーションの外部に格納されたユーザ情報を使用して Hyperion アプリケーションにログインする機能。この場合、ユーザ名やパスワードは LDAP や Microsoft Windows NTLM などの企業認証プロバイダにおいて管理される。

管理者 (administrator) – Hyperion Analyzer システムをインストールして維持する個人。ユーザ名、パスワード、データベース接続およびセキュリティの確立も行う。「システムマネージャ (System Manager)」も参照。

行 (row) – グリッドまたはテーブル内で水平に表示される情報。行には、1つのフィールドからのデータ、計算式から算出されたデータ、またはテキスト情報を含めることができる。「列 (column)」と対比。

クエリ (query) – データソースの構成要素。クエリは SQL ステートメントでデータベースに送信され、多次元の交点が結果セットとして返される。

クライアント (client) – Hyperion Analyzer、ローカル ネットワーク上のワークステーションなどのクライアント インターフェイス。

計算式 (calculation) – データの集計またはデータベース上で計算式スクリプトを実行する過程。

計算式スクリプト (calculation script) – Hyperion Essbase にデータベースの値の計算方法を指定する一連の手順。

欠落データ (missing data) – このラベルの付いた位置のデータは存在しないか、意味のある値を含まないか、または入力されなかったことを示すマーカー。

子 (child) – データベース階層内で上に親を持つメンバ。子は、データベース階層内の同じレベルに存在する兄弟 (ピア) を持つことがある。

交点 (intersection) – 多次元データベース内の次元の交点を表すデータの単位。ワークシートセルとも呼ばれる。

個人変数 (personal variable) – 複雑なメンバ選択を定義して名前を付ける際に使用する変数。

サーバ (server) – 次元メンバの交点を基にしているデータ値にアクセスするマルチユーザ データベース サーバ。

サブセット (subset) – 特定の基準によって選択されたメンバのグループ。

軸 (axis) – 多次元データが表示される 2 次元レポートの離散位相 (フィルタ、ページ、行、列など)。

次元 (dimension) – 値の取得や集約のためにビジネスデータを構成する際に使用されるデータカテゴリ。各次元には、その中でグループ化されている関連メンバの階層が含まれている。

システム マネージャ (System Manager) – Hyperion Analyzer システムをインストールして維持する個人。ユーザ名、パスワード、データベース接続およびセキュリティの確立も行う。「管理者 (administrator)」も参照。

子孫 (descendant) – データベース アウトライン内の親の下にあるメンバ。

スプレッドシート (spreadsheet) – 3 種類のレポート形式のうちの 1 つ。スプレッドシートは行、列、およびページのテーブル型のレポートで、Hyperion Analyzer を使用して作成される。

セル (cell) – 多次元データベース内の次元の交点を表すデータの単位。また、スプレッドシート内の行と列の交点も指す。

属性 (attribute) – 次元メンバの分類。属性を指定し、その属性を持つメンバを選択およびグループ化して、計算式およびアプリケーション特定の関数を実行できる。

属性次元 (attribute dimension) – 属性またはベースとなる次元のメンバの質に基づいた分析を可能にする次元の種類。

代替変数 (substitution variable) – 定期的に変わる情報のグローバルなプレースホルダの役目をする変数。変数および対応する文字列の値はユーザが設定する。値はいつでも変更できる。

多次元データベース (multidimensional database、MDDDB) – 3 つまたは 4 つ以上の次元を通じてデータを参照する方法。個別のレコードは一連の次元の点の交点である。

単一サインオン (single sign-on) – ユーザが、外部の証明書を使用して 1 度ログオンしただけで、複数の Hyperion アプリケーションにアクセスできるようにする機能。

チャート (chart) – 3 種類のレポート形式のうちの 1 つ。また、チャート レポートには、設定されたチャートの種類のプロパティもある。チャートは Hyperion Analyzer を使用して作成される。

ツールバー (toolbar) – 最も頻繁に使用されるコマンドにすばやくアクセスできる、一連のショートカット ボタン。

データソース (data source) – データベース接続、クエリ、その他のコンポーネントを使用してレポート コンポーネントをデータベースに接続する、クライアント側の名前が付けられたオブジェクト。

データの視点 (point of view、POV) – データの視点を設定することで、ユーザは興味のある次元およびメンバを他のユーザのレポートに自動的に挿入できる。

データベース (database) – Hyperion Essbase 内のデータのレポジトリで、多次元データの記憶装置の配列が含まれる。各データベースは記憶装置の構造の定義 (アウトライン)、データ、セキュリティ定義、およびオプションのスクリプトから構成される。

データベース接続 (database connection) – サーバ名、アプリケーション名、データベース名からなる長いデータベース識別名のかわりに、わかりやすくしたデータベースの別名。これによりデータベース参照がより簡単になる。

デスクトップ (Desktop) – 自動的に生成されるレポートで、レポートのグループに1回のクリックでアクセスできるボタンを動的に生成する。

トラフィック ライト (traffic lighting) – レポートのセルの色分け設定。または、2つの次元メンバの比較あるいは固定された制限値に基づくピン。トラフィック ライトの定義は Hyperion Analyzer トラフィック ライト分析ツールを使用して作成される。

非対称分析 (asymmetric analysis) – グループ内で少なくとも1つのメンバが異なるメンバのグループによって特徴付けられるレポート。メンバの数またはメンバの名前が異なる場合がある。

表示形式 (display type) – レポジトリに保存されている Hyperion Analyzer の3種類の書式のうちの1つ。書式には、スプレッドシート、チャートおよびピンボードがある。

ピン (pins) – ピンボードと呼ばれるグラフィック レポート上に配置される対話型のアイコン。ピンは動的オブジェクトであり、データ値や分析ツールの基準に基づいて画像やトラフィックライトの色を変更する。

ピンボード (pinboard) – 3種類のレポート形式のうちの1つ。ピンボードはグラフィック レポートで、背景とピンと呼ばれる対話型のアイコンで構成されている。ピンボードは Hyperion Analyzer Design Tools を使用して作成される。

マルチスレッド処理 (multithreading) – 複数のユーザがお互いを干渉することなく同じアプリケーションで作業できるようにするクライアント - サーバの過程。

メンバ (member) – 次元の一部を成す離散的な項目。

役割 (role) – ユーザタイプのラベル。役割によって、Hyperion Analyzer のさまざまな操作に必要な許可の付与と保留が決定される。

リンクされたレポート オブジェクト (linked reporting object、LRO) – Hyperion Analyzer レポート内のデータセルにリンクした外部ファイル。

列 (column) – グリッドまたはテーブル内で垂直に表示される情報。列には、1つのフィールドからのデータ、計算式から算出されたデータ、またはテキスト情報を含めることができる。「行 (row)」と対比。

レポート (report) – ユーザが選択した多次元キューブの次元およびメンバの Hyperion Analyzer による表示。レポートは、表示の内容と書式の両方を指す。レポジトリに保存された後は、さまざまな書式で表示できる多目的ファイルとなる。

レポート グループ (report group) – Hyperion Analyzer レポートのグループ。

レポジトリ (repository) – レポートの定義および Hyperion Analyzer システムの情報を保存する一連の関連データベースのテーブル。

A

Administration Tools、Hyperion Analyzer、20
Analysis Server、Hyperion Analyzer、20
API ツールキット、20

E

EIS ドリルスルー、162

H

Hyperion Analyzer
アーキテクチャ、20
概要、19
高度な機能、151
コンポーネント、19
Hyperion Analyzer Administration Tools、20
Hyperion Analyzer Analysis Server、20
Hyperion Analyzer HTML Web Client
概要、20
起動、61
モード、62
ユーザ インターフェイス、62
Hyperion Analyzer Java Web Client
概要、20
起動、33
モード、34
Hyperion Analyzer Windows Client、20
Hyperion Analyzer デスクトップ、35、63

M

Microsoft Excel、164
Microsoft Excel へのエクスポート、164
Microsoft Excel への送信、164
Microsoft Excel、送信、164

あ

値による表示 / 非表示の制限分析ツール、159
値の欠如した列と行、除去、161
値の欠如した列と行の除去、161

い

移動、53、81
色による表示 / 非表示の制限分析ツール、159
印刷、165
印刷、レポート、165

え

エクスポート、Microsoft Excel、164

お

オプション、スプレッドシート、56
オプション、データヒヨウジ、56
オンラインガイド
検索、xvii

か

開発者, 22, 25
管理、レポートの閲覧, 164
管理者, 23
管理者、システム, 23

き

強化された出力機能, 165
共有, 164

く

クリップボード, 164
クリップボード、エクスポート, 164
クリップボード、コピー, 164
クリップボードへのエクスポート, 164
クリップボードへのコピー, 164

け

計算式分析ツール, 157
形式、レポートの表示, 76

こ

個人変数, 156

さ

サイズ、レツ, 56
サンプル レポート グループ
ツアー, 87

し

システム管理者, 23
出力機能、強化された, 165
種類、ユーザ, 22
上位 / 下位のみ取得分析ツール, 159
上級ユーザ, 24
情報パネル, 42, 68
情報利用者, 22, 25

す

スプレッドシート, 49, 77
スプレッドシート オプション, 56
スワップ, 53

せ

設定、ドリル, 161
選択されたメンバの表示, 161

そ

ソート分析ツール, 159

ち

チャート, 50, 77
チャート プロパティ, 56

て

データ、リレーショナル, 162
データの視点, 156
データの制限分析ツール, 160
データの編集, 160
データの編集モード, 40, 67
データ表示オプション, 56
デスクトップ、Hyperion Analyzer, 35, 63

と

トラフィック ライト分析ツール, 157
ドリル, 54, 81
ドリルスルー、EIS, 162
ドリルスルー、リレーショナル, 162
ドリルの設定, 161
ドリルリンク, 55, 82

は

配布、レポート, 164
パワーユーザ, 22

ひ

- 評価ユーザ , 22
- 表示 / 非表示の制限分析ツール , 158
- 標準モード , 36, 64
- ピンボード , 51, 78
- ピンボード プロパティ , 56

ふ

- フィルタパネル , 44, 70
- プロパティ、チャート , 56
- プロパティ、ピンボード , 56
- プロパティ、レポート , 164
- プロパティ、レポート グループ , 163
- 分析ツール
 - 値による表示 / 非表示の制限 , 159
 - 色による表示 / 非表示の制限 , 159
 - 計算式 , 157
 - 上位 / 下位のみ取得 , 159
 - ソート , 159
 - データの制限 , 160
 - トラフィック ライト , 157
 - 表示 / 非表示の制限 , 158
 - メンバによる表示 / 非表示の制限 , 159

へ

- ページ コントロール パネル , 44, 69
- ページの移動 , 53, 80
- 変数、個人 , 156

め

- メイン表示パネル , 42, 68
 - 右クリック , 45
 - リサイズ , 72
- メンバによる表示 / 非表示の制限分析ツール , 159

も

- モード
 - データの編集 , 40, 67
 - 標準 , 36, 64
 - ラベル , 161
 - レポートのデザイン , 41

ゆ

- ユーザ インターフェイス
 - HTML Web Client でのスタイル設定 , 73
 - HTML Web Client のコンポーネントの非表示 , 71
 - Java Web Client での非表示 , 45
- ユーザの種類 , 22

ら

- ラベルのモード , 161

り

- リレーショナル データ , 162
- リレーショナル ドリルスルー , 162
- リンクされたレポート オブジェクト , 163

れ

- 列サイズ , 56
- 列と行、値の欠如したものの除去 , 161
- レベル , 29
- レポート
 - HTML Web Client での作成 , 84
 - Java Web Client での表示 , 86
 - 移動 , 48, 76
 - 印刷 , 86
 - カスタマイズ , 133
 - 作成 , 109
 - 書式 , 55
 - 配布 , 58, 83
 - 開く , 47
 - 保存 , 57, 82
- レポート、配布 , 163

索引

- レポート、リンク , 163
- レポート閲覧の管理 , 164
- レポートグループのプロパティ , 163
- レポートデータ、編集 , 85
- レポートデザイナー , 24
- レポートの印刷 , 165
- レポートのデザインモード , 41
- レポートの配布 , 163, 164
- レポートの表示形式 , 76
 - 概要 , 49
 - 変更 , 51, 79
- レポートのプロパティ , 164
- レポートへのリンク , 163
- レポートマネージャ , 70
- レポジトリ , 19

ろ

- ログオフ , 86